

統計及び諸表一 一般關係

Table with 3 columns: Year (昭和), Category (昭和生活者, 労働者, etc.), and Value. Data for 昭和十二年 (1937).

Table with 3 columns: Year (昭和), Category (昭和生活者, 労働者, etc.), and Value. Data for 昭和十一年 (1936).

Table with 4 columns: Prefecture (府縣別), Category (昭和生活者, 労働者, etc.), and Value. Data for 1937.

Table with 2 columns: Region (福 岡, 神 戸, etc.) and Value. Data for 昭和十一年 (1936).

本邦労働人員及賃銀指數

Table with 5 columns: Region (工場, 工務, 鑛山, 工場地方別), Category (昭和人, 昭和九), and Value. Data for 昭和十一年 (1936).

Table with 3 columns: Country (國別), Year (一九三六年, 一九三七年), and Value. Data for 世界アルミニウム産額 (World Aluminum Production).

世界アルミニウム産額

Table with 3 columns: Country (國別), Year (一九三六年, 一九三七年), and Value. Data for 世界銅鑛産額 (World Copper Production).

世界銅鑛産額

Table with 3 columns: Country (國別), Year (一九三六年, 一九三七年), and Value. Data for 世界ファイバアール産額 (World Fiber Production).

世界ファイバアール産額

Table with 3 columns: Country (國別), Year (一九三六年, 一九三七年), and Value. Data for 世界ステープル (World Staple).

本邦重要工業生産量指數

(昭工省調、昭和六—八年平均=100)

Large table with multiple columns: Product (品目), 昭和六, 七, 八, 九, 一〇, 一一, 一二, 昭和一三, 三. Lists various industrial products and their indices.

統計及び諸表一 一般關係

電 氣 一七五〇 一七五〇 一七五〇 一七五〇 一七五〇 一七五〇 一七五〇 一七五〇 一七五〇 一七五〇

瓦 斯 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇

平 均 一七五〇 一七五〇 一七五〇 一七五〇 一七五〇 一七五〇 一七五〇 一七五〇 一七五〇 一七五〇

### 各國生産指數(一九二九年=100)

年	獨逸	加拿大	米國	佛蘭	波蘭	英國	ソ聯	瑞典	日本
一九三〇	八五九	八四八	八〇七	二〇〇	一〇〇	九三	一〇〇	一〇〇	九八
一九三一	八五〇	八四八	八〇七	二〇〇	一〇〇	九三	一〇〇	一〇〇	九八
一九三二	八五〇	八四八	八〇七	二〇〇	一〇〇	九三	一〇〇	一〇〇	九八
一九三三	八五〇	八四八	八〇七	二〇〇	一〇〇	九三	一〇〇	一〇〇	九八
一九三四	八五〇	八四八	八〇七	二〇〇	一〇〇	九三	一〇〇	一〇〇	九八
一九三五	八五〇	八四八	八〇七	二〇〇	一〇〇	九三	一〇〇	一〇〇	九八
一九三六	八五〇	八四八	八〇七	二〇〇	一〇〇	九三	一〇〇	一〇〇	九八
一九三七	八五〇	八四八	八〇七	二〇〇	一〇〇	九三	一〇〇	一〇〇	九八

### 本邦労働組合 (各年末)

業種別	九	一〇	一一	一二
組合員組合	二〇	二〇	二〇	二〇
組合員組合	二〇	二〇	二〇	二〇
組合員組合	二〇	二〇	二〇	二〇
組合員組合	二〇	二〇	二〇	二〇
組合員組合	二〇	二〇	二〇	二〇
組合員組合	二〇	二〇	二〇	二〇
組合員組合	二〇	二〇	二〇	二〇
組合員組合	二〇	二〇	二〇	二〇
組合員組合	二〇	二〇	二〇	二〇
組合員組合	二〇	二〇	二〇	二〇
組合員組合	二〇	二〇	二〇	二〇
組合員組合	二〇	二〇	二〇	二〇

年次	昭和九	昭和十	昭和十一	昭和十二
死亡	七	七	七	七
重傷	一〇	一〇	一〇	一〇
軽傷	一〇	一〇	一〇	一〇
計	一七	一七	一七	一七

### 本邦職工災害

業種別	昭和十	昭和十一	昭和十二
運輸交通	一	一	一
通信	一	一	一
土木	一	一	一
其他	一	一	一
計	四	四	四

### 臨時資金調整法の實施成績

(自昭和十二年九月二十七日至十三年九月三十日)

業種別	金額	割合	計
金融機關	一〇、〇〇〇	一〇〇	一〇、〇〇〇
銀行	五、〇〇〇	五〇	五、〇〇〇
信用機關	五、〇〇〇	五〇	五、〇〇〇
其他	一、〇〇〇	一〇	一、〇〇〇
計	一〇、〇〇〇	一〇〇	一〇、〇〇〇

### 本邦製紙用パ ルプ輸入國別

國別	数量(千斤)	金額(千圓)
美國	二一	一、〇〇〇
英國	一	五〇
加拿大	一	五〇
其他	一	五〇
計	二四	一、一〇〇

原因別	昭和十一年	死亡	重傷	計
運轉機、調停、調索、車輛	一、八七五	一、八七五	一、八七五	一、八七五
原動力	一、四七五	一、四七五	一、四七五	一、四七五
鑄造機	一、四七五	一、四七五	一、四七五	一、四七五
研削機	一、四七五	一、四七五	一、四七五	一、四七五
運送機	一、四七五	一、四七五	一、四七五	一、四七五
其他	一、四七五	一、四七五	一、四七五	一、四七五
計	八、七五〇	八、七五〇	八、七五〇	八、七五〇

運轉機、調停、調索、車輛、原動力、鑄造機、研削機、運送機、其他

運轉機、調停、調索、車輛、原動力、鑄造機、研削機、運送機、其他

運轉機、調停、調索、車輛、原動力、鑄造機、研削機、運送機、其他

運轉機、調停、調索、車輛、原動力、鑄造機、研削機、運送機、其他

運轉機、調停、調索、車輛、原動力、鑄造機、研削機、運送機、其他

運轉機、調停、調索、車輛、原動力、鑄造機、研削機、運送機、其他

世界各國船舶總噸數(一九三七年六月末)

國別	汽船 隻數	汽船 噸數	帆船 隻數	帆船 噸數
イギリス	九,〇八四	三,〇三六	一,〇八二	三,〇三六
アメリカ	三,〇三六	一,〇八二	一,〇八二	一,〇八二
日本	二,八五五	四,〇三六	一,〇八二	一,〇八二
ドイツ	二,八五五	四,〇三六	一,〇八二	一,〇八二
フランス	二,八五五	四,〇三六	一,〇八二	一,〇八二
ソ連	二,八五五	四,〇三六	一,〇八二	一,〇八二
イタリア	二,八五五	四,〇三六	一,〇八二	一,〇八二
オランダ	二,八五五	四,〇三六	一,〇八二	一,〇八二
スウェーデン	二,八五五	四,〇三六	一,〇八二	一,〇八二
ギリシャ	二,八五五	四,〇三六	一,〇八二	一,〇八二
スペイン	二,八五五	四,〇三六	一,〇八二	一,〇八二
ポルトガル	二,八五五	四,〇三六	一,〇八二	一,〇八二
ベルギー	二,八五五	四,〇三六	一,〇八二	一,〇八二
その他	二,八五五	四,〇三六	一,〇八二	一,〇八二

世界の巨船

國名	入港	出港
英國	一九三六 七,〇三六	一九三六 七,〇三六
日本	一九三六 七,〇三六	一九三六 七,〇三六
アメリカ	一九三六 七,〇三六	一九三六 七,〇三六
ドイツ	一九三六 七,〇三六	一九三六 七,〇三六
フランス	一九三六 七,〇三六	一九三六 七,〇三六
ソ連	一九三六 七,〇三六	一九三六 七,〇三六
イタリア	一九三六 七,〇三六	一九三六 七,〇三六
オランダ	一九三六 七,〇三六	一九三六 七,〇三六
スウェーデン	一九三六 七,〇三六	一九三六 七,〇三六
ギリシャ	一九三六 七,〇三六	一九三六 七,〇三六
スペイン	一九三六 七,〇三六	一九三六 七,〇三六
ポルトガル	一九三六 七,〇三六	一九三六 七,〇三六
ベルギー	一九三六 七,〇三六	一九三六 七,〇三六
その他	一九三六 七,〇三六	一九三六 七,〇三六

本表に掲ぐる船舶は總噸數百噸以上のものにして英吉利及び米國は植民地を含む

世界造船高

國名	一九三六 隻數	一九三六 噸數	一九三七 隻數	一九三七 噸數
イギリス	一,〇八二	三,〇三六	一,〇八二	三,〇三六
アメリカ	一,〇八二	三,〇三六	一,〇八二	三,〇三六
日本	一,〇八二	三,〇三六	一,〇八二	三,〇三六
ドイツ	一,〇八二	三,〇三六	一,〇八二	三,〇三六
フランス	一,〇八二	三,〇三六	一,〇八二	三,〇三六
ソ連	一,〇八二	三,〇三六	一,〇八二	三,〇三六
イタリア	一,〇八二	三,〇三六	一,〇八二	三,〇三六
オランダ	一,〇八二	三,〇三六	一,〇八二	三,〇三六
スウェーデン	一,〇八二	三,〇三六	一,〇八二	三,〇三六
ギリシャ	一,〇八二	三,〇三六	一,〇八二	三,〇三六
スペイン	一,〇八二	三,〇三六	一,〇八二	三,〇三六
ポルトガル	一,〇八二	三,〇三六	一,〇八二	三,〇三六
ベルギー	一,〇八二	三,〇三六	一,〇八二	三,〇三六
その他	一,〇八二	三,〇三六	一,〇八二	三,〇三六

道府縣經濟警察官配置一覽

(昭和十三年八月三日現在)

國名	無煙炭 噸數	亞炭 噸數	計 噸數
アメリカ	一,〇八二	三,〇三六	四,一〇四
カナダ	一,〇八二	三,〇三六	四,一〇四
支那	一,〇八二	三,〇三六	四,一〇四
インド	一,〇八二	三,〇三六	四,一〇四
シベリア	一,〇八二	三,〇三六	四,一〇四
その他	一,〇八二	三,〇三六	四,一〇四
合計	一,〇八二	三,〇三六	四,一〇四

國名	府縣費	合計
北海道	一,〇八二	一,〇八二
東北	一,〇八二	一,〇八二
関東	一,〇八二	一,〇八二
中部	一,〇八二	一,〇八二
近畿	一,〇八二	一,〇八二
四国	一,〇八二	一,〇八二
九州	一,〇八二	一,〇八二
その他	一,〇八二	一,〇八二
合計	一,〇八二	一,〇八二

Table with columns for various regions (山廣岡島島富石福秋山青岩福宮長岐滋山靜愛三奈柳茨千群崎) and rows for different metrics (件数, 人員, etc.).

Table titled '本邦事業の休、廢止狀況' (Status of Suspension and Cancellation of Domestic Enterprises) with columns for regions and types of enterprises.

本邦事業の休、廢止狀況

(昭和十三年八月二十日現在)

Table titled '事業休止' (Suspension of Enterprises) with columns for types of enterprises (皮革, ゴム, etc.) and rows for various regions.

操業短縮

Table showing '操業短縮' (Reduction of Operations) with columns for categories like 件数 (Number of cases) and 人員 (Personnel).

統計諸法令違反檢舉狀況

(昭和十三年八月十五日現在)

Table showing '統計諸法令違反檢舉狀況' (Status of Reporting of Statistical Laws Violations) with columns for inspection types and counts.

世界煙草産額

Table showing '世界煙草産額' (World Tobacco Production) with columns for countries and production amounts.

統計及び諸表—一般關係

世界の捕鯨及び鯨油産額

Table showing '世界の捕鯨及び鯨油産額' (World Whaling and Whale Oil Production) with columns for regions and production amounts.

本邦労働賃銀指數

(昭和省調、全平均、大正一〇—二二—一〇〇)

Table of labor wage indices for various industries and years (昭和元 to 昭和八).

本邦労働競争議

(同盟意識業又は工場閉鎖に至らざるものを除く)

Table of labor competition statistics categorized by industry and year.

經濟違反檢舉人數

(昭和十三年九月末現在司法省調査)

Table of economic violation reports by prefecture.

東京、大阪労働賃銀

(昭和省調、最高、最低とけ労働賃別に、見たる年平均賃銀の最高、最低の意)

Table of labor wage statistics for Tokyo and Osaka, categorized by industry.

本邦労働手帳交付数

(昭和十二年末)

Table of labor handbook distribution statistics by region and gender.

種別	昭和一〇	昭和一〇一一	昭和一〇一二	昭和一〇一三
川崎市	一〇	一一	一二	一三
平塚市	一〇	一一	一二	一三
神戸市	一〇	一一	一二	一三
名古屋市	一〇	一一	一二	一三
名古屋市	一〇	一一	一二	一三
長崎市	一〇	一一	一二	一三
松本市	一〇	一一	一二	一三
仙臺市	一〇	一一	一二	一三
若松市	一〇	一一	一二	一三
盛岡市	一〇	一一	一二	一三
盛岡市	一〇	一一	一二	一三
福島市	一〇	一一	一二	一三
福島市	一〇	一一	一二	一三
高知市	一〇	一一	一二	一三
宇部市	一〇	一一	一二	一三
下関市	一〇	一一	一二	一三
小倉市	一〇	一一	一二	一三
若松市	一〇	一一	一二	一三
戸田市	一〇	一一	一二	一三
八幡市	一〇	一一	一二	一三
直方市	一〇	一一	一二	一三
飯塚市	一〇	一一	一二	一三
鹿兒島市	一〇	一一	一二	一三
合計	一〇	一一	一二	一三
昭和一一	一〇	一一	一二	一三

本邦重要物産同業組合

種別	昭和一〇	昭和一〇一一	昭和一〇一二	昭和一〇一三
農産組合	一〇	一一	一二	一三
工業組合	一〇	一一	一二	一三
山林業	一〇	一一	一二	一三
水産業	一〇	一一	一二	一三
計	一〇	一一	一二	一三

本邦商、工業及輸出組合

種別	昭和一〇	昭和一〇一一	昭和一〇一二	昭和一〇一三
信用組合	一〇	一一	一二	一三
販賣組合	一〇	一一	一二	一三
購買組合	一〇	一一	一二	一三
利用組合	一〇	一一	一二	一三
販賣購買組合	一〇	一一	一二	一三
計	一〇	一一	一二	一三

本邦産業組合

種別	昭和一〇	昭和一〇一一	昭和一〇一二	昭和一〇一三
組合員	一〇	一一	一二	一三
携込済出資	一〇	一一	一二	一三
準備及積立	一〇	一一	一二	一三
借入金	一〇	一一	一二	一三
貯金	一〇	一一	一二	一三
貸出金	一〇	一一	一二	一三
販賣金	一〇	一一	一二	一三
購買金	一〇	一一	一二	一三
利用料	一〇	一一	一二	一三
預け金	一〇	一一	一二	一三
有價証券	一〇	一一	一二	一三
現金	一〇	一一	一二	一三
計	一〇	一一	一二	一三

本邦鹽製造許可現在高

(昭和十三年四月一日現在)

年次	外國鹽		臺灣鹽	
	數量 (千斤)	價值 (千圓)	數量 (千斤)	價值 (千圓)
昭和一〇	一、〇二七、七六	一四、八四七	九、八二一	一、九七九
昭和一〇一一	一、二九三、二六	一五、三三三	一、九七九	一、七五〇
計	二、三二一、〇二	三〇、一八〇	一、七五〇	三、九二九
再製鹽	一、二二二	三、〇〇三	一、七五〇	三、九二九
總計	三、二四三	三三、一八三	三、五〇〇	七、八五八
外國鹽	二、〇二七、七六	二四、八四七	一、〇七三、二六	一、九七九
臺灣鹽	一、二一五、二六	一五、三三三	一、九七九	一、七五〇
計	三、二四三	三三、一八三	三、五〇〇	七、八五八

本邦輸移入鹽購買高

(昭和十三年四月一日現在)

國名	一九二七年	一九二八年	一九二九年
	マレー諸州	三、七〇七	六、六六六
ボルネオ	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
バシカ島	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
中華民国	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
シヤム	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
ナイヂエリア	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
オーストラリア	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
イギリス	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
ベルギー領コンゴ	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
合計	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

世界錫鑛産額

合計額 一、〇〇〇、〇〇〇 千圓

世界モリブデン産額

國名	一九二七年	一九二八年	一九二九年
アメリカ	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
ノールウェー	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
メキシコ	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
佛領モロッコ	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

世界タンクス

國名	一九二七年	一九二八年	一九二九年
ソウエート	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
支那(輸出)	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
英領印度	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
アメリカ	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
マレー諸邦	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
ボリビア	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
ポルトガル	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

工業生産量指數 (昭和六、七、八、三ヶ年月常平均を100とす)

Table of industrial production indices for various goods from July 1931 to July 1935. Columns include '品目' (Goods), '昭和十二年' (1931), '昭和十三年' (1932), and months from July to July. Rows list items like 綿織物, 絹織物, 毛織物, etc.

世界マンガン 鑛産額

Table of world manganese production by country for 1934 and 1935. Countries listed include 英國, ソヴェート, 英領印度, etc.

世界ダイヤモンド産額

Table of world diamond production by country for 1934 and 1935. Countries listed include 南アフリカ, ブラジル, 日本, etc.

月別總指數 平均

Table of monthly general indices from January 1931 to July 1935. Columns show months and years, and rows show the index values.

本邦會社數 (昭和十一年末)

Table of the number of Japanese companies by industry type at the end of 1931. Categories include 農産, 水産, 工業, 運輸, 昭計, etc.

世界各國道路 (一九三五年算)

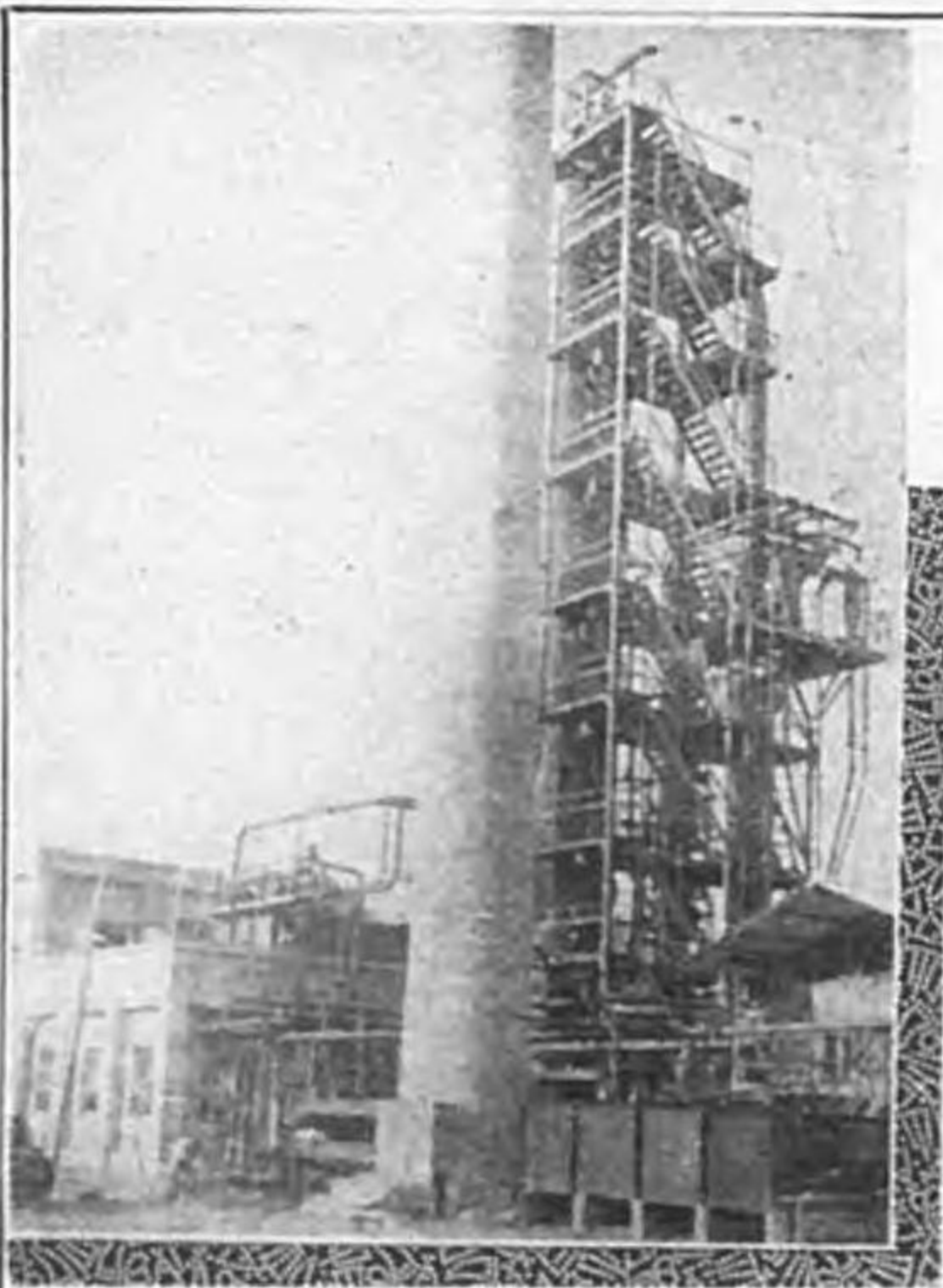
Table of road lengths in various countries for 1935. Countries listed include 英國, フランス, ドイツ, etc.

組織別 (昭和十一年末) △印には相互會社を含む

種別	合名			株式			株式合資		
	社數	資本 千圓	株數	社數	資本 千圓	株數	社數	資本 千圓	株數
農産	三〇四	六、五五五	一、三三三	一、三三三	一、五〇三	一、三三三	一	一、〇〇〇	一
水産	三〇	九七三	一四	一四	三、〇〇〇	一〇	一	一、〇〇〇	一
工業	三三	三、四八五	一三	一三	六、八四〇	一〇	一	一、〇〇〇	一
商業	六、〇〇〇	三、六三三	一、九三三	一、九三三	一、〇〇〇	一〇	三	三、〇〇〇	三
運輸	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三	三	三、〇〇〇	三
昭和計	一七、五二一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇	一〇	一、〇〇〇	一〇
昭和九	一四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇	一〇	一、〇〇〇	一〇
資本金別 (同上)	一七、五二一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇	一〇	一、〇〇〇	一〇
種別	合名	株式	株式合資	合名	株式	株式合資	合名	株式	株式合資
五萬圓未満	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九
十萬圓未満	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九
五十萬圓未満	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九
百萬圓未満	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九
五百萬圓未満	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九
一千萬圓未満	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九
一千萬圓以上	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九	一、三六九
計	一七、五二一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇	一〇	一、〇〇〇	一〇

種別	社數	資本 千圓	株數
ウルガイ	三〇	一、〇〇〇	一
阿弗利加	三〇	一、〇〇〇	一
南阿聯邦	三〇	一、〇〇〇	一
アルゼリア	三〇	一、〇〇〇	一
エチオピア	三〇	一、〇〇〇	一
埃及	三〇	一、〇〇〇	一
スーダン	三〇	一、〇〇〇	一
白領コンゴ	三〇	一、〇〇〇	一
モザンビク	三〇	一、〇〇〇	一
歐洲	三〇	一、〇〇〇	一
地中海	三〇	一、〇〇〇	一
白耳	三〇	一、〇〇〇	一
チエツコ	三〇	一、〇〇〇	一
丁蘭	三〇	一、〇〇〇	一
佛蘭西	三〇	一、〇〇〇	一
獨逸	三〇	一、〇〇〇	一
伊太利	三〇	一、〇〇〇	一
和蘭	三〇	一、〇〇〇	一
波蘭	三〇	一、〇〇〇	一
羅馬尼亞	三〇	一、〇〇〇	一
ソ聯邦	三〇	一、〇〇〇	一
西班牙	三〇	一、〇〇〇	一
英吉利	三〇	一、〇〇〇	一
ユーゴ	三〇	一、〇〇〇	一
大洋洲	三〇	一、〇〇〇	一

### 製油工業用機械



(真空蒸溜装置作業状況)

#### — 製作種目 —

機械及起重機 輸送機、及起重機  
 高圧ガス圧搾機 各種往復ポンプ  
 各種攪拌機 各種攪拌機  
 工業用機械 各種攪拌機  
 蒸溜及蒸發装置 各種攪拌機  
 消火装置 各種攪拌機  
 乾燥機 各種攪拌機  
 各種攪拌機 各種攪拌機

合名會社



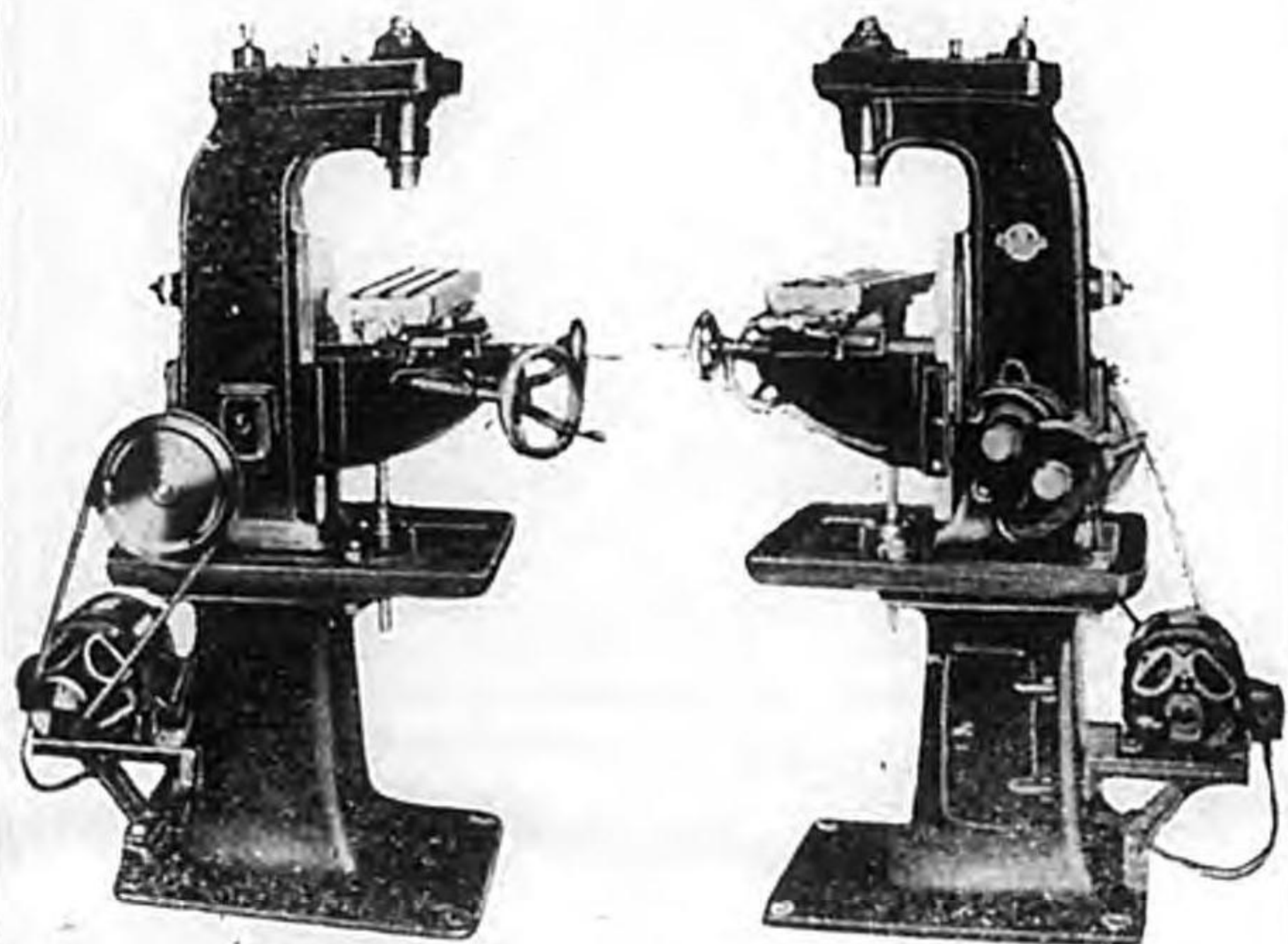
# 小久保製作所

東京市城東區大島町二丁目二九六  
 電話本所 2788-6932



VERTICAL MILLING MACHINE

1/2 Hp Moter Drive



— 型 錄 贈 呈 —

歐米機械工具輸入並製作販賣



番田幸介商店

營業所 東京市麻布區新堀町七番地  
電話三田②二二五九・六七三  
第一倉庫 麻布區新廣尾町二丁目百十番地  
第二倉庫 麻布區三ノ橋際  
第三倉庫 芝區三田松坂町四六ノ五  
陳列場 麻布古川橋機械工業館



最高の品質



最古の歴史

板・棒・線・管

乞 御 照 會

人 絹 及 化 學 用

E.C モネルメタル製

E.C ニツケル1號3號製

純 ニ ツ ケ ル 製

燐 青 銅 製

耐酸

金 網

ボ ー ル ト

ナ ッ ト

ス プ リ ン グ

陸海軍省指定工場

東京イーシー工業株式會社大阪出張所

大阪市西區阿波座中通一丁目三六(電停前)

電話新町345・3200番

本社及工場 東京市世田ヶ谷區池尻町



# へびーろーど

## 被覆電極棒

鋼構造物、軟鋼板ノ熔接  
及壓力タンク火造加工品ニ適當

大阪市西成區新開通四丁目三六

### 太陽電極棒製作所

電話天下茶屋三二八六番  
振替口座大阪七五九八〇番

# 請機械鑄造加工



## 合資社 岡田鑄造工場

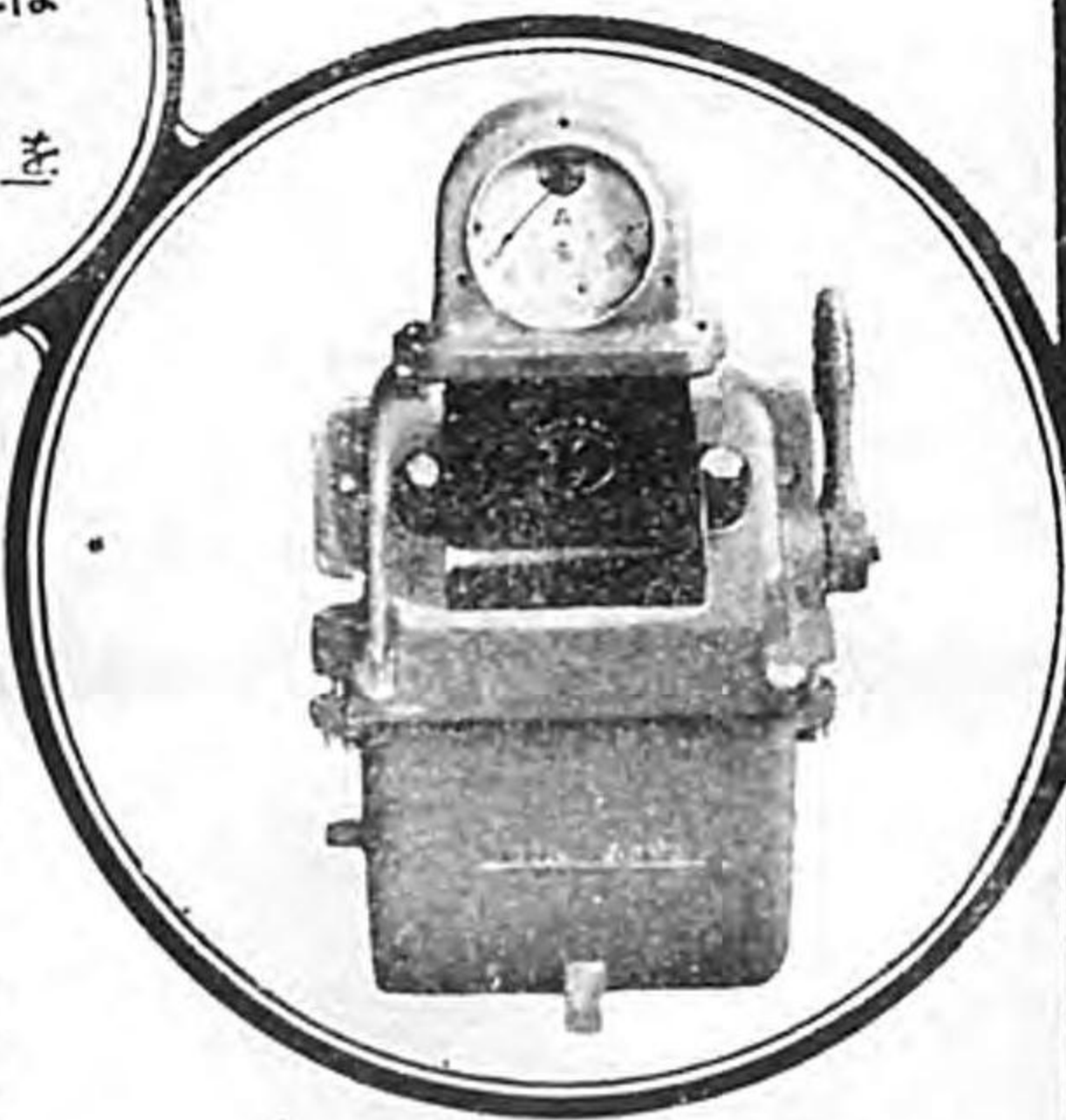
大阪市此花區恩貴島南ノ町

電話土佐堀二四八六・二六〇四番  
振替口座大阪七六一〇二番

個分工場 大阪市西淀川區佃町四五番地・電話福島二六二二番  
兼名分工場 伊勢桑名市西福島・電話桑名九二二番

# 泰東式 手動全密閉型油入開閉器

生産の  
再擴張時代には  
完全なる  
保安装置を



#### 目録只圖電主

特泰泰泰泰泰泰  
殊東東東東東東  
型式式式式式式  
各押押小手电信  
種卸卸型動全磁燈  
開卸型！油密閉住  
閉連小閉閉配電  
器開斷油開入配  
及配閉電開閉電  
電電閉閉閉電  
盤器面器器器盤南

關東唯一の専門工場

〔登錄贈呈〕

## 泰東社工場

東京・蒲田・今泉町 電話蒲田4116番  
本社 東京・其巻・服部・電話長至1321・2151・2977・5210番  
出張所 大阪・東淀川・木川西ノ町 名古屋・東・久屋町

株式會社

# 國產部品製作所



航空機自動車部品  
卓火栓発火試験器  
電機用品入平の千類

東京市渋谷区八幡通二丁目十五番地  
電話渋谷(46)2137・2138・2139番

## 高級齒切

齒車ハ

精密ニ正確ニ!



齒車ハ  
機械ノ生命!

## 古川鐵工所

東京市大森區大森九丁目四三〇〇番地・電話大森(06)二一〇九番  
麻布工場 東京市麻布區富士見町四五・電話三田②二六三九番



本社



イチビンシ印各種チェーン製造元  
K O X 印 グリスカッブ製造元  
高級マリエブル 各種鋳物鑄造各種加工品

## 小早川可鍛工業株式會社

本社 本所區麩橋三丁目二十八番地  
電話墨田④4262番・振替東京88377番  
第一工場 本所區麩橋三丁目二十八番地  
第二工場 荒川區尾久町一丁目  
第三工場 江戸川區西小松川一丁目  
仕上工場 本所區麩橋二丁目九番地



# 極めて精度高く技術優秀

(實物御一覽ヲ乞フ)



7呎英式強力旋盤

海軍工廠御指定

## 中村機械工作所

大阪市北區東野田八丁目六一  
電話 堀川 四三四七番

フリクション  
ベンチドリル



日本機械學會制定精度の第一種合格!

800-3000 電話 堀川 四三四七番

## 斯界の權威……最古の歴史

### フォードのパーツと用品の店

各年式に涉り在庫豊富

各種自動車部分品・用品並ニ工具類

直輸出入製作卸

## 大 恭 商 會 本 店

大阪市此花區上福島中二丁目七五  
電話 福島 九二九・一五五八番  
振替 大阪 五九七二 一 番

## ルキンルチューブ

計高瓦油  
量壓蒸送  
器蒸汽用  
田用用



醫吸空電  
療送氣線  
器水被  
用用用

# 東 洋 商 會

芝 浦 区 芝 浦 三 丁 目 三 十 番 地  
東 京 東 區 口 替 橋 六 番 地 三 五 (S7) 庄 館 話 電



## ルキンルシャ万能機



### 製品種目

各種 リンクチェーン  
各種 ピントルチェーン  
マルエブルローラーチェーン  
スプロケットホイール  
各種 パケツト  
常善高級マルエブル



## 東京リンクチェーン研究所

### T.U 常善工場

營業所 第一工場 東京市深川區住吉町一丁目四番地  
電話本所 四三五・發信電略(チユ)  
鑄造工場 第二工場 東京市本所區綠町一丁目七番地  
電話本所 四五〇九番  
機械工場 第三工場 東京市深川區住吉町一丁目四番地

製造品目

隔測温度記録計及自働調節器  
 壓力記録計及自働調節器  
 流量指示記録計及自働調節器  
 液面指示及自働調節器  
 高壓化學工業温度壓力自働操作裝置  
 工業用瓦斯壓自働制禦裝置

株式會社 長谷川計器製作所

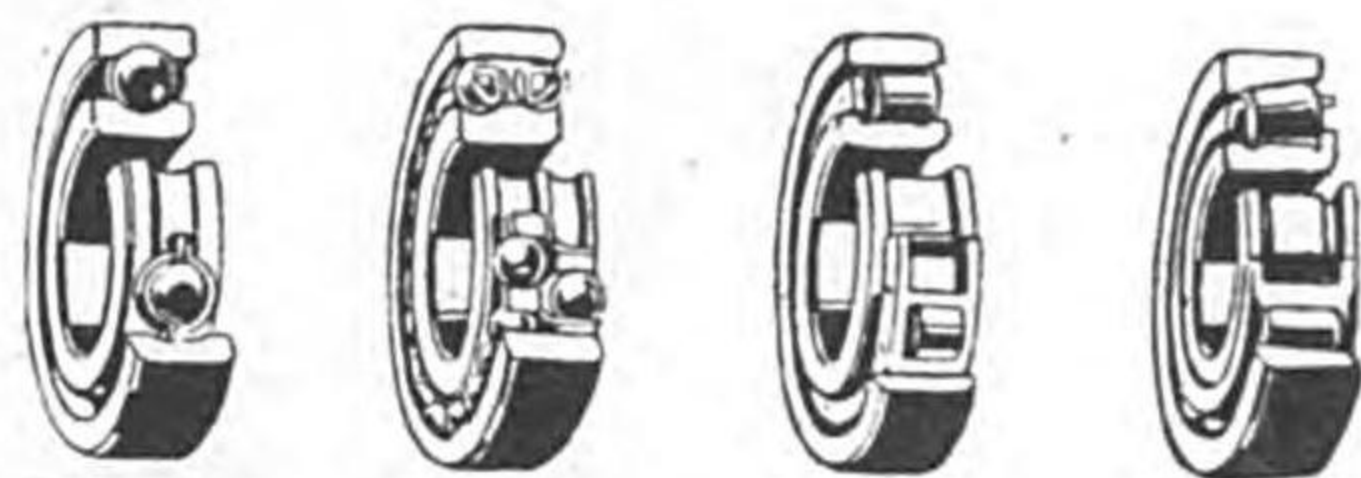
東京市蒲田區下丸子町一八七番地  
 電話大森(06)六七〇四番・蒲田二一七八番

一手販賣

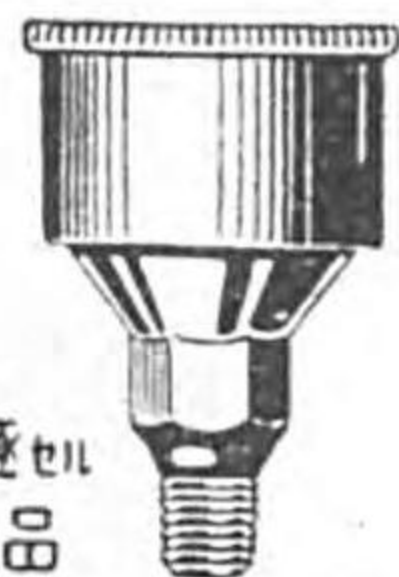
株式會社 島津製作所工業計器部

NTN

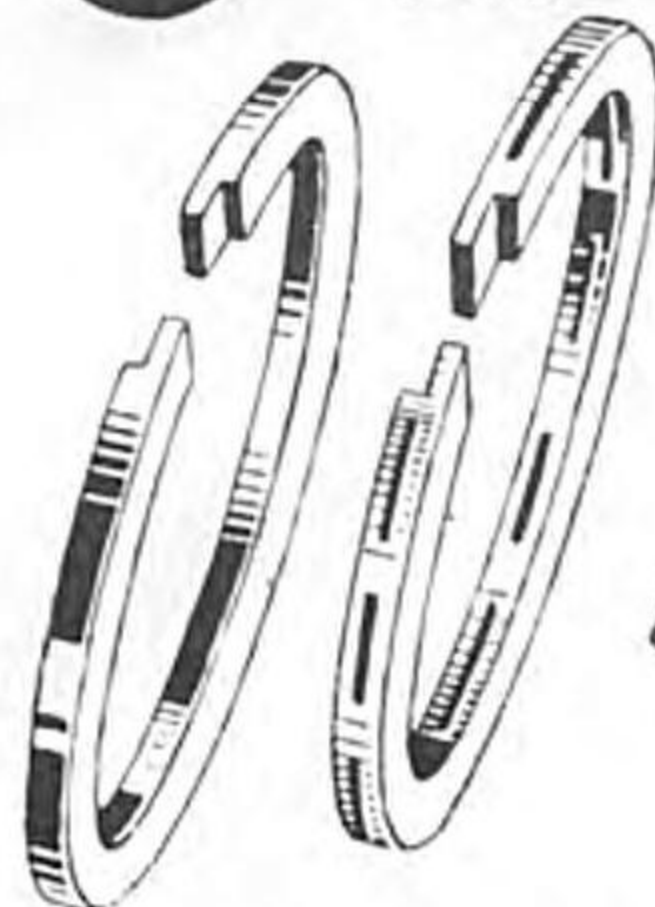
ボール・ローラーベアリング



オリンピア  
クリース カップ



完全舶來品ヲ駆逐セル  
代表的國産優良品



SPEED  
ピストンリング

ベルトと附屬品一式

堀田作次郎商店

東京市芝區本芝一ノ七 電話三田(45)一六九五

エナメル電線製造  
絶縁塗料製造  
其他特殊塗料



吉田化学製品所

大阪市南区東畷町四〇  
電話東三七三四番  
振替大阪二三二五九番

株式會社

高尾鐵工所

神戸市葺合區吾妻町三丁目

日昭ライト板

(電氣絶縁用)

電氣絶縁機械部分品 一般工作用筒・棒

日昭化粧板

(建築家具用)

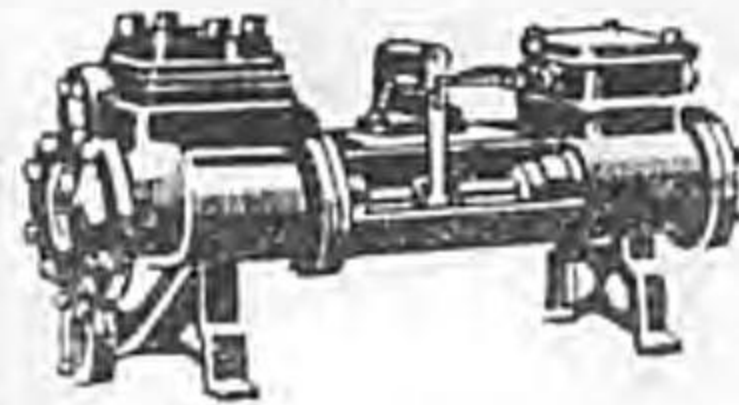
家具建築・其他近代的諸設備一般

色彩—優美 光澤—溫雅 意匠—嶄新  
耐酸・耐アルカリ・耐熱・耐水・耐油・耐アルコール  
寸法—1 尺・1 米 突 × 2 米 突  
褐色・刺繍・曲歪ノ愛ナシ

—(別刷型録及見本送呈)—

日昭ライト工業株式會社

京都市外東海道線神足驛前  
電話 神足二三番



鉄筒・継手・脚筋  
ハルフ・コック・水栓類  
製造問屋

株式會社 古林商店

大阪市東區本町三丁目三番 電話西1735・長1757・3971番  
機大42391番・受電登記(オサカニシツギテ)發信號(フ)

是非一度  
法照會社

品價價格共に  
他の連位と許さず

主要營業種目

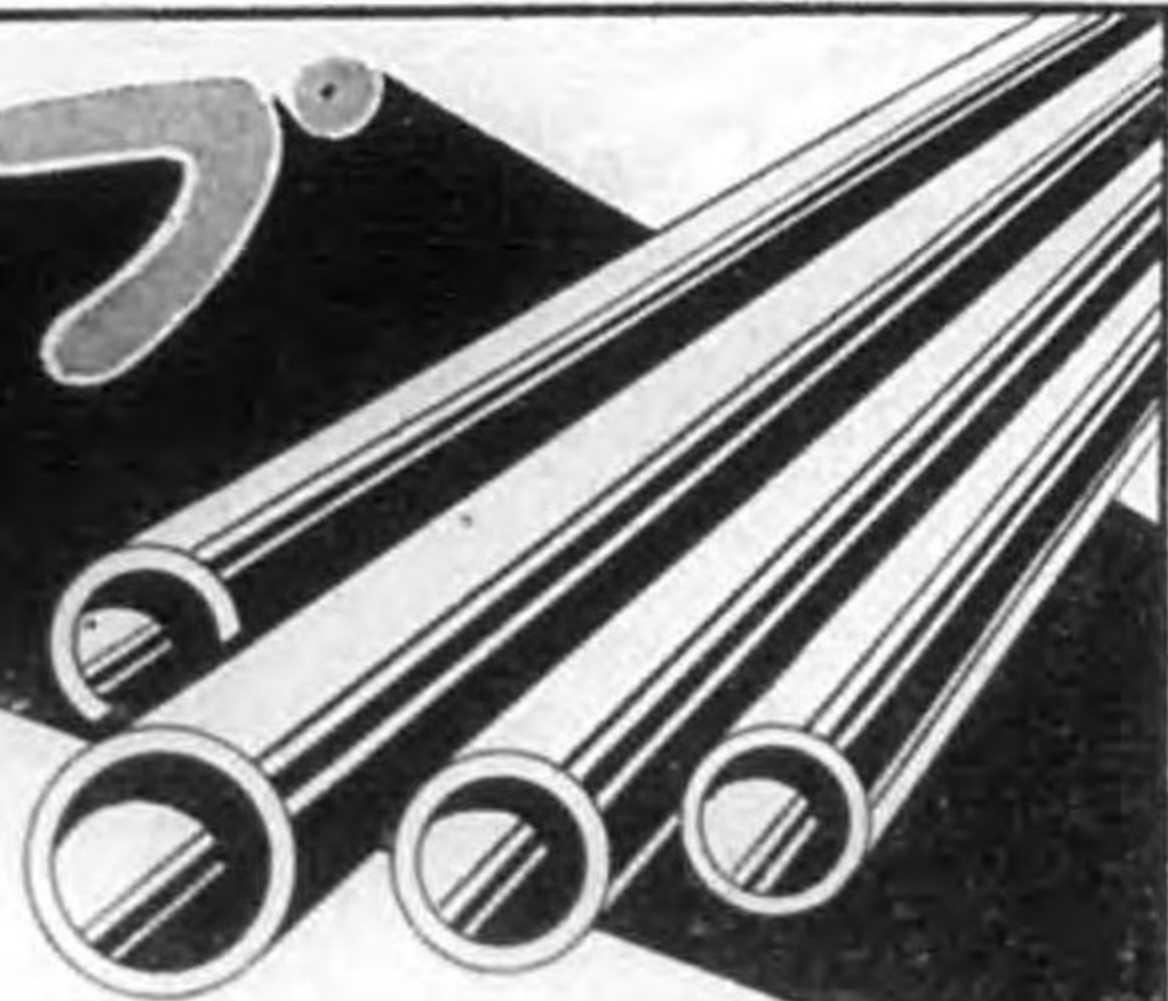
ナチ印 金切鋸刃、ドリル  
 キストン印 旋盤チヤツク  
 クランク印 バイブレンチ

三木市商店

三木市三郎

大阪市西區立賣堀北通六丁目  
 電話新町⑤ 二七五三番  
 振替大阪七八九〇九番

パイプ



鋼管商

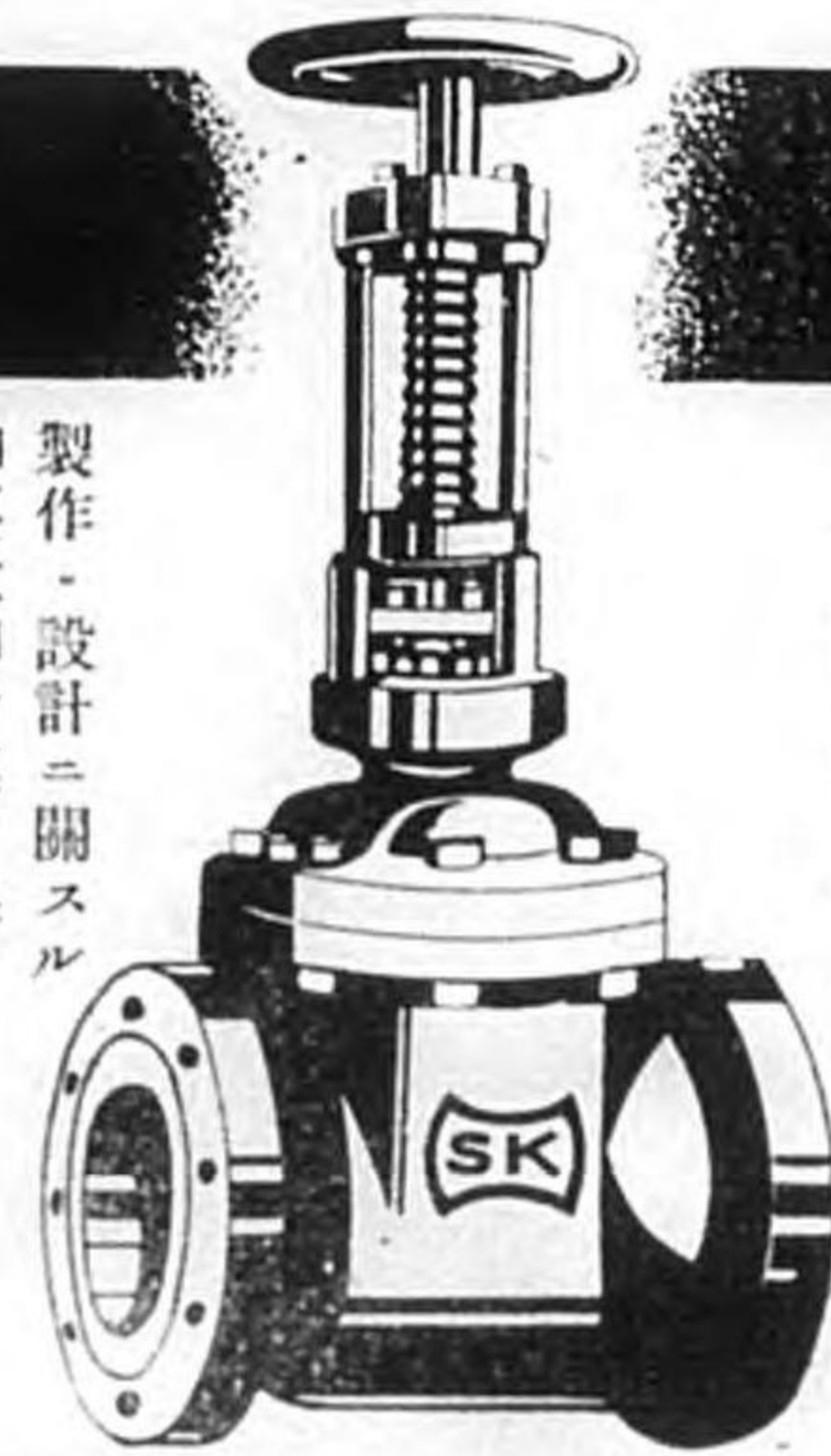
大西三郎商店

大西三郎

大阪市西區西長堀北通五丁目七番地  
 電話新町⑤ 二八八番

SPECIAL VALVES & COCKS

特殊バルブ



専門製作

製作・設計ニ關スル  
 御要求御指導ヲ俟ツ

倉田商店

大阪市西區立賣堀北通五丁目 電話新町一一六九番

工場 大阪・彦根

特許プリヨー



實用リミットゲージ



特許プリヨー

**HRD**

紡織機械部分品傳導装置一式 機械工具金物機械

各種リミットゲージ 特許プリヨー

製造發賣元

**原田商店**

大阪市港區古川町一九番地  
電話西三八八八番 振替大阪二六八〇九番

航空機發動機用

精密部分品

各種

**鋼管瓦斯管**

寸法切斷

引拔鋼管、フラン管、ステー管  
高壓管、ロール用厚管、瓦斯管  
捻子無瓦斯管、建築手摺用管、  
リヤーカー用管、大徑鋼管、大  
徑瓦斯管、汽機用鋼管、自轉車  
管、紡績用鋼管、製氷機用鋼管  
中古類各種其他附屬品一式

**近藤要商店**

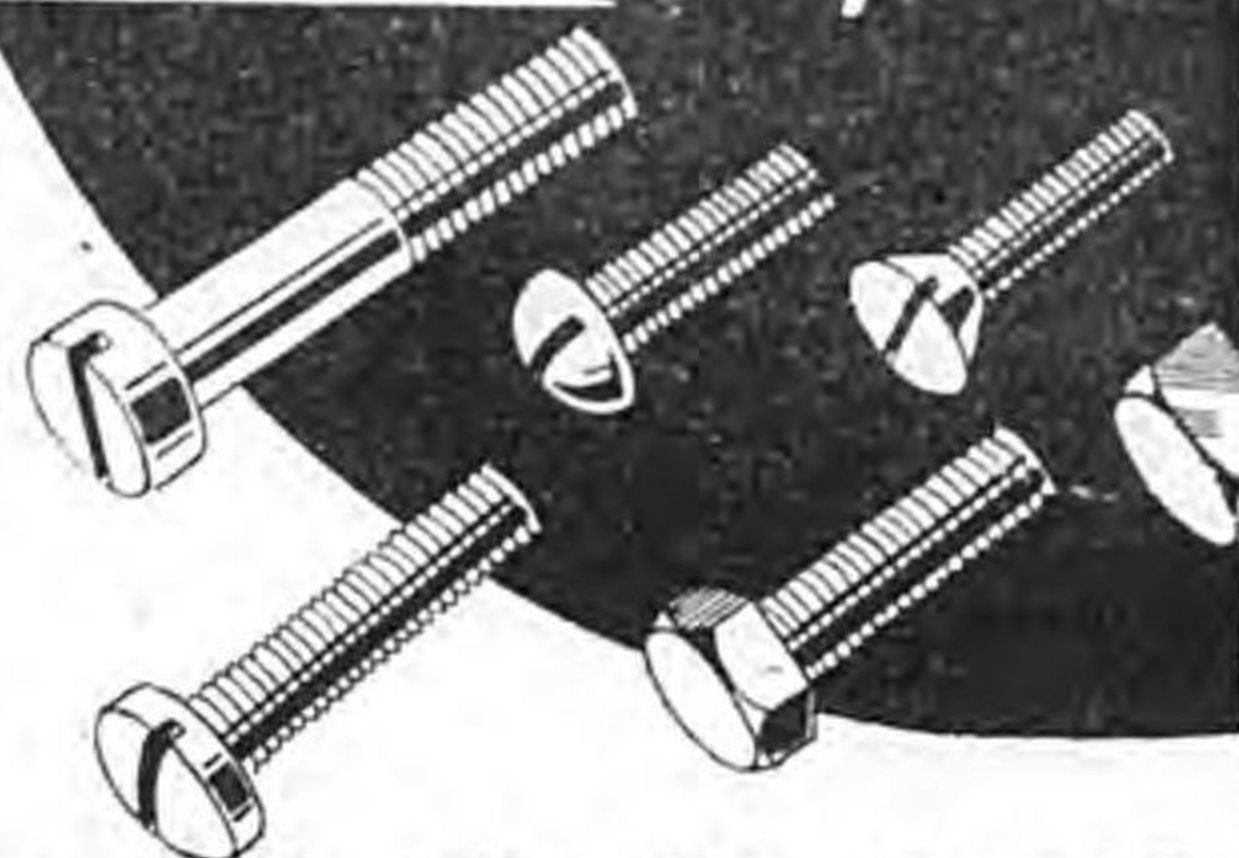
大阪市西區立賣場北通リ七丁目四〇  
電話新町③三三三七番 四一七五番  
電路「コ」又ハ「コント」  
振替口座大阪三六五三五番  
工場 西區立賣場北通リ七丁目三九

中八一

**金屬 挽物・抜物**



ボルトナット・各種精密  
螺旋・船舶・自動車・乾電  
池・蓄電池・電氣・瓦斯器  
附屬金具及各種挽物・イモ  
ノ・抜物



日本標準規格  
(海軍省及鐵道省基本)  
ミリ捻製作

**勝田螺旋製作所**

營業所及第一工場 大阪市東成區白鳥町一丁目二六 電話東③三五五七番  
第二工場 大阪市東成區北中津町二丁目六四

**超高級JOK**

**自動調節メタル**

各種

**チエイニ**



高速度用サイレントチエイニ  
輸送機用・捲揚用・紡織機用

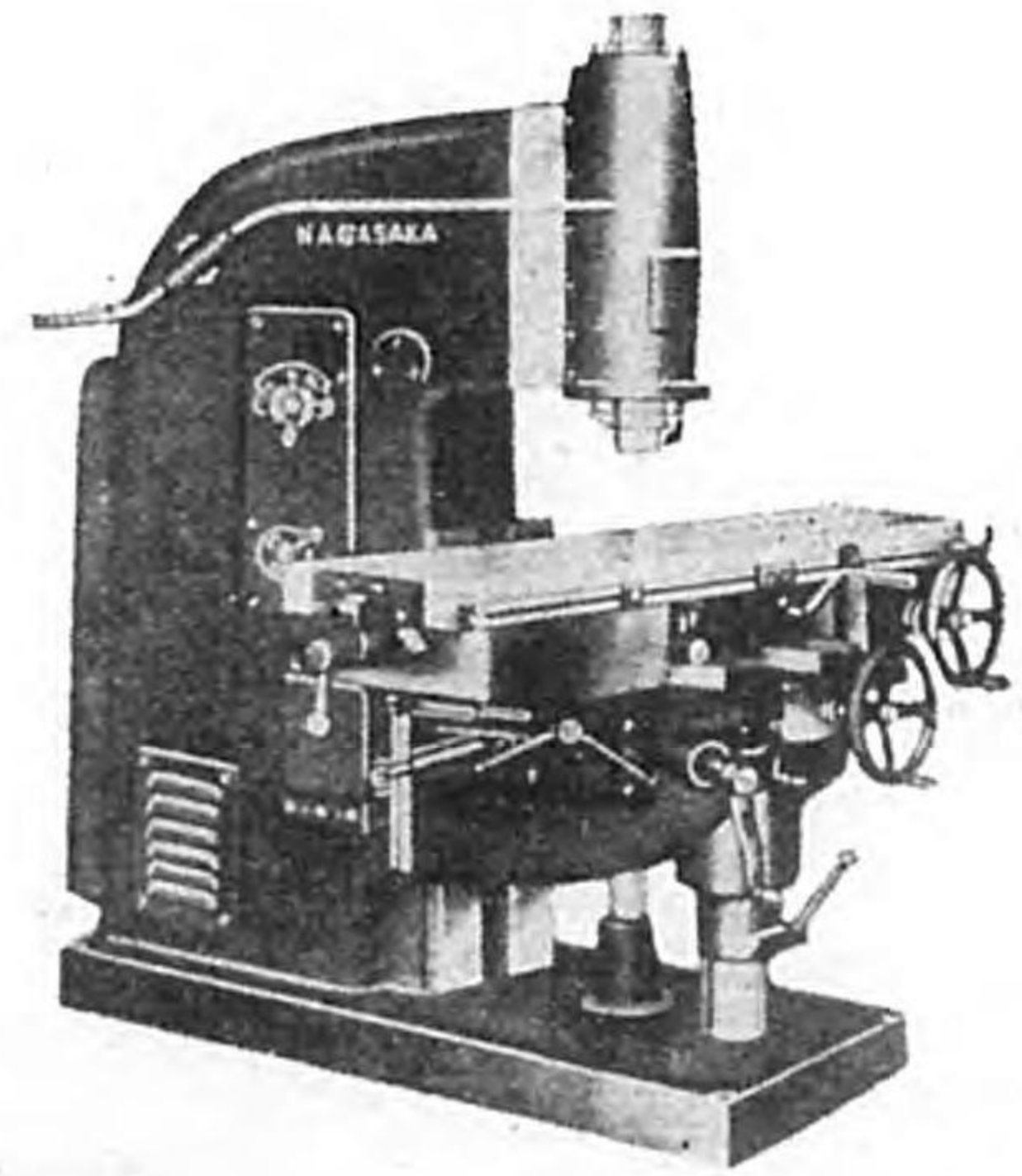
**多田雄一商店**  
大阪市西區新町南通五丁目四 電話新町63番

中八〇



# 精密研磨機専門製作

No.2 豎型ミーリングマシン之寫真



## 長坂鐵工所

大阪市東淀川区新高南通一丁目ノ一三番地  
電話 三 〇 二 七 九 番

中一八二



### 營業種目

旋盤・鋸盤・歯車  
建築材料器具  
リフト・ボールト  
ナット・各種工具  
品質優良・作業豊富

## 岩田商店

神戸市葺合區北本町通三ノ一七  
電話葺合③一三四四番  
振替口座神戸二二四九番

コンチツトチユーブ並附属品  
引抜代用磨管・瓦斯熔接管  
フレキシブルチユーブ並シャフト  
日の本パイプ製造所發賣元



## 先山商店

工場出張所  
大阪府西區藤原場南ノ町一  
電話新町四六一番  
大阪府中河内郡枚岡字額田  
神戸市葺合區葺合町四ノ二

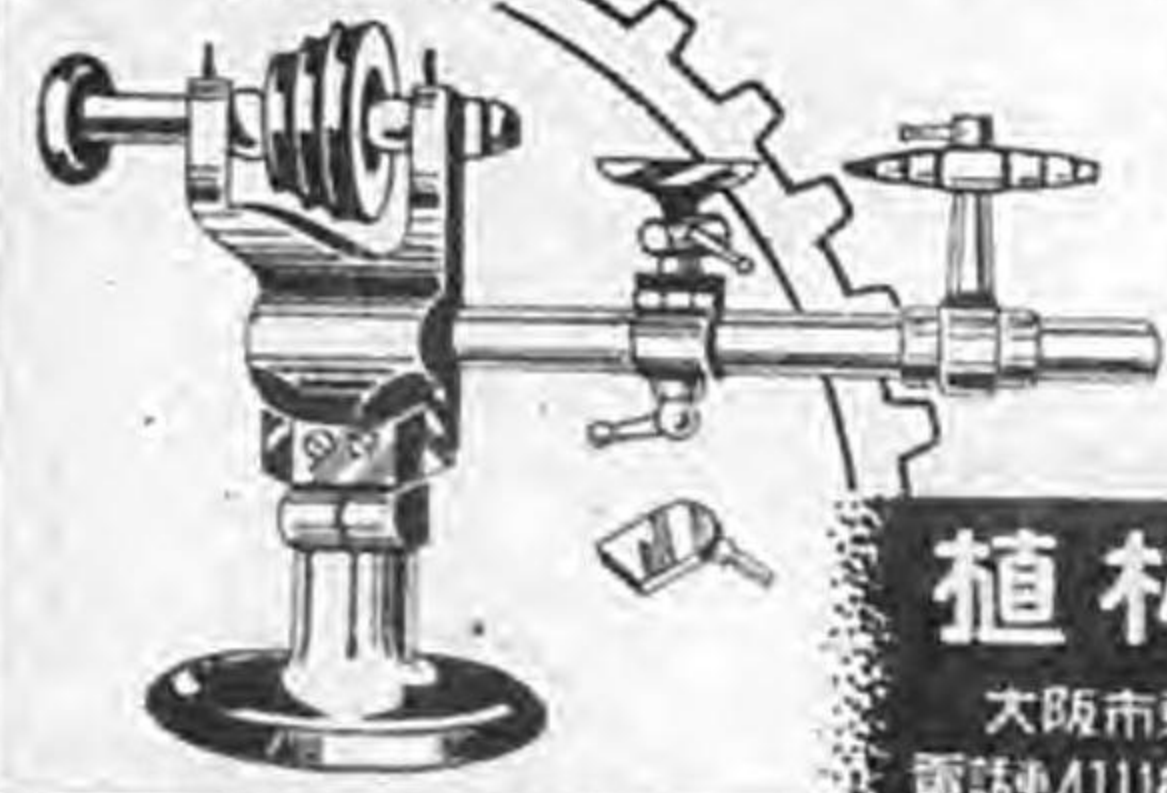
卓上旋盤  
魚印鑪  
ドリル  
系鋸及

ジーボレー會社製  
アトイングラードン會社製  
スタンダードツル會社製  
ヘルフレス會社製

寫真機用諸齒車  
メーター用諸齒車  
其他精密齒車  
及部分品

## 植材時計店

大阪市東區釣鐘町二丁目三〇  
電話東4111番 中央郵便局私書函195号



中一八三

# N.B.S.

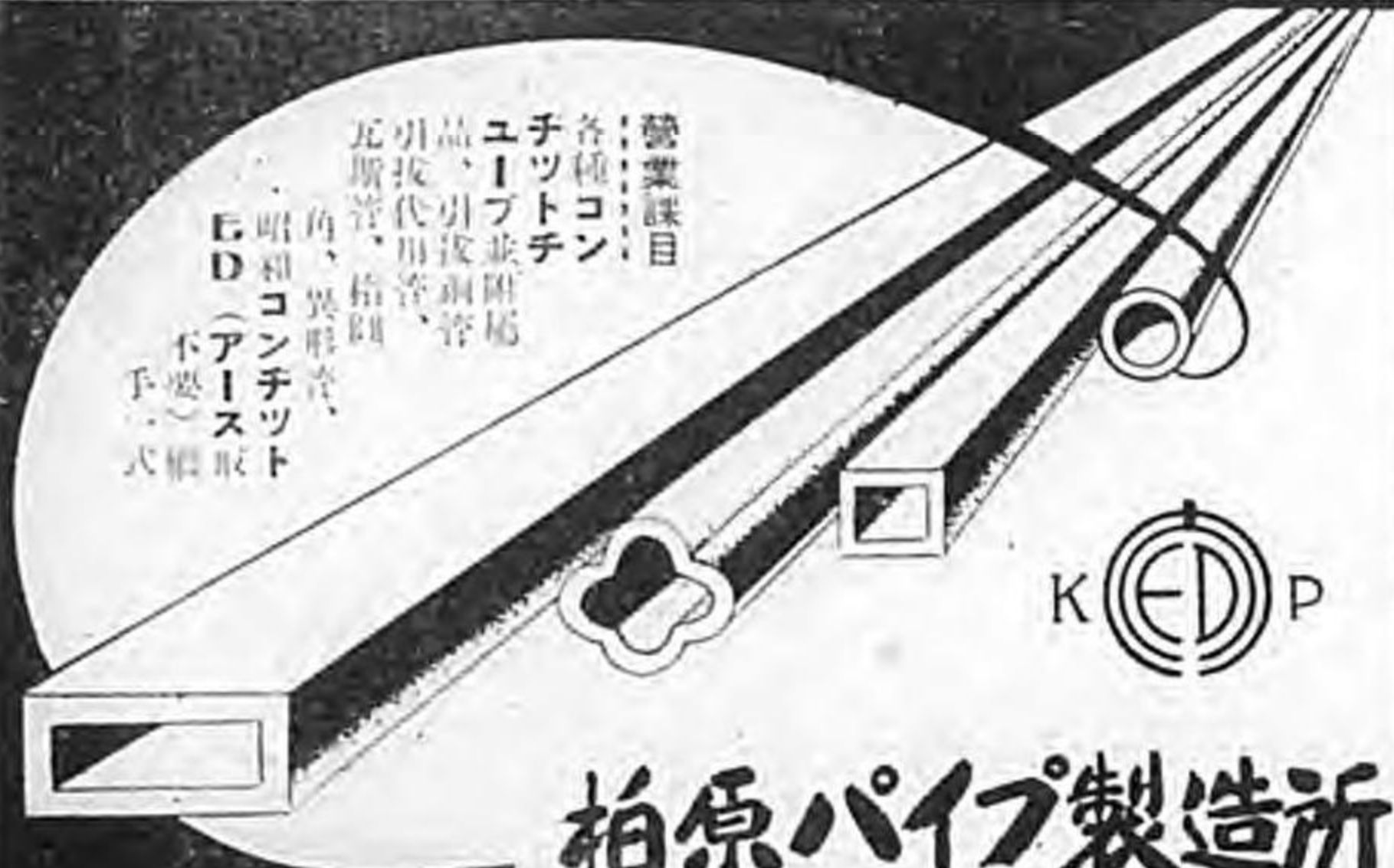
ボールベアリング



高級ボールベアリング製作

## 二宮軸承商會

大阪市西區島津町八番地 電話新町@4436番



營業課目  
各種コン  
チツトチ  
ユイブ並  
品、引抜  
引抜用管、  
瓦斯管、  
角、異形管、  
昭和コン  
ED (アイ  
不要) ス  
手、式

K (E) P

## 柏原パイプ製造所

營業所 大阪市西區立賣場北通三丁目  
電話新町五五六・九四七・四一〇五番  
振替口座大阪五一三一六番  
直營工場 大阪市浪速區友物町

中八五

# NKS

各種ボールベアリング販売  
NKS スチールローラー製



## 浪速興業所

大阪市東成區大今里町七九六 電話南@七二五〇番

中八四

中八二

# ネジ鉋 ボルトナット

特種ネジ 歡迎  
精密ネジ

## 十河商店

大阪市西区立賣堀南通五丁目 電話新町一六三番

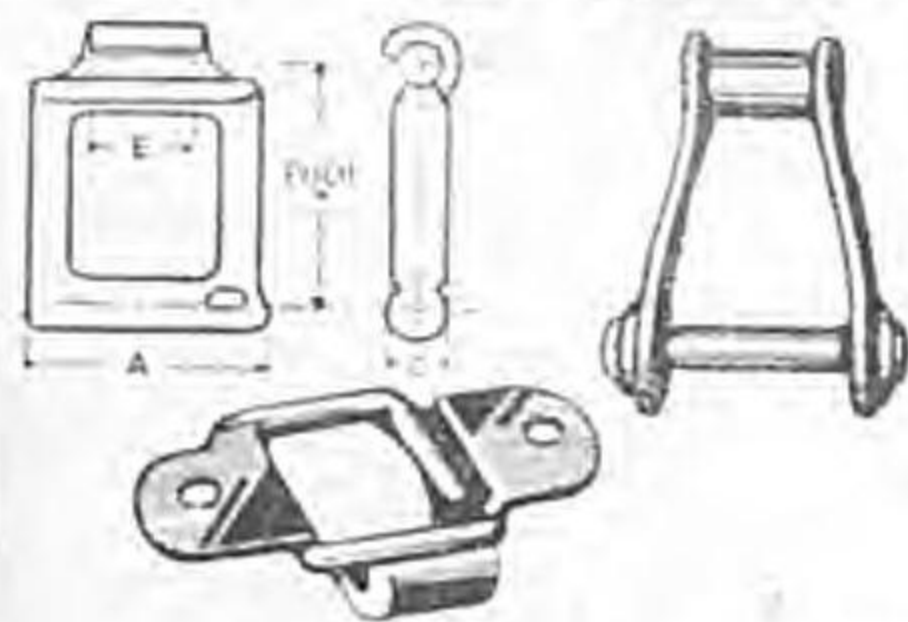
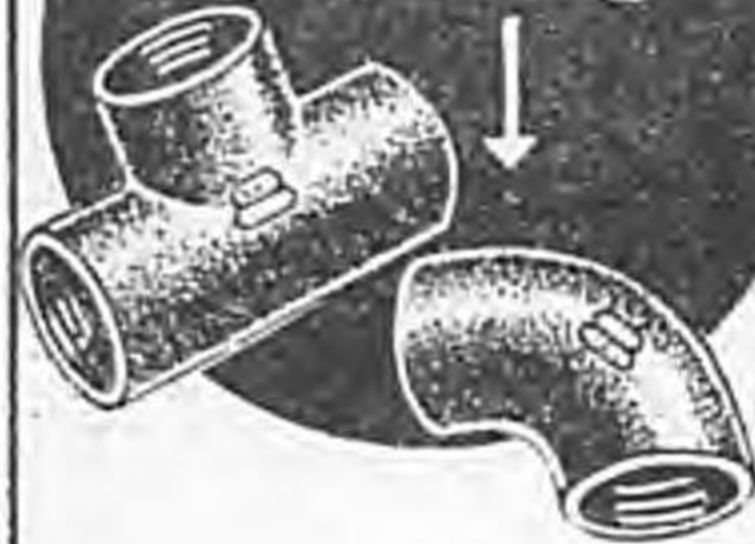
寢牛印

# リング チェン

TRADE MARK

壘子餅印

## 鐵管継手



旭商會製作部

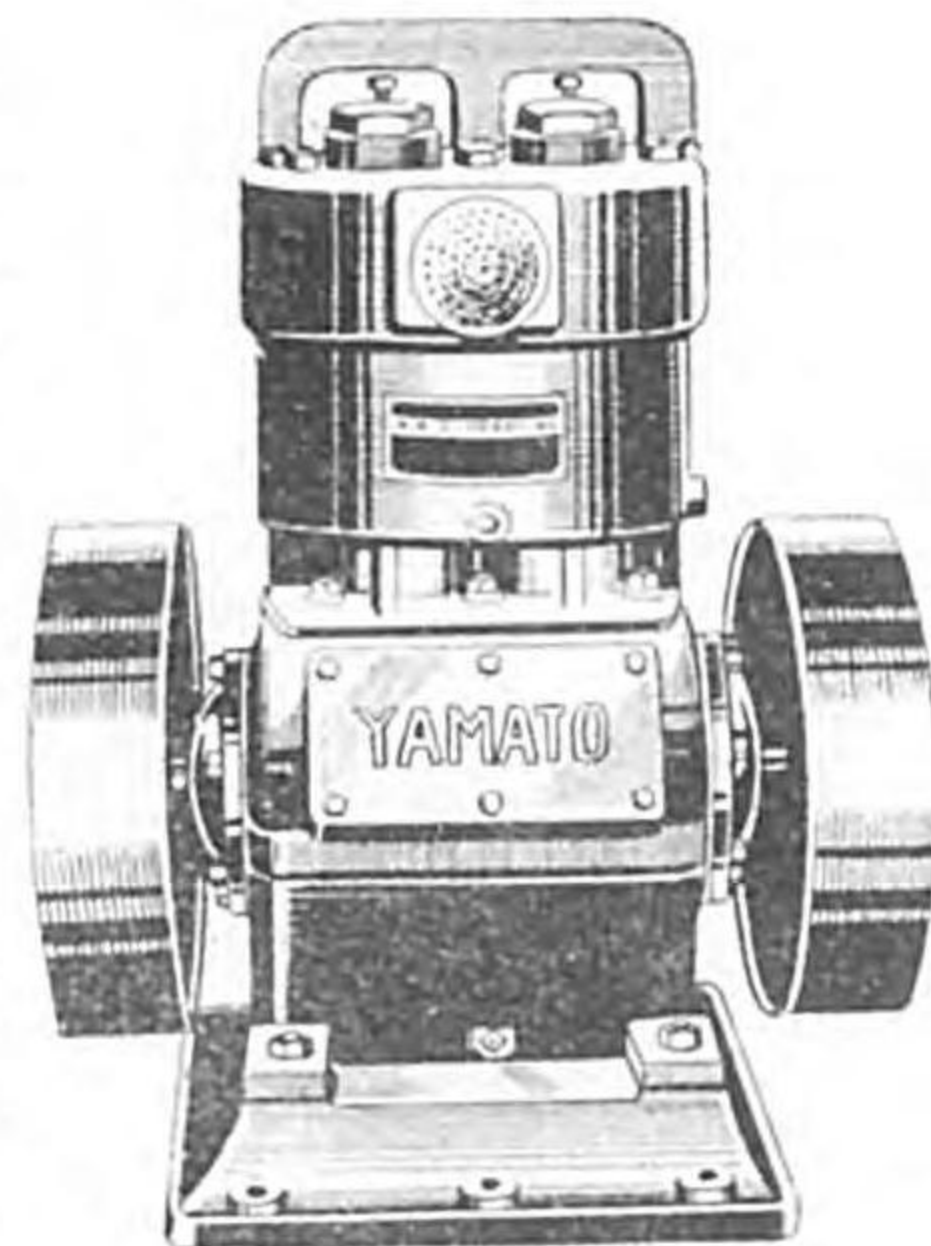
大阪 市西区新町通四丁目  
電話新町一九〇六・四三五七番  
振替大阪六六七一一番

# YAMATO

TRADE MARK

AIR COMPRESSORS

- 一、シリンダー インターナル研磨仕上
- 一、ピストン ユニバーサル研磨仕上
- 一、ガゼビン及ロットニツケルクローム銅
- 一、バルブ米國インカーソール及ベンシルパニヤ型
- 一、メタル舶來テムケンローラーベヤリング入



A型 ヤマト 堅型復氣筒空圧縮機  
精選シタル材料、精密ナル工作  
十数年の経験、構造堅牢

ヤマトコンプレッサー製作所

名古屋市昭和区春蔵町 電話瑞穂二六四七番

# 大阪鎔材株式會社

日本製鐵株式會社製鎔接線 指定特約店  
 ダイアーク高級電極棒 製造販賣

大阪市西淀川區御幣島町二九二  
 電話 福島 (三) 四六八三番

支店 大連市山縣通二五八  
 出張所 奉天千代田町二五  
 工場 大阪市旭區今市町  
 工場 大阪市東成區東今里町三〇

F.K.式  
**鑿岩機**  
 シャーフナー



型録送呈



**栗田鑿岩機製作所**

大阪營業所 大阪市西區西長堀北通五丁目六番地  
 電話 新町二二三七番 (上島北詰東側)  
 沖松太郎

斯界の標準品!!!

製品種目

「北川」型標準空氣リベチングハンマール  
 「北川」型標準空氣ハンマール  
 其他各種空氣壓縮機ハンマー及ドリル等  
 ニューマチツク部分品及同川工具一式

カタログ進呈

株式 **北川機械製作所**

東京 東區東橋區銀座一丁目  
 電話 西五七八番・五〇二七番  
 大阪 市港區繁榮茶町一ノ六  
 電話 西五七八番・五〇二七番  
 出張所 (銀座一ビル) 多加商工社内  
 電話 京橋 (一) 〇六七番

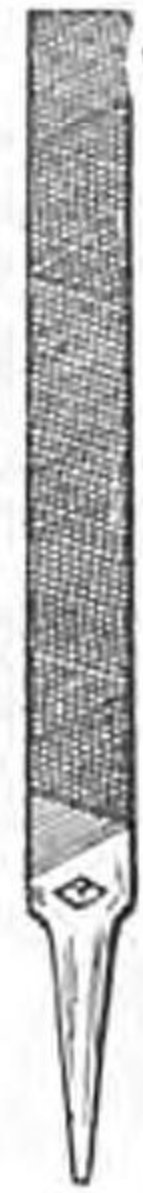
# ヤスリ専門

製造並ニ修繕迅速

大阪市此花區江成町九〇番地

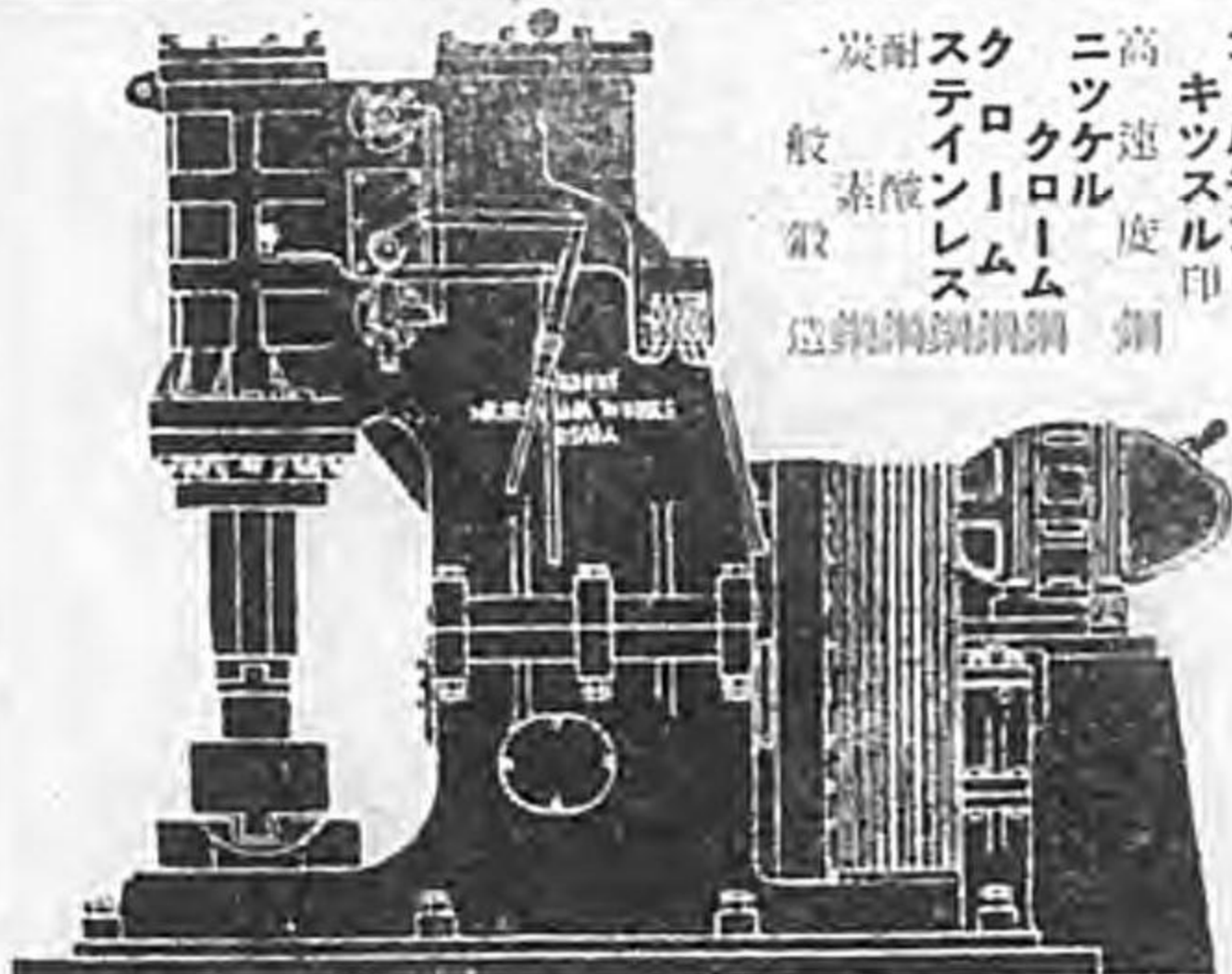
**竹本鋸製造所**

電話 土佐堀 五五六七番  
 振替口座 大阪 四八五五六番



村山式空機鏡  
 英米式高級旋盤  
 ミーリング盤  
 ホツピングマシン  
 ターレットレース  
 ゴールデン  
 キツスル印  
 高速度鋼  
 ニツケル  
 クローム  
 ステンレス  
 炭素鋼  
 一般鍛造

ホシカール盤  
 シカール盤  
 研磨機  
 鐵山機  
 主木用機械

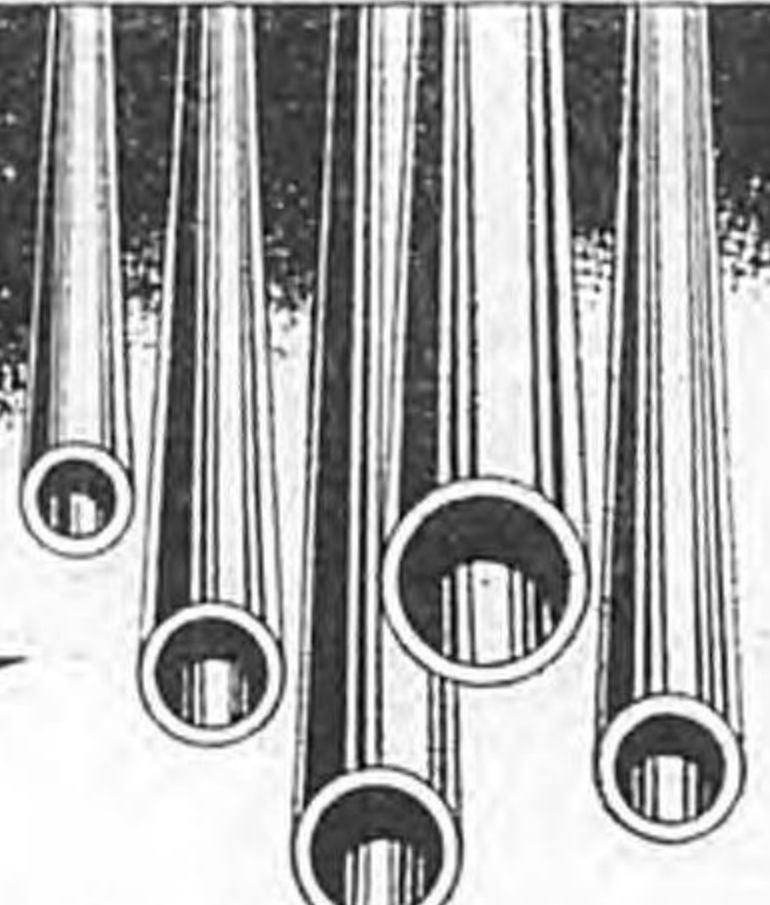


元發賣鋼高速度 **古野工業株式會社**

大阪市西區江戶堀北通二丁目十一 (市電常安橋電停前)  
 營業部 電話 土佐堀 (一) 1014・7267番 倉庫 西宮4781番

營業課目

銅 眞 銅  
眞 銅 眞  
眞 銅 眞  
眞 銅 眞  
眞 銅 眞  
眞 銅 眞  
眞 銅 眞  
眞 銅 眞  
眞 銅 眞  
眞 銅 眞



大阪市西區幸町三丁目五ノ一

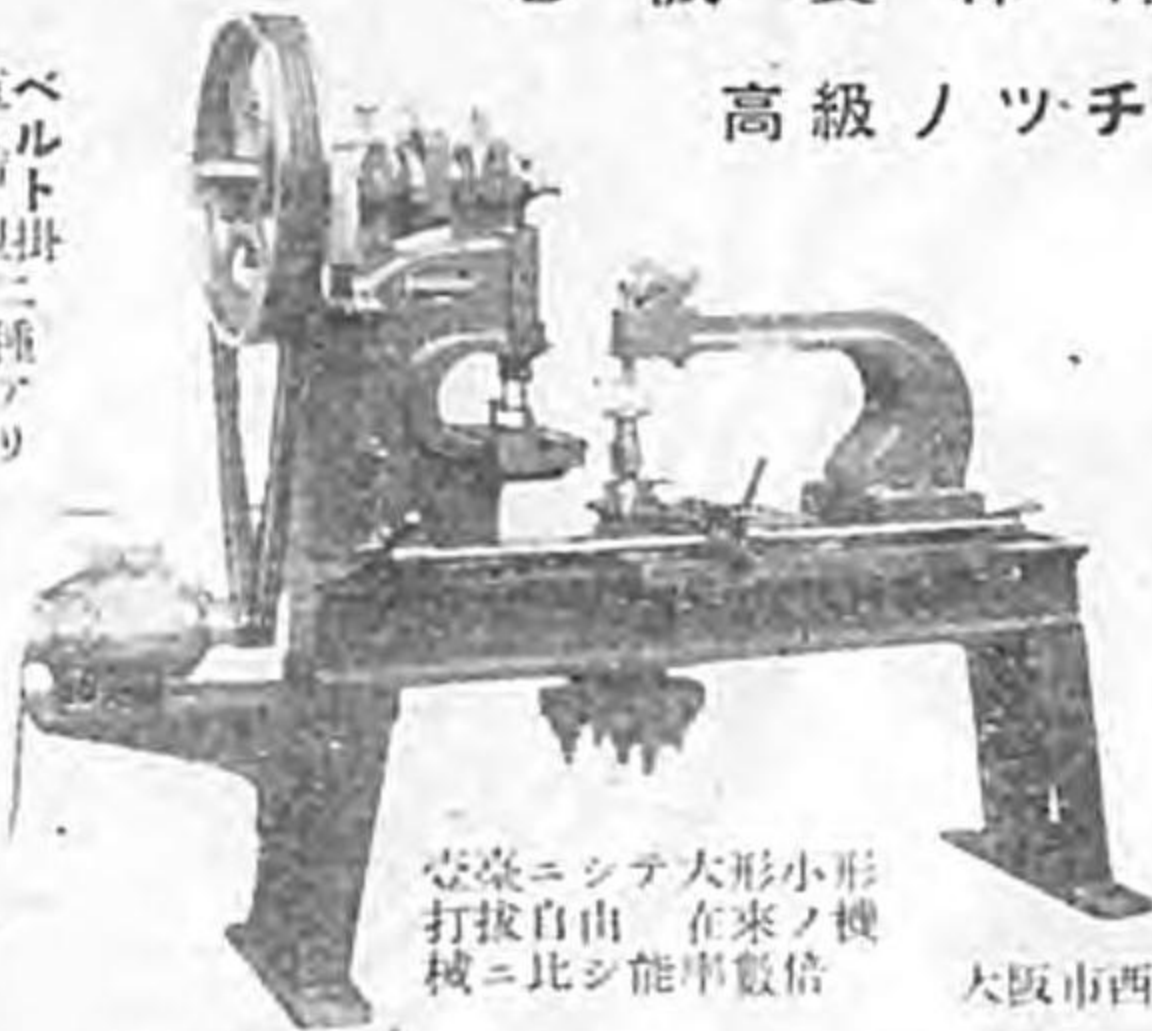
大家商店

電話櫻川(64) 5508番

電機製作用

高級ノツチングマシン

ベルト掛二種アリ



最小打抜徑……2 $\frac{1}{2}$ 吋  
回轉數……180—230  
高　　サ……5　　呎  
重　　量……約170貫  
最大打抜徑各寸法アリ  
機械全長……5　　呎  
巾……28吋

在庫多数アリ  
御紹介ヲ乞フ

空走ニシテ大形小形  
打抜自由　在來ノ機  
械ニ比シ能率數倍

大阪市西淀川區大仁東一丁目三四

西川製作所

電話福島⑤五七九番

(自動式ナレバ婦女子ニ  
テモ運轉使用容易ナリ)

商　工　省

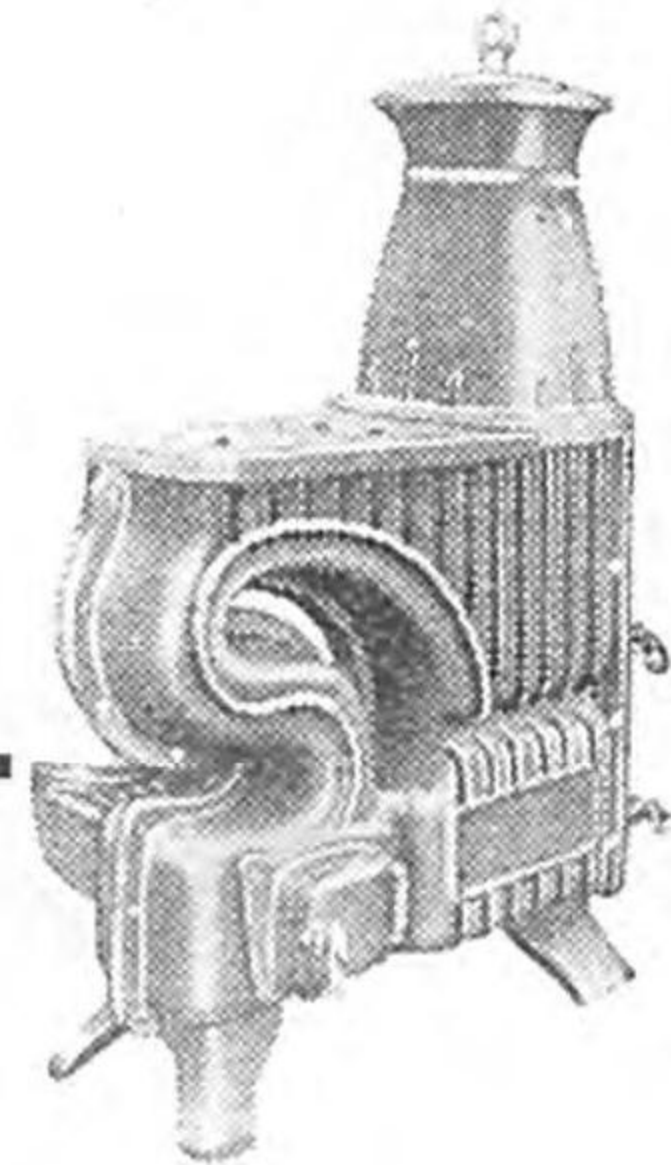
燃料研究所試験報告(抜萃)

火王石炭ストーブ

1. 本暖房は熱効率極めて高く優良なることを認む
2. 兩側及後方に於ける放熱効果特に大なるを特徴とす

工場内暖房の大革新

石炭 鋸屑 各種燃焼器發賣元



炳筒八床下へ

此大節約ヲ見ヨ

火王ストーブの石炭消費量  
一般高級ストーブの石炭消費量



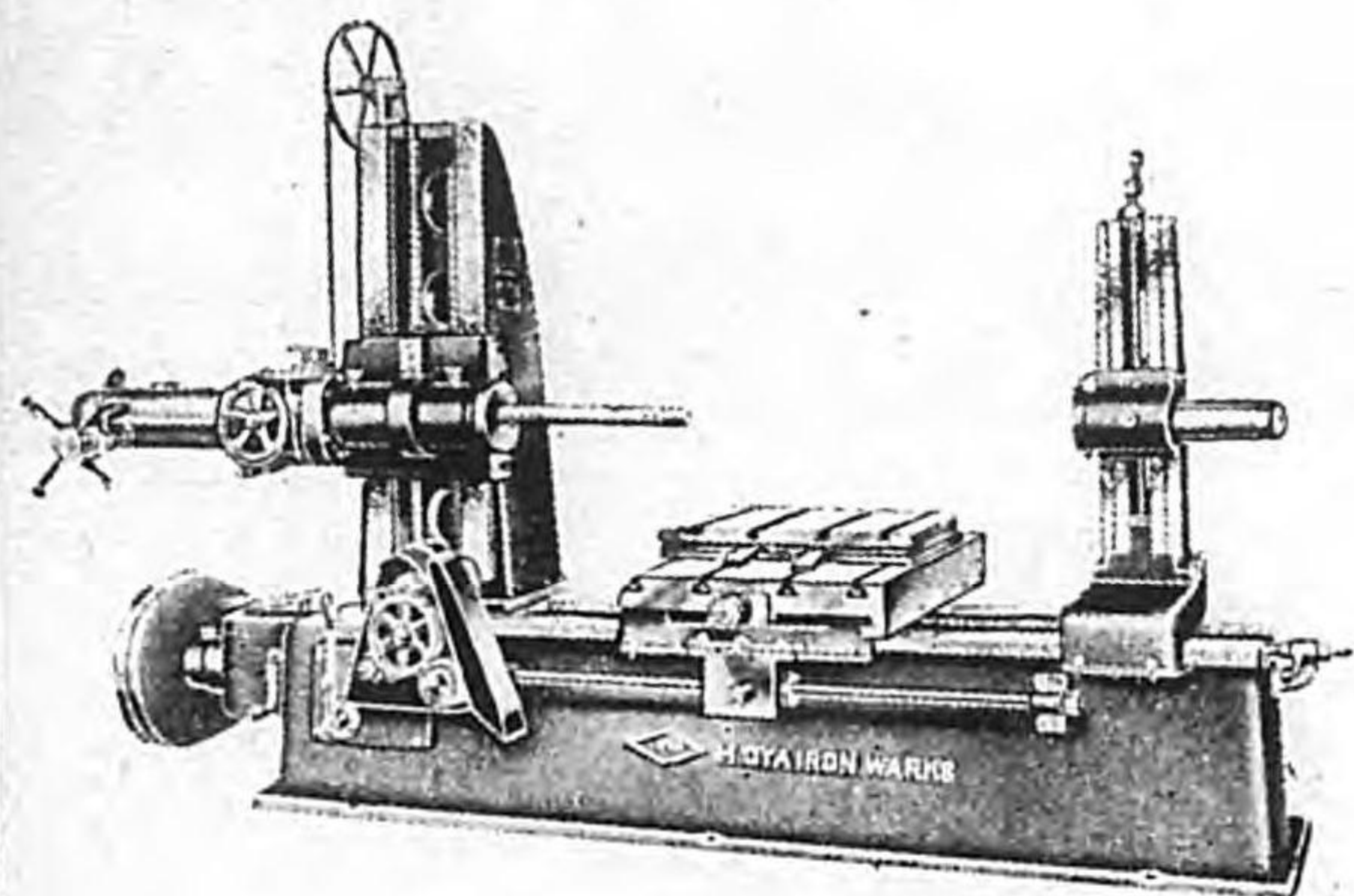
合資會社 火王商會

大阪市西區幸町通三丁目一

電話櫻川四六〇三番

八段變速三馬力電動機直結型

ホリソントラル  
ボーリングマシン



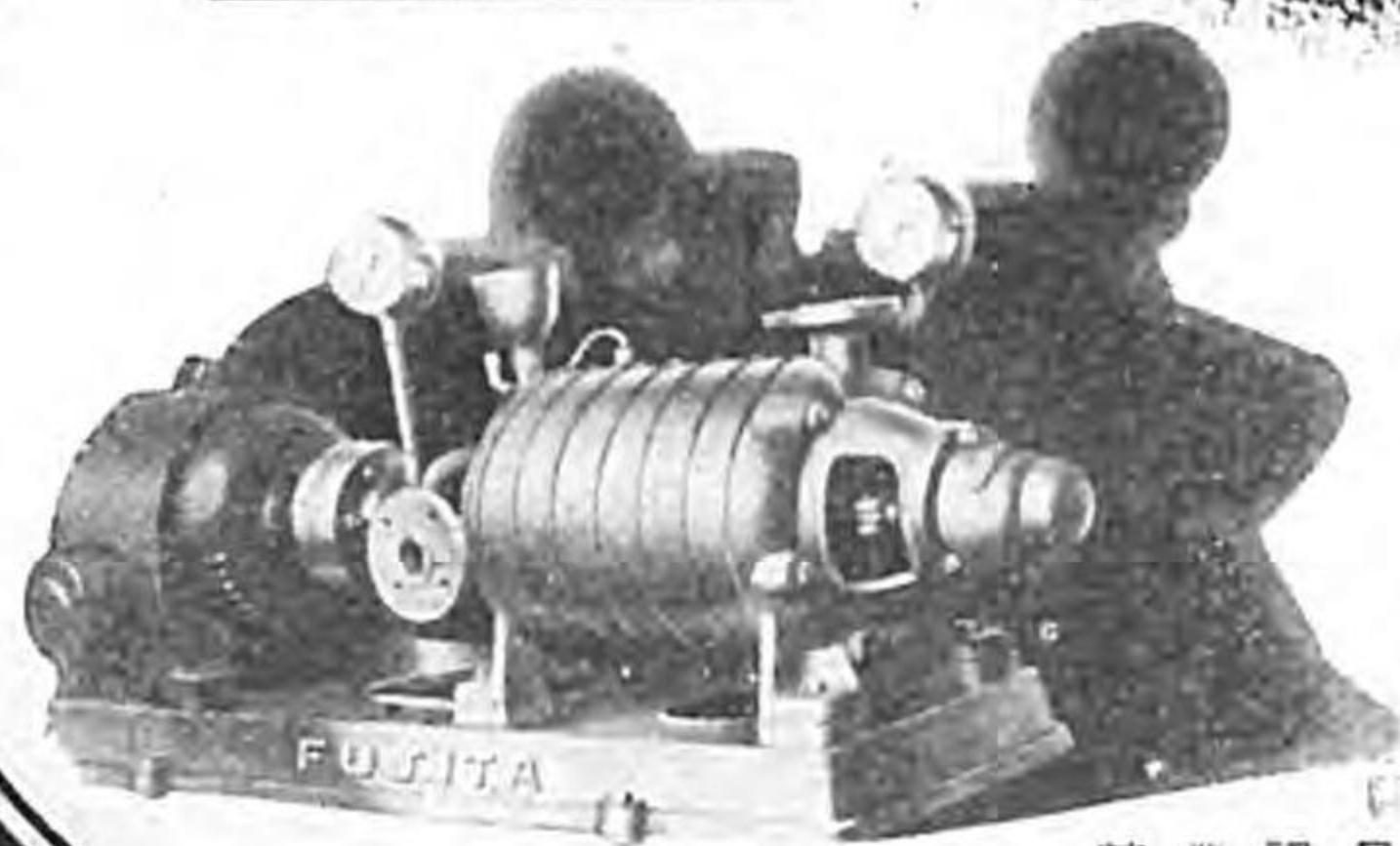
大矢平鐵工所

大阪市旭區關目町四〇一番地  
京阪野江電停東  
電話旭 ②九四六番



藤田ポンプ  
二十年の歴史

三萬臺の驗經



營業課目

高壓多段  
タービンポンプ  
各種渦巻ポンプ  
冷暖房温防用ポンプ

専門製作

藤田製作所大阪出張所

大阪市北區道本町四三(高垣町電停前)  
電話北 ② 2 1 4 1 番  
本社 滋賀縣八日市上之町  
電話 八日市 1 0 2 番

〔型錄進呈〕

“ORIENT”  
オリエント反斯管捻型



日立電動工具



金 床



O.K.N  
パイプレンチ



モンキレンチ



理 研  
旋盤用チャック



機械工具製作販賣

井上機工商事株式会社

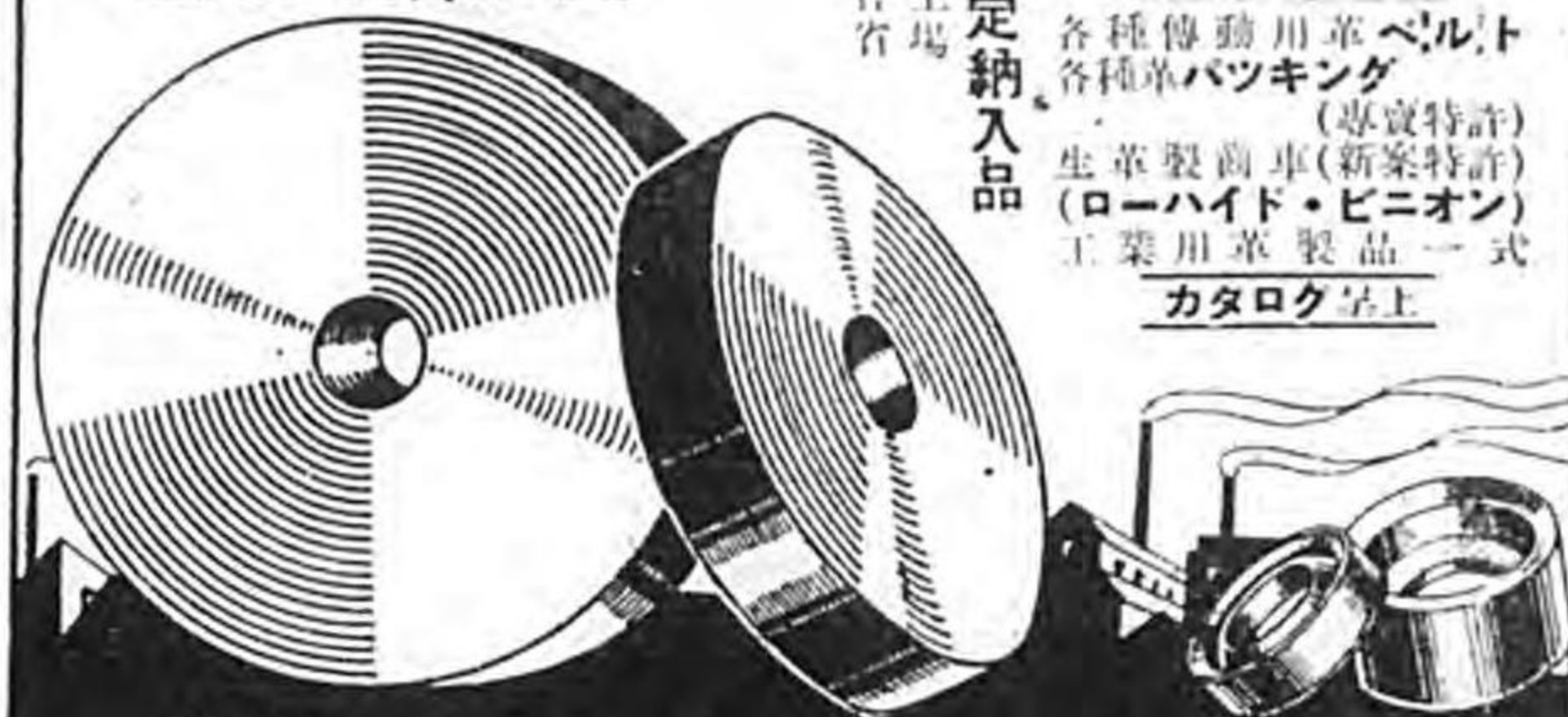
大阪市南区内安堂寺町三丁目  
電話東二一六四・三〇七一・四六六三番

國産高級品

指定納入品  
諸工場  
諸官省

營業種目

各種傳動用革ベルト  
各種革パツキング  
(專賣特許)  
生革製商車(新案特許)  
(ローハイド・ビニオン)  
工業用革製品一式  
カタログ呈上



合名ローヤル皮革工業所

營業部・大阪市東淀川区十三西町四丁目電話北4169番  
工場・大阪府箕面村大字南瀬川

目 課 業 營

工販電自充各設製配電  
機動電種計作電氣  
事用車及蓄計及盤諸  
一諸部修電監修各機  
材分修池督理種械  
式賣料品理池督理種械

工 場  
東 京 市 品 川 區 東 品 川 五 丁 目  
電 話 高 輪 ④ 一 三 五 五 七 六 番

營 業 所  
東 京 市 品 川 區 東 品 川 五 丁 目  
電 話 高 輪 ④ 一 三 五 五 七 六 番



松崎工業所


マガール自動車方向指示器元賣捌店  
G・S 蓄電池元賣捌店  
H・M・S 蓄電池賣捌店

業	別	昭和元	七	八	九	一〇	一一	一二	三
銀行	銀行	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
信託	信託	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
貸付	貸付	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
倉庫	倉庫	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
保險	保險	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
運輸	運輸	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
鐵道	鐵道	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
海運	海運	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他	其他	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
製造工業	製造工業	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
紡織	紡織	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
化學	化學	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
製藥	製藥	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
機械	機械	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
造船	造船	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
金業	金業	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
鑛業	鑛業	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
電力	電力	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
電信	電信	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
電氣	電氣	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
瓦工	瓦工	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他	其他	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

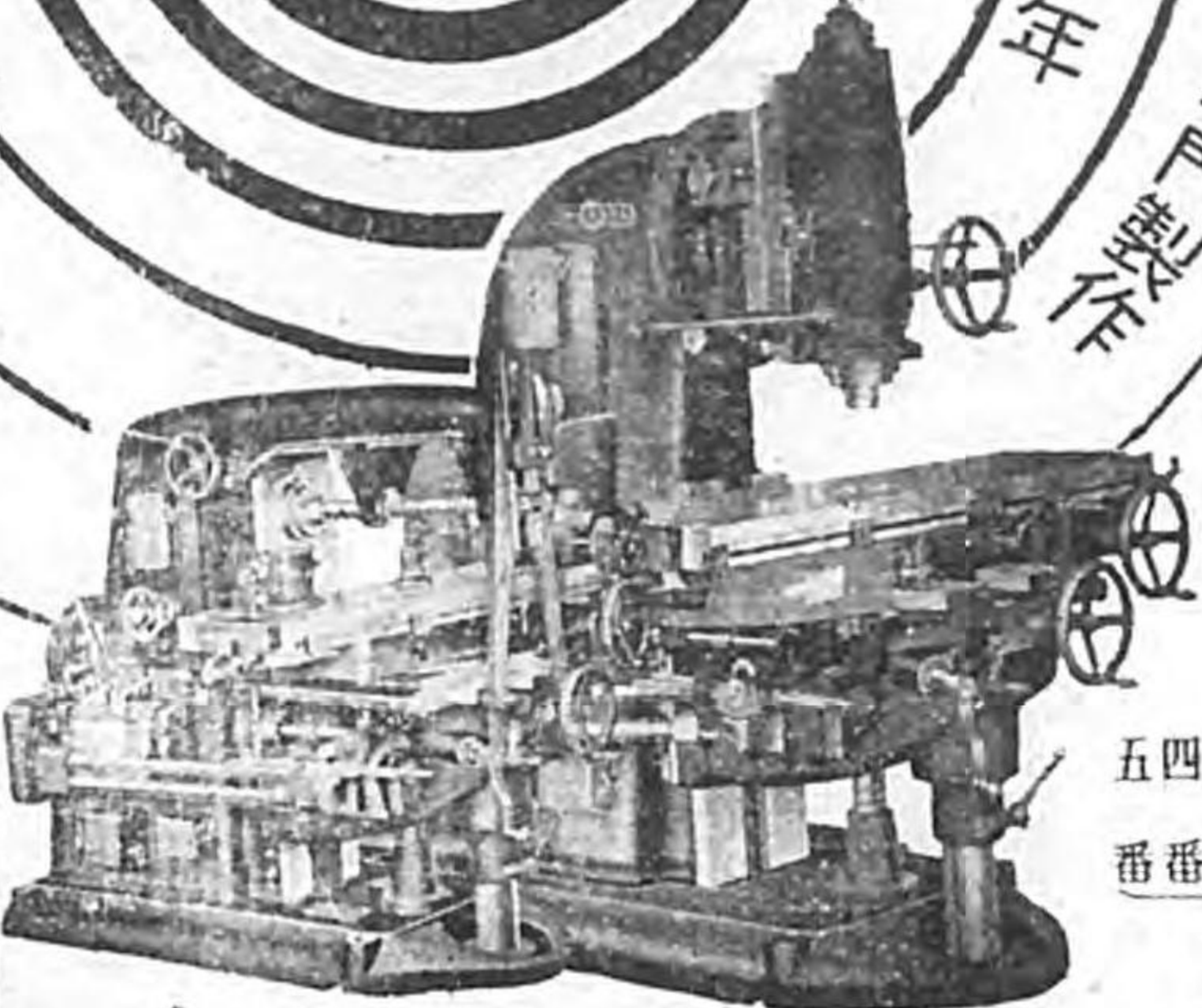
本邦銀行會社計畫資本(各年末現在、日銀調)

國名	鐵道延長	輸送量	乘客	貨物
日本	3,277	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
米國	2,200	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
英國	1,600	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
法國	1,400	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
蘇俄	1,300	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
德國	1,200	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
中國	1,100	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
印度	1,000	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
澳洲	900	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
南美洲	800	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
非洲	700	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
歐洲	600	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
亞洲	500	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
大洋洲	400	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
南極洲	300	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
北極洲	200	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
其他	100	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000

世界各國鐵道 (一九三六年)



創業以來二十年 各種機械製造



各種製作 一番半 二番 三番 四番 五番

3.0M 比較 5.0M

東京・深川

# 岩佐鐵工所

營業所 東京都深川區森下町三丁目  
電話本所(7)11025-1026-1035-1255-5638



Table showing financial data for various industries (Food, Textiles, etc.) across four periods: 11/1, 11/2, 11/3, and 11/4. Includes a note about the scope of the data.

本邦會社營業成績 (三菱調査、▲印は損失又は赤字)

Table of domestic company performance metrics including profit and retained earnings for various sectors like transportation, machinery, and chemicals.

世界無線電信局數 (一九三六年首)

Table listing the number of wireless telegraph stations worldwide by country/region for the start of 1936.

Large table of industrial and commercial data, likely related to the 'General Relationship' section, covering various goods and their quantities.

本邦鐵類輸出

Table detailing iron exports from Japan, categorized by type and quantity.

統計及び諸表一 一般關係

種別	昭和九	昭和十	昭和十一
鹽	一七、九〇〇	一八、八三三	三、七五五
晒	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
染	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
莫大小製品	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
帽	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
陶磁	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
瓦	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
土	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
漆	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
製革	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
皮	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
×精製及種油	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
×精製	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
植	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
▲藍	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五

種別	昭和九	昭和十	昭和十一
鐵類輸入	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
鋼	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
鐵	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
鋼	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
鐵	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
鋼	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
鐵	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
鋼	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
鐵	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
鋼	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五

本邦對滿投資額 (滿洲事變後、單位萬圓△印價還)

種別	昭和七	昭和八	昭和九	昭和十	昭和十一
滿鐵株金拂込	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
滿鐵社債	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
滿鐵債	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
滿鐵債	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
滿鐵債	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
滿鐵債	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
滿鐵債	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
滿鐵債	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
滿鐵債	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
滿鐵債	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五

本邦鹽消費高

用途別	昭和十	昭和十一
漬物	一〇、七五五	一〇、七五五
鹽	一〇、七五五	一〇、七五五
油	一〇、七五五	一〇、七五五
味	一〇、七五五	一〇、七五五
鹽	一〇、七五五	一〇、七五五
魚類	一〇、七五五	一〇、七五五
選	一〇、七五五	一〇、七五五
肥料	一〇、七五五	一〇、七五五
畜	一〇、七五五	一〇、七五五
家畜	一〇、七五五	一〇、七五五
獸皮保存	一〇、七五五	一〇、七五五

本邦鹽收納高

年度	收納	指定引渡	賦價金
昭和十	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
昭和十一	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五

統計及び諸表一 一般關係

四〇四

種別	昭和十	昭和十一
鐵類輸入	一〇、七五五	一〇、七五五
鋼	一〇、七五五	一〇、七五五
鐵	一〇、七五五	一〇、七五五
鋼	一〇、七五五	一〇、七五五
鐵	一〇、七五五	一〇、七五五
鋼	一〇、七五五	一〇、七五五
鐵	一〇、七五五	一〇、七五五
鋼	一〇、七五五	一〇、七五五
鐵	一〇、七五五	一〇、七五五
鋼	一〇、七五五	一〇、七五五

本邦對滿投資額 (滿洲事變後、單位萬圓△印價還)

種別	昭和十	昭和十一
滿鐵株金拂込	一〇、七五五	一〇、七五五
滿鐵社債	一〇、七五五	一〇、七五五
滿鐵債	一〇、七五五	一〇、七五五
滿鐵債	一〇、七五五	一〇、七五五
滿鐵債	一〇、七五五	一〇、七五五
滿鐵債	一〇、七五五	一〇、七五五
滿鐵債	一〇、七五五	一〇、七五五
滿鐵債	一〇、七五五	一〇、七五五
滿鐵債	一〇、七五五	一〇、七五五
滿鐵債	一〇、七五五	一〇、七五五

本邦鹽消費高

用途別	昭和十	昭和十一
漬物	一〇、七五五	一〇、七五五
鹽	一〇、七五五	一〇、七五五
油	一〇、七五五	一〇、七五五
味	一〇、七五五	一〇、七五五
鹽	一〇、七五五	一〇、七五五
魚類	一〇、七五五	一〇、七五五
選	一〇、七五五	一〇、七五五
肥料	一〇、七五五	一〇、七五五
畜	一〇、七五五	一〇、七五五
家畜	一〇、七五五	一〇、七五五
獸皮保存	一〇、七五五	一〇、七五五

本邦鹽收納高

年度	收納	指定引渡	賦價金
昭和十	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五
昭和十一	一〇、七五五	一〇、七五五	一〇、七五五

四〇五

世界主要資材生産一覽

(一九三五年)

大陸別	砂糖	棉花	羊毛	石灰	石油	鐵礦	銅	鉛	鋅	錫	銀	金	煤	焦炭	木材	亞麻
亞細亞洲	百萬噸	百萬噸	千噸	百萬噸	百萬噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸
歐洲	百萬噸	百萬噸	千噸	百萬噸	百萬噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸
北米	百萬噸	百萬噸	千噸	百萬噸	百萬噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸
中南米	百萬噸	百萬噸	千噸	百萬噸	百萬噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸
阿非利加	百萬噸	百萬噸	千噸	百萬噸	百萬噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸
大洋洲	百萬噸	百萬噸	千噸	百萬噸	百萬噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸
總計	百萬噸	百萬噸	千噸	百萬噸	百萬噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸
プロック別	百萬噸	百萬噸	千噸	百萬噸	百萬噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸
日本	百萬噸	百萬噸	千噸	百萬噸	百萬噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸
支那	百萬噸	百萬噸	千噸	百萬噸	百萬噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸
英國	百萬噸	百萬噸	千噸	百萬噸	百萬噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸
米國	百萬噸	百萬噸	千噸	百萬噸	百萬噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸
佛國	百萬噸	百萬噸	千噸	百萬噸	百萬噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸
和蘭	百萬噸	百萬噸	千噸	百萬噸	百萬噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸	千噸

本邦月別貿易額(帝國全土)

(單位千圓)

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月
一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二
(1)昭和十三年	(2)十二年	(1)昭和十三年	(2)十二年	(1)昭和十三年	(2)十二年	(1)昭和十三年
一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二
一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二

北支工場表

(外資工場を含む)

省別	工場數	資本金
河北省	一	一〇〇〇〇〇〇
山西省	一	一〇〇〇〇〇〇
山東省	一	一〇〇〇〇〇〇
綏遠省	一	一〇〇〇〇〇〇
察哈爾省	一	一〇〇〇〇〇〇
熱河省	一	一〇〇〇〇〇〇
遼寧省	一	一〇〇〇〇〇〇
吉林省	一	一〇〇〇〇〇〇
黑龍江省	一	一〇〇〇〇〇〇
總計	一	一〇〇〇〇〇〇

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全計
一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二
(1)昭和十三年	(2)十二年	(1)昭和十三年	(2)十二年	(1)昭和十三年	(2)十二年	(1)昭和十三年	(2)十二年	(1)昭和十三年	(2)十二年	(1)昭和十三年	(2)十二年	(1)昭和十三年
一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二
一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二

本邦對滿、關支月別貿易額

(單位千圓)

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全計
一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二
(1)昭和十三年	(2)十二年	(1)昭和十三年	(2)十二年	(1)昭和十三年	(2)十二年	(1)昭和十三年	(2)十二年	(1)昭和十三年	(2)十二年	(1)昭和十三年	(2)十二年	(1)昭和十三年
一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二
一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二	一三,三九二



南阿、聯邦、其他阿非利加		三、〇五、二一六	一、三三〇、九四二	三、二一八、八	八、九、八七	一、二九二、五九九	三、三、二、九九
大洋洲		七、〇七、七九	三、三、三、〇〇	一、四、三、七六	一、八、八、八四	一、四、八、八四	九、八、八四
太平洋、新西、新西、新西、米領大洋洲、其他大洋洲		三、一五、八八二	六、九、八、九二	一、三、八、九二	三、八、八、八四	一、三、八、八四	八、八、八四
其他諸國		三、八、七、三三	三、八、八、七六	三、八、三、三三	三、八、三、三三	三、八、三、三三	三、八、三、三三

註 全支計の補荷は英領印度に滿洲國及び其他大洋洲は其他諸國に包含す

支那一九三六年度主要品輸出額

(單位國幣元)

品名	全支計			北支計		
	數量	國幣	百分比	數量	國幣	百分比
猪毛	三、九、三、三五	四、六、六、二二〇	〇・六	五、九、九、五	一、〇、三、四四	〇・七
鮮卵	五、三、六、四八	二、三、〇、三、七四	三・六	三、〇、八、七四	九、四、六、七五	四・三
加工	六、六、五、三二	五、八、四、九、〇〇	〇・八	一、六、四、三、八二	一、五、七、三、二四	〇・八
獸肉	四、〇、〇、〇	二、一、〇、〇、〇	一・五	三、一、八、七、二八	三、一、八、七、二八	一・六
鳥獸肉	四、〇、〇、〇	三、一、八、七、二八	〇・三	三、一、八、七、二八	三、一、八、七、二八	一・九
骨粉及骨屑	四、〇、〇、〇	二、一、〇、〇、〇	〇・三	二、一、〇、〇、〇	二、一、〇、〇、〇	〇・六
皮及皮革	四、〇、〇、〇	三、一、八、七、二八	一・六	三、一、八、七、二八	三、一、八、七、二八	一・四
毛皮(未仕上げのもの)	四、〇、〇、〇	三、一、八、七、二八	一・六	三、一、八、七、二八	三、一、八、七、二八	一・四
毛皮(仕上げたるもの)	四、〇、〇、〇	三、一、八、七、二八	一・六	三、一、八、七、二八	三、一、八、七、二八	一・四

製氷及冷蔵	二	一、二、五、〇〇
河北	二	一、二、五、〇〇
山東	一	二、五、〇〇
日本酒釀造	二	二、五、〇〇
洋酒釀造	二	二、五、〇〇
山東	三	二、五、〇〇
醫油釀造	一	二、五、〇〇
河北	二	二、五、〇〇
山東	二	二、五、〇〇
罐詰	三	三、三、〇〇
河北	三	三、三、〇〇
山東	七	三、三、〇〇
麵粉加工	二	二、五、〇〇
河北	二	二、五、〇〇
山東	二	二、五、〇〇
捲煙草	六	一、五、八、五〇
河北	六	一、五、八、五〇
山西	一〇	一、五、八、五〇
山東	一〇	一、五、八、五〇
骨粉	三	三、〇〇〇
河北	三	三、〇〇〇
山東	三	三、〇〇〇

豆及	一、一、〇、〇、〇	八、一、七、五、二	一・〇	一、一、〇、〇、〇	一、一、〇、〇、〇	〇・六
落花生	一、一、〇、〇、〇	八、一、七、五、二	一・〇	一、一、〇、〇、〇	一、一、〇、〇、〇	一・三
花生油	一、一、〇、〇、〇	八、一、七、五、二	一・〇	一、一、〇、〇、〇	一、一、〇、〇、〇	〇・二〇
落花生仁	一、一、〇、〇、〇	八、一、七、五、二	一・〇	一、一、〇、〇、〇	一、一、〇、〇、〇	〇・〇〇
落花生壳	一、一、〇、〇、〇	八、一、七、五、二	一・〇	一、一、〇、〇、〇	一、一、〇、〇、〇	〇・〇〇
杏仁	一、一、〇、〇、〇	八、一、七、五、二	一・〇	一、一、〇、〇、〇	一、一、〇、〇、〇	〇・〇〇
落花生	一、一、〇、〇、〇	八、一、七、五、二	一・〇	一、一、〇、〇、〇	一、一、〇、〇、〇	〇・〇〇
花生油	一、一、〇、〇、〇	八、一、七、五、二	一・〇	一、一、〇、〇、〇	一、一、〇、〇、〇	〇・〇〇
落花生仁	一、一、〇、〇、〇	八、一、七、五、二	一・〇	一、一、〇、〇、〇	一、一、〇、〇、〇	〇・〇〇
落花生壳	一、一、〇、〇、〇	八、一、七、五、二	一・〇	一、一、〇、〇、〇	一、一、〇、〇、〇	〇・〇〇
杏仁	一、一、〇、〇、〇	八、一、七、五、二	一・〇	一、一、〇、〇、〇	一、一、〇、〇、〇	〇・〇〇

製材木製品	三	一、〇、〇、〇
河北	三	一、〇、〇、〇
山東	二	一、〇、〇、〇
糖業	二	一、〇、〇、〇
河北	二	一、〇、〇、〇
山東	一	一、〇、〇、〇
棉包	一	一、〇、〇、〇
河北	一	一、〇、〇、〇
山東	一	一、〇、〇、〇

品名	全支計			北支計		
	數量	國幣	百分比	數量	國幣	百分比
刺繡品	—	三、五四、九七五	三・三	—	一、六〇九、六六六	〇・八四
レース及トリミング	—	五、八三、〇八一	〇・三	—	一、二四三、五三三	〇・六三
絹織物	五九、九七六	五、九七、七〇〇	〇・七	一七、四八三	一、五九、九四四	〇・七九
カーペット	百疋	五、〇〇、八七九	〇・三	一、八〇三	四、二〇、八〇三	二・三
麥稈 眞田	五、一三三	三、三〇、〇〇〇	〇・三	一、三三三	一、八〇、一三三	〇・九
ヘア・ネット	七、〇〇二	一、一〇、三三三	〇・一	七、〇〇二	一、一〇、三三三	〇・六
其他	三、三三三	三、三三、三三三	〇・三	—	三、三三、三三三	一・六
其他	—	三、三三、三三三	〇・三	—	三、三三、三三三	一・六
合計	—	一、〇〇、〇〇〇	一〇・〇	—	一、〇〇、〇〇〇	一〇・〇

支那一九三六年度主要品輸入額

(單位國幣元)

支那	北支
中央政府借款	—
地方政府借款	—
山東省	—
河北省	—
個人借款	—
河北省	—
山東省	—
山西省	—
河南省	—
以上借款による投資額計	—
法人企業による投資額	—
個人企業による投資額	—
不明	—
合計	—

一九三六年現在 對北支投資總額

(單位千圓)

支那	北支
中央政府借款	—
地方政府借款	—
山東省	—
河北省	—
個人借款	—
河北省	—
山東省	—
山西省	—
河南省	—
以上借款による投資額計	—
法人企業による投資額	—
個人企業による投資額	—
不明	—
合計	—

電氣機械及原動機(部分品を含む)

汽機及同附屬品(部分品を含む)

紡織機械(部分品を含む)

自動車及同部分品

(ダイヤルを含む)

鐵道及軌道材料(レールを含まず)

自轉車及同部分品

(ダイヤルを含む)

電氣器具、配線及電氣材料

漁獲物及海産物

人

果實(鮮果、乾果及貯蔵果)

米

及

小

砂

葉

草

煙

草

灰

アニリン染料及ヨール染料

ガソリン、ナフサ及

ペンゼン

油

其他礦物性液體燃料

印刷物(故を含む)

紙

全滿輸出貿易

(單位千圓)

輸出の部	一九三六年	三七年
日本	三、七〇八、二七〇	三、七〇八、二七〇
朝鮮	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
中華民國	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
滿洲	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
英國	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
美國	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
其他	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
總計	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

輸入の部	一九三六年	三七年
日本	三、七〇八、二七〇	三、七〇八、二七〇
朝鮮	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
中華民國	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
滿洲	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
英國	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
美國	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
其他	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
總計	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

皮、革、毛皮及同製品		三、三三二、三六七	〇・五五		
木材及木炭		三、三三三、二六八	三・三三		
石炭		六、八〇〇、〇八八	〇・六八		
護謄、靴類	五、六二九、六八四	八、六九八、四五五	〇・〇九		
車輛用護謄タイヤ及チエーブ		四、三六八、六二二	〇・四六		
其他		四、三〇五、二四三	〇・四三		
計		三、三三二、三六七	三・三三		

支那主要輸出入品質

易品目 (單位元)

品名	昭和十年	十一年	十二年八月迄	十三年八月迄
金及金貨	一九三六、〇七五	一九三七、〇二七		
各種油類	一〇八、〇三二、八四五	一二三、三三三、三三七		
鐵及鐵貨	一〇五、一三一、五七〇	一八、二五五、六一一		
機械及工具	一九、〇九七、〇五七	五、八〇〇、〇〇〇		
書籍地圖	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇		
棉花及棉製品	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇		
化學製品及藥品	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇		
車輛及船舶	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇		
雜貨及粉類	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇		
鐵金製品	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇		
紡織品	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇		
動物及動物產品	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇		
油類	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇		

上海港積出し穀脂類取扱高

品名	昭和十年	十一年	十二年八月迄	十三年八月迄
穀類	一、二〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇
豆類	一、〇〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇
油類	一、〇〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇
計	三、二〇〇、〇〇〇	三、四〇〇、〇〇〇	三、六〇〇、〇〇〇	三、八〇〇、〇〇〇

滿洲工業種別表 (昭和十一年)

業種別	工場数	生産額 (千圓)
紡織工業	九	六、八八八
金屬工業	一〇	一〇、〇〇〇
機械器具工業	一〇	三、八八八
化學工業	一〇	三、〇〇〇
製材及木製品工業	一〇	三、〇〇〇
印刷及製本業	一〇	三、〇〇〇
食品工業	一〇	三、〇〇〇
瓦斯及電氣業	一〇	三、〇〇〇
其他工業	一〇	三、〇〇〇
計	一〇	三、〇〇〇

滿洲國特許意匠商標出願件数 (昭和十二年)

國別	特許意匠商標	計
滿洲國	三	六
日本	一、二五〇	一、二五三
其他	一、〇〇〇	一、〇〇三
計	一、二五三	一、二五九

計	一、二五九	一、二五九	一、二五九
子種	七、二二	七、二二	七、二二
油	一、二五	一、二五	一、二五

本邦への支那製品輸入高 (昭和十一年度)

輸入總額	支那上り輸入	對支總額支
採油原料	五、四四、〇〇〇	一、五五、〇〇〇
皮革	五、二七、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇
麻	三、二二、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
豚毛	四、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
獸毛	四、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
鐵	三、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
鋼	三、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇

日支貿易高 (單位千元)

年	輸出入	輸出	輸入
一九三七年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一九三五年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一九三六年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一九三七年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

支那外國貿易 (單位千元)

輸出入	一九三五年	一九三六年	一九三七年
輸出	九、九三二	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
輸入	九、九三二	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
合計	一九、八六四	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇

滿洲重要商品卸賣物價指數 (大同二年平均=100)

年	大豆	豆粕	豆油	高粱	小麥	麥粉	砂糖	鐵	鉛	木材	石炭
昭和一年平均	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
二年	一〇二	一〇三	一〇四	一〇五	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九	一一〇	一一一	一一二
三年	一〇三	一〇四	一〇五	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九	一一〇	一一一	一一二	一一三
四年	一〇四	一〇五	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九	一一〇	一一一	一一二	一一三	一一四
四年九月	一〇五	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九	一一〇	一一一	一一二	一一三	一一四	一一五

本邦對支輸出 主要品 (單位千元)

品名	一九三五年	一九三六年
水産物	五、五五五	七、三三三
糖類	九、七〇〇	五、八〇〇
藥品及煉藥	八、二二二	九、四四四
染料及塗料	七、〇〇〇	五、〇〇〇
糸類	四、五五五	六、六六六
雜貨物	二、二二二	三、三三三
其他布帛	七、七七七	八、八八八
紙類	六、六六六	七、七七七
石炭	一、一一一	二、二二二
陶磁器	一、〇〇〇	二、〇〇〇
硝子及同製品	一、〇〇〇	二、〇〇〇
鐵	七、七七七	八、八八八
鋼	二、二二二	三、三三三
銅	一、一一一	二、二二二
其他電線	一、〇〇〇	二、〇〇〇
鐵製品	二、二二二	三、三三三
ゴムタイヤ	一、七二二	二、〇〇〇
機械及同部分品	三、三三三	四、四四四
車輛及船舶	五、五五五	六、六六六

Table showing monthly data for 1937 (1937年) and 1936 (1936年) across various categories like 一月, 二月, etc.

列國の對支投資 (單位百萬元換算の千圓)

Table of foreign investment in China by country (列國の對支投資) including Japan, USA, UK, etc.

北支各省石炭埋藏量

Table of coal reserves in North China provinces (北支各省石炭埋藏量) listing provinces like Heilongjiang, Jilin, etc.

Table of domestic trade in main products (本邦對支輸入主要品) for 1935 and 1936.

Table of domestic trade in various commodities (豆類, 胡麻子, etc.) for 1935 and 1936.

滿洲主要品輸出入額

(單位千圓)

Main table of trade in Manchuria (滿洲主要品輸出入額) listing various goods and their trade values.

滿洲國對外貿易國別表

(單位千圓)

Table of trade with various countries (滿洲國對外貿易國別表) including Japan, USA, UK, etc.

滿洲輸出入貿易總額

(單位千圓)

Summary table of total trade in Manchuria (滿洲輸出入貿易總額) for 1936 and 1937.



本邦鋼材需要表

年次	内地		移、輸		合計	出額	需要額引	需要額に對する生
	生産額	入額	入額	出額				
明治二十九年	1,230	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
三〇年	1,200	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
三一年	1,100	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
三二年	820	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
三三年	920	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
三四年	6,000	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
三五年	3,000	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
三六年	5,000	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
三七年	5,000	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
三八年	2,000	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
三九年	6,000	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
四〇年	6,000	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
四一年	6,000	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
四二年	1,000	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
四三年	1,000	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
四四年	1,000	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
大正元年	2,970	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
二年	2,500	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
三年	2,500	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
四年	2,500	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
五年	2,500	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
六年	2,500	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
七年	2,500	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
八年	2,500	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
九年	2,500	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
十年	2,500	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
十一年	2,500	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
十二年	2,500	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	
十五年	2,500	330,450	330,450	330,450	330,450	330,450	27%	

年次	生産額	入額	出額	需要額引	需要額に對する生
六年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
七年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
八年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
九年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
一〇年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
一一年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
一二年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
一三年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
一四年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
昭和元年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
二年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
三年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
四年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
五年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
六年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
七年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
八年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
九年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
一〇年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
一一年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%
一二年	5,000	330,450	330,450	330,450	27%

備考 昭和三年以前の輸出入には若干の差額を含む。昭和四年以後は之を除外する。

(単位千) 調入輸・産生材鋼要主

年次	一、棒鋼		二、形鋼		三、薄鋼板(0.7mm以下)		四、厚鋼板		五、鋼力板		六、線材		七、軌條及鑄目板		八、鋼管	
	生産	輸入	生産	輸入	生産	輸入	生産	輸入	生産	輸入	生産	輸入	生産	輸入	生産	輸入
昭和元年	2,800	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
二年	2,800	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
三年	2,800	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
四年	2,800	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
五年	2,800	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
六年	2,800	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
七年	2,800	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
八年	2,800	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
九年	2,800	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
十年	2,800	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
十一年	2,800	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
十二年	2,800	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
十五年	2,800	6,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

### 昭和十一年度鋼材主要製鐵所別生産額調 (單位純)

製鐵所名	棒鋼	形鋼	薄鋼板 (一種以下)	厚鋼板	鋼管	軌條及繼目板	線材	鐵力	その他	計
日本製鐵株式會社	三三、六一	二七、四五	二、〇一六	三六、九四		三六、五五	二二、〇八	一〇〇、三七	五、四三	一、四一、五〇
八幡製鐵所	五五、五一	四〇、一四								九七、四
釜石製鐵所	六一、三六	四九、三五								一一〇、六
富士製鐵所	三、七九	一、七六								六、五五
大阪製鐵所	二、七六	一、七六								六、六二
兼二浦製鐵所	二、七六	一、七六								五、六三
日本製鋼所	一、六五	一、四二	三〇、六三	三三、九五			三、七六			三、三二
吾妻製鋼所	一、六五	一、四二								三、三二
大島製鋼所	一、六五	一、四二								三、三二
東京製鋼所	一、六五	一、四二								三、三二
特殊製鋼所	三、八九									三、八九
日本特殊鋼材	一、二三									一、二三
高砂製鋼所	八、〇〇	六、九七								一、四六
日立製作所	一、二二									一、二二
昭和鋼管所	八、〇〇	六、九七			一、四七、五〇					一、四七、五〇
扶桑鋼管所					八、八九					八、八九
中山製鋼所										
鐵山製鋼所										
日見製鐵所			二六、五〇	一八、〇三						二六、五〇
日本製鐵所	一、八五									一、八五
大同製鋼所	一、八五									一、八五
豐田自動鐵機	一、二三									一、二三

製鐵所名	棒鋼	形鋼	薄鋼板 (一種以下)	厚鋼板	鋼管	軌條及繼目板	線材	鐵力	その他	計
理研特殊鋼										二、六六
住友金屬工業	五、八元									五、八元
小坂製作所	五、三三									五、三三
大和製鋼所										
大日本製鋼所										
金尾製鋼所										
東洋鋼鈾製鐵所										
中山製鐵所										
大阪製鐵所										
大坂製鐵所										
日本製鐵製鐵所	五、〇三	二九、七七	六、三五	三、五〇			七、三二	三、〇〇		三、〇〇
富永製鋼所	六、五三	五、三三	四、五三	二、八三						四、五三
神戶製鋼所										
川崎造船所										
三菱重工業	二、七		一、一八	七、〇九						二、七
日本曹達製鐵所										
山陽製鐵所										
德山製鐵所										
小倉製鋼所	六、〇二	天、七五								六、〇二
東海製鐵所										
日本製鐵製鐵所	一、五二	九、〇五	六、三三	三、九一						一、五二
その他製鐵所	一、〇七	五、八二	五、〇三	三、三九						一、〇七
昭和製鐵所	一、〇七	五、八二	五、〇三	三、三九						一、〇七
鞍山製鐵所	六、二七									六、二七

内地鐵鋼材市價表

大正二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年	十三年	十四年	昭和元年	昭和二年
一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	一月	二月
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

内地合金鐵需

大正元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年	十三年	十四年	昭和元年	昭和二年
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

大正二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年	十三年
一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

鉛生産、輸入高表

大正二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年	十三年	十四年	昭和元年
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

大正二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年	十三年	十四年	昭和元年
一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	...
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
十三年	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
十二年	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
十一年	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
大正二年	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇

アルミニウム輸入表

年次	数量
十一年	八、八三九、九二二、〇四七
十二年	五、三三三、九六六、六九五七
十三年	一、八六六
大正二年	一、八六六
十一年	三、六六八
十二年	三、六六八
十三年	四、一五六
大正二年	四、一五六
十一年	七、六〇七
十二年	五、八二五
十三年	九、一六七
大正二年	九、一六七
十一年	一、八六六
十二年	一、八六六
十三年	一〇、九六五
大正二年	一〇、九六五
十一年	二、七八八
十二年	四、七九三
十三年	三、六〇六
大正二年	三、六〇六
十一年	五、四四一
十二年	九、七七四
十三年	九、〇一一
大正二年	九、〇一一
十一年	四、〇九〇

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
十三年	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
十二年	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
十一年	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
大正二年	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇

ニッケル輸入表

年次	数量
十一年	二、〇〇〇
十二年	八、〇〇〇
十三年	八、〇〇〇
大正二年	八、〇〇〇
十一年	八、〇〇〇
十二年	八、〇〇〇
十三年	八、〇〇〇
大正二年	八、〇〇〇
十一年	八、〇〇〇
十二年	八、〇〇〇
十三年	八、〇〇〇
大正二年	八、〇〇〇
十一年	八、〇〇〇
十二年	八、〇〇〇
十三年	八、〇〇〇
大正二年	八、〇〇〇
十一年	八、〇〇〇
十二年	八、〇〇〇
十三年	八、〇〇〇
大正二年	八、〇〇〇

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
十三年	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
十二年	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
十一年	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
大正二年	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇

錫生産、輸入

年次	数量
十一年	二、〇〇〇
十二年	二、〇〇〇
十三年	二、〇〇〇
大正二年	二、〇〇〇
十一年	二、〇〇〇
十二年	二、〇〇〇
十三年	二、〇〇〇
大正二年	二、〇〇〇
十一年	二、〇〇〇
十二年	二、〇〇〇
十三年	二、〇〇〇
大正二年	二、〇〇〇
十一年	二、〇〇〇
十二年	二、〇〇〇
十三年	二、〇〇〇
大正二年	二、〇〇〇

Table of monthly iron and steel imports from 1912 to 1921. Columns include year, month, and quantity in units.

鐵 (卷石炭一噸、一噸に付、單位圓)

Table of monthly iron and steel exports from 1912 to 1921. Columns include year, month, and quantity in units.

本邦輸出入金銀

Table of domestic gold and silver trade from 1912 to 1921. Columns include year, type of trade (import/export), and amount in thousands of yen.

Table of domestic iron and steel imports from 1912 to 1921. Columns include year, quantity in units, and source (India, etc.).

内地鉄鐵移輸入量 (單位噸)

九個の昭和五年以前は四分、昭和六年以降は一六噸ペース△角圓の昭和五年以前は三分、昭和六年以降は一六噸△半圓の昭和五年以前は二分中六分、昭和六年以降は一九噸△圓の昭和五年以前は四分八、四・五噸ペース

Summary table of domestic iron and steel imports for 1912-1921, showing total amounts and trends.

本表は明治、大正、昭和各年代に於ける年次總額の最高、最低及び最近の趨勢を示したものであるが、十二年分は發表されな

Table of domestic iron and steel imports by region (India, etc.) from 1912 to 1921.

Table of domestic iron and steel imports by year from 1912 to 1921, including regional breakdowns.

本邦鉄鐵需給表

年次	内地生産	入移額	合計	出移額	差引	需要額
明治廿九年	三、三三	三、三三	六、六六	—	—	六、六六
卅一年	三、八七	三、八七	七、七四	—	—	七、七四
卅二年	三、三〇	三、三〇	六、六〇	—	—	六、六〇
卅三年	三、七三	三、七三	七、四六	—	—	七、四六
卅四年	三、三三	三、三三	六、六六	—	—	六、六六
卅五年	三、八四	三、八四	七、六八	—	—	七、六八
卅六年	三、〇七	三、〇七	六、一四	—	—	六、一四
卅七年	三、八八	三、八八	七、七六	—	—	七、七六
卅八年	三、三六	三、三六	六、七二	—	—	六、七二
卅九年	三、〇五	三、〇五	六、一〇	—	—	六、一〇
四十年	三、二四	三、二四	六、四八	—	—	六、四八
四十一年	三、六〇	三、六〇	七、二〇	—	—	七、二〇
四十二年	三、七五	三、七五	七、五〇	—	—	七、五〇
四十四年	三、九二	三、九二	七、八四	—	—	七、八四
大正元年	三、七五	三、七五	七、五〇	—	—	七、五〇
二年	三、〇三	三、〇三	六、〇六	—	—	六、〇六
三年	三、三二	三、三二	六、六四	—	—	六、六四

年次	数量	價格
四年	三、七、七、八	一、六、八、四、三
五年	三、八、六、九	一、六、〇、七、九
六年	三、九、六、〇	一、五、九、八、五
七年	四、〇、五、一	一、五、八、九、〇
八年	四、一、四、二	一、五、八、〇、〇
九年	四、二、三、三	一、五、七、〇、〇
十年	四、三、二、四	一、五、六、〇、〇
十一年	四、四、一、五	一、五、五、〇、〇
十一年	四、五、〇、六	一、五、四、〇、〇
十二年	四、六、〇、七	一、五、三、〇、〇
十三年	四、七、〇、八	一、五、二、〇、〇
十四年	四、八、〇、九	一、五、一、〇、〇
昭和元年	四、九、〇、〇	一、五、〇、〇、〇
二年	五、〇、〇、一	一、四、九、〇、〇
三年	五、一、〇、二	一、四、八、〇、〇
四年	五、二、〇、三	一、四、七、〇、〇
五年	五、三、〇、四	一、四、六、〇、〇
六年	五、四、〇、五	一、四、五、〇、〇
七年	五、五、〇、六	一、四、四、〇、〇
八年	五、六、〇、七	一、四、三、〇、〇
九年	五、七、〇、八	一、四、二、〇、〇
十年	五、八、〇、九	一、四、一、〇、〇
十一年	五、九、〇、〇	一、四、〇、〇、〇
十二年	六、〇、〇、一	一、三、九、〇、〇
十三年	六、一、〇、二	一、三、八、〇、〇
十四年	六、二、〇、三	一、三、七、〇、〇
十五年	六、三、〇、四	一、三、六、〇、〇
十六年	六、四、〇、五	一、三、五、〇、〇
十七年	六、五、〇、六	一、三、四、〇、〇
十八年	六、六、〇、七	一、三、三、〇、〇
十九年	六、七、〇、八	一、三、二、〇、〇
二十年	六、八、〇、九	一、三、一、〇、〇

海外地金相場高低表 倫敦金物相場(現物)

年次	標準銀		標準金		銀		亞銀		銀塊		米國電氣銀	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
大正元年	八〇	七五	一〇〇	九五	一五〇	一四〇	一五〇	一四〇	一五〇	一四〇	一五〇	一四〇
二年	七五	七〇	九五	九〇	一四〇	一三〇	一四〇	一三〇	一四〇	一三〇	一五〇	一四〇
三年	七〇	六五	九〇	八五	一三〇	一二〇	一三〇	一二〇	一四〇	一三〇	一五〇	一四〇
四年	六五	六〇	八五	八〇	一二〇	一一〇	一二〇	一一〇	一三〇	一二〇	一五〇	一四〇
五年	六〇	五五	八〇	七五	一一〇	一〇〇	一一〇	一〇〇	一二〇	一一〇	一五〇	一四〇
六年	五五	五〇	七五	七〇	一〇〇	九〇	一〇〇	九〇	一二〇	一一〇	一五〇	一四〇
七年	五〇	四五	七〇	六五	九〇	八〇	一〇〇	九〇	一二〇	一一〇	一五〇	一四〇
八年	四五	四〇	六五	六〇	八〇	七〇	一〇〇	九〇	一二〇	一一〇	一五〇	一四〇
九年	四〇	三五	六〇	五五	七〇	六〇	一〇〇	九〇	一二〇	一一〇	一五〇	一四〇
十年	三五	三〇	五五	五〇	六〇	五〇	一〇〇	九〇	一二〇	一一〇	一五〇	一四〇
十一年	三〇	二五	五〇	四五	五〇	四〇	一〇〇	九〇	一二〇	一一〇	一五〇	一四〇
十二年	二五	二〇	四〇	三五	四〇	三〇	一〇〇	九〇	一二〇	一一〇	一五〇	一四〇
十三年	二〇	一五	三〇	二五	三〇	二〇	一〇〇	九〇	一二〇	一一〇	一五〇	一四〇
十四年	一五	一〇	二〇	一五	二〇	一〇	一〇〇	九〇	一二〇	一一〇	一五〇	一四〇
昭和元年	一〇	五	一五	一〇	一五	五	一〇〇	九〇	一二〇	一一〇	一五〇	一四〇

亞鉛鍍鐵線最近十年間輸出表

年次	数量	價格
大正十年	一、三、〇、〇	四、六、三、〇〇
十一年	一、七、〇、〇	六、八、〇、〇〇
十二年	四、〇、〇	一、〇、〇、〇〇
十三年	八、〇、〇	三、六、〇、〇〇
十四年	一、〇、〇	一、〇、〇、〇〇
昭和元年	一、〇、〇	一、〇、〇、〇〇
二年	一、〇、〇	一、〇、〇、〇〇
三年	一、〇、〇	一、〇、〇、〇〇
四年	一、〇、〇	一、〇、〇、〇〇
五年	一、〇、〇	一、〇、〇、〇〇
六年	一、〇、〇	一、〇、〇、〇〇
七年	一、〇、〇	一、〇、〇、〇〇
八年	一、〇、〇	一、〇、〇、〇〇
九年	一、〇、〇	一、〇、〇、〇〇
十年	一、〇、〇	一、〇、〇、〇〇
十一年	一、〇、〇	一、〇、〇、〇〇

年次	銅板	銅線	真鍮板	真鍮線
十三年一月	數量 1,335	價格 1,335	數量 1,335	價格 1,335
十二年	數量 1,335	價格 1,335	數量 1,335	價格 1,335
十一年	數量 1,335	價格 1,335	數量 1,335	價格 1,335
十年	數量 1,335	價格 1,335	數量 1,335	價格 1,335
九月	數量 1,335	價格 1,335	數量 1,335	價格 1,335
八月	數量 1,335	價格 1,335	數量 1,335	價格 1,335
七月	數量 1,335	價格 1,335	數量 1,335	價格 1,335
六月	數量 1,335	價格 1,335	數量 1,335	價格 1,335
五月	數量 1,335	價格 1,335	數量 1,335	價格 1,335
四月	數量 1,335	價格 1,335	數量 1,335	價格 1,335
三月	數量 1,335	價格 1,335	數量 1,335	價格 1,335
二月	數量 1,335	價格 1,335	數量 1,335	價格 1,335
一月	數量 1,335	價格 1,335	數量 1,335	價格 1,335

銅真鍮板線輸出每年表

年次	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
昭和二年	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000
三年	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000
四年	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000
五年	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000
六年	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000
七年	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000
八年	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000
九年	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000
十年	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000
十一年	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000
十二年	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000

全國瑯琊鐵器最近十年間輸出比較表

年次	數量	價格
大正十四年	1,628,057	1,628,057
十五年	1,628,057	1,628,057
十四年	1,628,057	1,628,057
十三年	1,628,057	1,628,057
十二年	1,628,057	1,628,057
十一年	1,628,057	1,628,057
十年	1,628,057	1,628,057
九年	1,628,057	1,628,057
八年	1,628,057	1,628,057
七年	1,628,057	1,628,057
六年	1,628,057	1,628,057
五年	1,628,057	1,628,057
四年	1,628,057	1,628,057
三年	1,628,057	1,628,057
二年	1,628,057	1,628,057
昭和元年	1,628,057	1,628,057

丸釘每年輸入高

年次	數量	價格
大正十一年	1,628,057	1,628,057
十二年	1,628,057	1,628,057

年次	輸出額	輸入額	移入額	合計
十三年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
十二年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
十一年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
十三年九月迄	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057

內地鐵鑄需要額 (單位千)

年次	輸出額	輸入額	移入額	合計
大正元年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
二年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
三年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
四年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
五年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
六年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
七年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
八年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
九年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
十年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
十一年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
十二年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
十三年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
十四年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
昭和元年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
二年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
三年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
四年	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057

統計及諸表—鐵鋼金物

本邦鐵製品輸出國別

國名	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年
滿洲國	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
關東州	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
中華民國	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
香港	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
英領印度	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
海峽殖民地	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
關領印度	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
南洋羣島	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
比律賓	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
暹羅	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
埃羅	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057
南阿聯邦	1,628,057	1,628,057	1,628,057	1,628,057

北支各省鐵產物理藏量

省	物理藏量
河北	1,628,057
山東	1,628,057
河南	1,628,057
察哈爾	1,628,057

北支鉄鐵產額

年次	產額
一九三三年	1,628,057
三十四年	1,628,057
北支	1,628,057
全支	1,628,057
北支%	1,628,057
北支	1,628,057
北支	1,628,057

ケニヤ・ウガ	四〇四	五三二	五四〇	八七七
ソダ及タンガ	二〇四	一五二	一四〇	一七〇
ニールカ	一〇四	一〇二	一〇〇	一〇〇
モザンビツク	三六七	三三三	三〇八	二七三
濠太刺利	三三三	三〇〇	二六五	二三〇
其他	三、〇〇八	六、二四四	七、七二二	九、九七一
合計	三、七二七	七、〇五〇	八、〇三二	一〇、二一六

北支産金額

河	一九三三年	一九三四年
山	一〇、二〇〇	一〇、三〇〇
北支	三、〇〇〇	三、一〇〇
北支合計	一〇、五〇〇	一〇、六〇〇
各省合計(北支を除く)	一、〇〇〇	一、〇〇〇
全支合計	二、〇〇〇	二、〇〇〇

(單位兩)

河	一九三三年	一九三四年
山	二、三〇〇	二、三〇〇
北支	一、五〇〇	一、五〇〇
北支合計	三、八〇〇	三、八〇〇
各省合計(北支を除く)	一、〇〇〇	一、〇〇〇
全支合計	二、〇〇〇	二、〇〇〇

全支	一、八七五	一、八七五
北支%	四〇・五	四〇・五
合計	三、〇〇〇	三、〇〇〇
北支	一、二二五	一、二二五
全支	三、〇〇〇	三、〇〇〇
北支%	四〇・五	四〇・五

本邦鋼統計表

(單位兩)

年次	生産高	輸入高	輸出高	消費高	在荷高
大正三年	七九、九一九	—	一、〇〇〇	三、三六八	四、四一九
四年	八四、四四九	三三九	七、〇〇〇	三、七九三	三、六九八
五年	一三三、三三七	二、三三三	一、三三三	六、〇九八	三、三三三
六年	一三三、三三七	一、〇〇〇	一、〇〇〇	六、〇九八	三、三三三
七年	一三三、三三七	一、〇〇〇	一、〇〇〇	六、〇九八	三、三三三
八年	一三三、三三七	一、〇〇〇	一、〇〇〇	六、〇九八	三、三三三
九年	一三三、三三七	一、〇〇〇	一、〇〇〇	六、〇九八	三、三三三
十年	一三三、三三七	一、〇〇〇	一、〇〇〇	六、〇九八	三、三三三
十一年	一三三、三三七	一、〇〇〇	一、〇〇〇	六、〇九八	三、三三三
十二年	一三三、三三七	一、〇〇〇	一、〇〇〇	六、〇九八	三、三三三

(内地)(引渡高)(月未文)

亞鉛鐵板仕向地別輸出統計表

(單位(數計兩))

國別	昭和元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年
馬來半島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
暹羅	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中東米	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
阿弗利加	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
近東諸國	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大洋洲	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
英領印度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
亞細亞	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
比律賓	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
香港	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中華民國	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
滿洲國	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
關東州	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
朝鮮東印	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—



其他諸國		金額	數量
合計	金額	九、三三三、三〇一	一、一〇八、三三三
數量	噸	三、三三三、四七四	九、四七三
金額	噸	六、七七一、六六六	三、三三三
噸	噸	九、三三三、三〇一	一、一〇八、三三三

備考 仕向國中、中東米、阿非利加、近東諸國及び大洋洲は昭和七年より設置す、それまではその他諸國中に含む

亞鉛生產高、輸入高表

(單位噸)

年次	内地生產	輸入	需要計
大正	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一	一三、六六六、六〇二
十一年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一	一三、六六六、六〇二
十一年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一	一三、六六六、六〇二
十二年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一	一三、六六六、六〇二
十三年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一	一三、六六六、六〇二
十四年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一	一三、六六六、六〇二
昭和	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一	一三、六六六、六〇二
元年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一	一三、六六六、六〇二
二年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一	一三、六六六、六〇二
三年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一	一三、六六六、六〇二
四年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一	一三、六六六、六〇二
五年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一	一三、六六六、六〇二
六年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一	一三、六六六、六〇二
七年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一	一三、六六六、六〇二
八年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一	一三、六六六、六〇二

亞鉛鍍鐵線最近十年間輸入表

(單位噸)

年次	數量	價格
大正十年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一
十一年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一
十二年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一
十三年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一
十四年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一
昭和元年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一
二年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一
三年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一
四年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一
五年	一〇、三三三、三〇一	三、三三三、三〇一

昭和十一年銑鐵主要製鐵所別生產額

(單位噸)

製鐵所	生產額
日本製鐵株式會社	一、三三三、三〇一
八幡製鐵所	一、三三三、三〇一
輪西製鐵所	一、三三三、三〇一
釜石製鐵所	一、三三三、三〇一
兼二浦製鐵所	一、三三三、三〇一
日本鋼管株式會社	一、三三三、三〇一
鶴見製鐵道株式會社	一、三三三、三〇一
株式會社昭和製鐵所	一、三三三、三〇一

北支鐵礦產額

(單位噸)

新式	一九三三年	三四年
北支	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
全支	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
北支%	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
土法	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
北支	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
全支	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
北支%	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
合計	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
北支	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
全支	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
北支%	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一

本邦電氣機械器具品目別生產額累年表

(單位千圓)

品目	昭和四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年
發電機	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
電動機	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
變壓器	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
扇風機	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
電熱器	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
絕緣線	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
電線	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
無線、有線通信機器	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
電池	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
其他	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一

本邦電氣機械器具府縣別生產額 (昭和十一年、單位千圓)

府縣	發電機	電動機	變壓器	扇風機	電熱器	絕緣線	電線	無線、有線通信機器	電池	其他
東京	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
大阪	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
神奈川	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
兵庫	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
福岡	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
愛媛	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
長門	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
北九州	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一
三宮	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一	一、三三三、三〇一

愛媛	1	1	1	1	1	1	1	1	1
奈良	1	1	1	1	1	1	1	1	1
京都	1	1	1	1	1	1	1	1	1
徳島	1	1	1	1	1	1	1	1	1
香取	1	1	1	1	1	1	1	1	1
岩手	1	1	1	1	1	1	1	1	1
山形	1	1	1	1	1	1	1	1	1
秋田	1	1	1	1	1	1	1	1	1
青森	1	1	1	1	1	1	1	1	1
北海道	1	1	1	1	1	1	1	1	1

本邦原動機製品別生産額累年表

(単位千圓)

昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

世界各國發電量 (單位百萬キロワット)

國名	一九三五	一九三六	一九三七
アメリカ	19,350	23,630	22,000
イギリス	7,600	8,400	8,000
フランス	5,200	6,000	6,000
ドイツ	4,500	5,000	5,000
ソビエト	3,500	4,000	4,000
イタリア	3,200	3,500	3,500
カナダ	2,800	3,000	3,000
日本	2,500	2,800	2,800
その他	1,500	1,800	1,800

發電水力 (一九三六年)

國名	總水力 (千馬力)	利用水力 (千馬力)	發電量 (百萬キロワット)
アメリカ	20,000	17,000	19,350
イギリス	7,000	6,000	7,600
フランス	5,000	4,500	5,200
ドイツ	4,000	3,500	4,500
ソビエト	3,500	3,000	3,500
イタリア	3,000	2,800	3,200
カナダ	2,500	2,300	2,800
日本	2,000	1,800	2,500
その他	1,500	1,300	1,500

世界各國水底電線 (一九三四年)

國名	水底電線 (キロメートル)	電力 (キロワット)
アメリカ	10,000	1,000,000
イギリス	5,000	500,000
フランス	3,000	300,000
ドイツ	2,000	200,000
ソビエト	1,500	150,000
イタリア	1,000	100,000
カナダ	800	80,000
日本	700	70,000
その他	500	50,000

本邦電氣事業全般

本邦發電水力 (昭和十一年)

事業種別	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
供給	5,000	5,500	6,000	6,500
供給	1,000	1,200	1,500	1,800
供給	500	600	700	800
供給	100	150	200	250
供給	50	70	100	130
供給	20	30	40	50
供給	10	15	20	25
供給	5	7	10	13
供給	2	3	4	5

五十萬圓以上	一	六	一
百萬圓以上	一	二	一
五百萬圓以上	一	三	一
千圓以上	一	七	一
計	八	一〇	一

昭和九	一〇	一一
下開	二	二
千圓	二	二
千圓	二	二

電力	昭和九	一〇	一一
電燈	昭和九	一〇	一一
電氣	昭和九	一〇	一一

東京	一、三三	七、九二	一、〇〇	一、〇〇
大阪	一、三三	三、〇〇	九、〇〇	一、〇〇
名古屋	一、三三	一、二一	一、〇〇	一、〇〇
京都	一、三三	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
神戸	一、三三	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
横濱	一、三三	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
廣島	一、三三	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
福岡	一、三三	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
仙台	一、三三	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
長崎	一、三三	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
八幡	一、三三	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇

山形	一、〇〇	一、〇〇
岩手	一、〇〇	一、〇〇
宮城	一、〇〇	一、〇〇
福島	一、〇〇	一、〇〇
新潟	一、〇〇	一、〇〇
長野	一、〇〇	一、〇〇
群馬	一、〇〇	一、〇〇
茨城	一、〇〇	一、〇〇
栃木	一、〇〇	一、〇〇
群馬	一、〇〇	一、〇〇
東京	一、〇〇	一、〇〇
千葉	一、〇〇	一、〇〇
神奈川	一、〇〇	一、〇〇
山梨	一、〇〇	一、〇〇
静岡	一、〇〇	一、〇〇
愛知	一、〇〇	一、〇〇
三重	一、〇〇	一、〇〇
富山	一、〇〇	一、〇〇
石川	一、〇〇	一、〇〇
岐阜	一、〇〇	一、〇〇
福井	一、〇〇	一、〇〇
滋賀	一、〇〇	一、〇〇
京都	一、〇〇	一、〇〇
奈良	一、〇〇	一、〇〇
大阪	一、〇〇	一、〇〇

昭和九	一〇	一一
昭和九	一〇	一一
昭和九	一〇	一一

昭和九	一〇	一一
昭和九	一〇	一一
昭和九	一〇	一一

昭和九	一〇	一一
昭和九	一〇	一一
昭和九	一〇	一一

本邦産業別電力需要

Table showing electricity usage by industry for the average of 1917 and 1918. Categories include iron and steel, cotton, silk, paper, etc. Values are in thousands of kWh.

Table showing electricity requirements by industry for June 1923. Categories include iron and steel, cotton, silk, paper, etc. Values are in thousands of kWh.

水力

Table showing the number of power stations and total capacity in kW for hydroelectric power from 1913 to 1923.

本邦原動機生産額主要府縣別表 (昭和十一年、單位千圓)

Table showing the production of prime movers by prefecture for 1920. Categories include steam engines, gas engines, and turbines. Values are in thousands of yen.

火力

Table showing the total capacity in kW for thermal power from 1913 to 1923.

本邦發電量 (昭和十二年)

Table showing electricity generation by prefecture for 1921. Categories include hydroelectric and thermal power. Values are in thousands of kWh.

世界國別自動車生産高

(一九三五年より一九三七年迄)

車種別	乗用車			貨物及バス			各該自動車合計		
	一九三五年	一九三六年	一九三七年	一九三五年	一九三六年	一九三七年	一九三五年	一九三六年	一九三七年
米	三、五三、四四	三、六九、五三八	三、九五、八六二	六、四、六〇	八、〇、五三	三、九、六、四四	三、九、六、四四	四、〇、一、一五	四、〇、九、五五
カナ	一、五三、五三	二、八、六六九	一、五三、六三二	三、七、三三	三、七、三三	三、七、三三	一、七、二、八七	一、七、二、八七	一、〇、九、〇〇〇
合	三、七八、八六六	三、七八、八六六	四、〇、六、四四	七、三、〇〇五	八、八、八、七七	九、八、八、〇二	四、一、九、八、二二	四、六、六、二、四四	五、〇、一、六、五五
オーストリア	一、八八	二、〇〇〇	〇	三三	三三	三三	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	五、一、五〇
ベルギー	一、八八	二、〇〇〇	〇	三三	三三	三三	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	五、一、五〇
チェコスロバキヤ	一、八八	二、〇〇〇	〇	三三	三三	三三	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	五、一、五〇
デンマーク	一、八八	二、〇〇〇	〇	三三	三三	三三	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	五、一、五〇
フランス	一、八八	二、〇〇〇	〇	三三	三三	三三	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	五、一、五〇
英國	一、八八	二、〇〇〇	〇	三三	三三	三三	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	五、一、五〇
ハンガリー	一、八八	二、〇〇〇	〇	三三	三三	三三	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	五、一、五〇
イタリア	一、八八	二、〇〇〇	〇	三三	三三	三三	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	五、一、五〇
日本	一、八八	二、〇〇〇	〇	三三	三三	三三	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	五、一、五〇
ポランド	一、八八	二、〇〇〇	〇	三三	三三	三三	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	五、一、五〇
スウェーデン	一、八八	二、〇〇〇	〇	三三	三三	三三	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	五、一、五〇
ソ連邦	一、八八	二、〇〇〇	〇	三三	三三	三三	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	五、一、五〇
その他	一、八八	二、〇〇〇	〇	三三	三三	三三	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	五、一、五〇
米加海外合計	七、九、六、六一	七、九、六、六一	七、九、六、六一	七、九、六、六一	七、九、六、六一	七、九、六、六一	七、九、六、六一	七、九、六、六一	七、九、六、六一
世界合計	四、一、九、三、五、二	四、一、九、三、五、二	四、一、九、三、五、二	四、一、九、三、五、二	四、一、九、三、五、二	四、一、九、三、五、二	四、一、九、三、五、二	四、一、九、三、五、二	四、一、九、三、五、二

備考 一、一九三五年及び一九三六年の米國及び加奈院外の数字は米國の外國及び内地商務局自動車部の調査によりその他はアメリカン・オートモビル誌の調査による 二、英本國の統計は九月六日現在の年度計算

全國乗合自動車業者車輛別統計

(昭和十一年八月一日現在、日本乗合自動車協會調)

府縣別	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
北海道	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
青森	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
岩手	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
宮城	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
秋田	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
山形	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
福島	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
茨城	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
栃木	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
群馬	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
群馬	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
千葉	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
東京	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
神奈川	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
新潟	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
富山	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
石川	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
福井	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
山梨	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
長野	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
岐阜	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
愛知	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
三重	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
滋賀	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
京都	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
大阪	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
兵庫	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
奈良	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
和歌山	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
鳥取	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
島根	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
岡山	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
広島	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
山口	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
徳島	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
香川	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
愛媛	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
高松	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
福岡	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
佐賀	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
長門	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
熊本	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
大分	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
宮崎	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
鹿児島	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
沖縄	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計
合	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	以上	不明	計

世界各國自動車數(一九三八年首現在)

國名	乗用	貨物用	總數	人口一萬に付
アメリカ	3,500,000	1,100,000	4,600,000	53.0
イギリス	1,700,000	500,000	2,200,000	50.0
フランス	1,500,000	300,000	1,800,000	45.0
ドイツ	1,100,000	200,000	1,300,000	40.0
カナダ	1,000,000	100,000	1,100,000	35.0
オーストラリア	500,000	100,000	600,000	25.0
ソ連邦	400,000	100,000	500,000	20.0
イタリア	300,000	100,000	400,000	15.0
南アフリカ	200,000	50,000	250,000	10.0
アルゼンチン	100,000	50,000	150,000	5.0
ニュージーランド	100,000	50,000	150,000	5.0
ベルギー	100,000	50,000	150,000	5.0
スウェーデン	100,000	50,000	150,000	5.0
英領印度	100,000	50,000	150,000	5.0
オランダ	100,000	50,000	150,000	5.0
ブラジル	100,000	50,000	150,000	5.0
デンマーク	100,000	50,000	150,000	5.0
スペイン	100,000	50,000	150,000	5.0
メキシコ	100,000	50,000	150,000	5.0
チエツコスロヴァキア	100,000	50,000	150,000	5.0
スイス	100,000	50,000	150,000	5.0
ノルウェー	100,000	50,000	150,000	5.0

國名	一九三三年	三四年	三五年	三六年	三七年
關領印度	47,800	50,000	52,000	54,000	56,000
アルジェリア	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
アイルランド	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
ハワイ	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
フィリピン	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
中華民國	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000

米國車種別自動車生産高	一九三三年	三四年	三五年	三六年	三七年
フォード	2,863,300	3,050,000	3,200,000	3,350,000	3,500,000
シボレー	466,000	500,000	530,000	560,000	590,000
オールドモビル	466,000	500,000	530,000	560,000	590,000
デュイック	466,000	500,000	530,000	560,000	590,000
キヤデラック	466,000	500,000	530,000	560,000	590,000
クライスラー	466,000	500,000	530,000	560,000	590,000
デソット	466,000	500,000	530,000	560,000	590,000
ダッチ	466,000	500,000	530,000	560,000	590,000
グラハム	466,000	500,000	530,000	560,000	590,000
ハドソン	466,000	500,000	530,000	560,000	590,000
ハツブモビル	466,000	500,000	530,000	560,000	590,000
ラサール	466,000	500,000	530,000	560,000	590,000
リンカーン	466,000	500,000	530,000	560,000	590,000
ナッシュ	466,000	500,000	530,000	560,000	590,000
ワイエット	466,000	500,000	530,000	560,000	590,000
オールズモビル	466,000	500,000	530,000	560,000	590,000
バッカード	466,000	500,000	530,000	560,000	590,000

本邦自轉車及び同部分品輸入表

品名	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年
自轉車	1,200	1,500	1,800
部分品	500	600	700
合計	1,700	2,100	2,500

全國乗合自動車車輛數

道別	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年
北海道	1,200	1,500	1,800
青森	1,000	1,200	1,400
岩手	800	1,000	1,200
宮城	1,500	1,800	2,100
秋田	1,000	1,200	1,400
山形	1,200	1,500	1,800
福島	1,500	1,800	2,100
茨城	1,000	1,200	1,400
栃木	1,200	1,500	1,800
埼玉	1,500	1,800	2,100
東京	2,000	2,500	3,000
神奈川	1,500	1,800	2,100
新潟	1,000	1,200	1,400
富山	800	1,000	1,200
石川	1,000	1,200	1,400
福井	800	1,000	1,200
山梨	1,000	1,200	1,400
長野	1,200	1,500	1,800
静岡	1,500	1,800	2,100
愛知	1,800	2,200	2,600
岐阜	1,200	1,500	1,800
三重	1,000	1,200	1,400
滋賀	800	1,000	1,200
奈良	1,000	1,200	1,400
和歌山	800	1,000	1,200
熊本	1,000	1,200	1,400
長崎	1,200	1,500	1,800
佐賀	1,000	1,200	1,400
福岡	1,500	1,800	2,100
高知	800	1,000	1,200
愛媛	1,000	1,200	1,400
香川	1,200	1,500	1,800
徳島	1,000	1,200	1,400
山口	1,200	1,500	1,800
廣島	1,500	1,800	2,100
岡山	1,800	2,200	2,600
島根	1,000	1,200	1,400
鳥取	800	1,000	1,200
兵庫	1,200	1,500	1,800
大阪	2,500	3,000	3,500
京都	1,800	2,200	2,600
大分	1,000	1,200	1,400
宮崎	800	1,000	1,200
鹿児島	1,000	1,200	1,400
沖縄	1,200	1,500	1,800
合計	15,000	18,000	21,000



昭和十二年度に於ける北米合衆國工作機械輸出一覽表

Table showing export values for mechanical equipment to North America in 1927. Columns include destination (e.g., USA, Canada, Mexico), equipment type (e.g., lathes, mills, presses), and value in thousands of yen.

本邦工作機械需給

Table showing the supply and demand for domestic mechanical equipment from 1919 to 1927. Columns include year, production, and supply/demand figures.

本邦機械器具品目別生産額

Table showing production values by category for domestic mechanical equipment from 1910 to 1927. Categories include agricultural machinery, construction, and industrial tools.

本邦機械器具生産額府縣別累年表

Large table showing cumulative production values for mechanical equipment by prefecture from 1910 to 1927. Lists prefectures like Tokyo, Osaka, and others with their respective production figures.



本邦諸機械品目別輸出

Table showing export values for various mechanical products from 1914 to 1922. Includes categories like '内燃機', '送風機', '計器', etc. with columns for years and values.

本邦機械及び部分品輸出

Table showing export values for domestic machinery and parts by country from 1914 to 1922. Includes categories like '輸出', '輸入', and '合計'.

本邦機械器具年別需給表

Table showing annual supply and demand for domestic machinery and tools from 1914 to 1922. Includes columns for '生産額', '輸入額', '輸出額', and '需額'.

### 北支機械器具輸入高表 (單位 金單位)

一九三三年 一九三四年 一九三五年 三年合計 三年平均

(部分品を含む)

二、七四、五六一、五五七 六、五〇、一四四 三、八四、二七四、六二六、二六六

車船及び計 四、〇四、三三三、三六六、三三三 四、八三、三三三 三、四四、七四四、〇八一、六五五

六、八六、六九七、八七〇、二二四、二二五、三三三、二九〇、二八八、七〇九、六八一

### 本邦度量衡器年別生産額

昭和四年 一、〇八、八〇〇、三三三、三三三 五、三三三、三三三 二、三三三、三三三

度量 量器 衡器 瓦斯メ 水量メ 部分 合計

千圓 千圓 千圓 千圓 千圓 千圓

### 北支機械器具輸出高表 (單位 金單位)

一九三一年 一九三二年 一九三三年 一九三四年 一九三五年 三年合計 三年平均

二、六七、三三三 三、三三三、三三三 二、三三三、三三三 一、三三三、三三三 一、三三三、三三三

機械器具(部分品を含む)二、六七、三三三 三、三三三、三三三 二、三三三、三三三 一、三三三、三三三 一、三三三、三三三

船及びボート 一、三三三、三三三 一、三三三、三三三 一、三三三、三三三 一、三三三、三三三 一、三三三、三三三

計 四、〇〇六、六六六 四、六六六、六六六 三、六六六、六六六 二、六六六、六六六 二、六六六、六六六

### 府縣別車輛生産額 (單位千圓、昭和十一年)

府縣	自動車及同部分品		自動車		自轉車		人力車		荷車		其他	
	貨車及同部分品	客車及同部分品	貨車	客車	自轉車	自轉車	人力車	人力車	荷車	其他	其他	
大阪	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
京都	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
兵庫	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
愛知	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
山梨	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
新瀉	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

### 本邦車輛累年生産額 (單位千圓)

昭和	貨車及同部分品	客車及同部分品	自動車	自轉車	自轉車	人力車	荷車	其他	合計
四年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
五年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
六年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
七年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
八年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
九年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
十年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
十一年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

### 本邦機關車生産額細別表

昭和	機關車	ガソリン部分品及合計	
		機關車	合計
四年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
五年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

### 本邦進水船舶月別表

昭和十一年	噸數	月別													
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
噸數	千噸	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

昭和十二年度本邦全硝子製品生産額

(自昭和十二年四月至昭和十三年三月)

種類	生産額	輸出額	内地向	生産額に對する輸出の割合	總生産額に對する輸出の割合
硝子	1,175,000	11,900,000	11,625,000	1.0%	3.3%
食器及食料容器	10,656,000	5,632,000	5,024,000	0.5%	4.7%
模造眞珠	5,000	5,000	1,000	0.0%	0.0%
醫學器、理化學器、其他	6,847,000	(推定) 2,226,000	4,621,000	0.3%	3.3%
バルブ	1,675,000	1,075,000	570,000	0.7%	0.7%
光燭	1,123,000	1,100,000	23,000	0.1%	0.2%
人造眞珠	2,774,000	2,420,000	354,000	0.9%	2.5%
腕法	1,666,000	1,666,000	0	1.0%	1.8%
燧	4,021,000	3,666,000	355,000	0.9%	4.4%
マーブル玉	5,321,000	3,321,000	2,000,000	0.6%	6.0%
石油洋燈	2,811,000	2,811,000	0	1.0%	1.1%
板硝子(推定)	4,000,000	2,300,000	1,700,000	0.7%	2.6%
計	33,648,000	30,921,000	2,727,000	0.8%	3.7%

備考 主として關係組合の業務成績報告による生産額を基準とせりも調査困難なるものは貿易月報又は其他参考書等により推定せり

昭和十二年度本邦輸出硝子製品検査

種別	検査数量	検査成績	検査總數に對する検査合格の割合	平均
硝子	9,459,455	9,277,126	97.8%	1.0000
食料容器	8,867	8,867	100.0%	1.0000
模造眞珠	5,000	5,000	100.0%	1.0000
醫學器、理化學器、其他	1,075,000	1,075,000	100.0%	1.0000
バルブ	1,075,000	1,075,000	100.0%	1.0000
光燭	1,100,000	1,100,000	100.0%	1.0000
人造眞珠	2,420,000	2,420,000	100.0%	1.0000
腕法	1,666,000	1,666,000	100.0%	1.0000
燧	3,666,000	3,666,000	100.0%	1.0000
マーブル玉	3,321,000	3,321,000	100.0%	1.0000
石油洋燈	2,811,000	2,811,000	100.0%	1.0000
板硝子(推定)	2,300,000	2,300,000	100.0%	1.0000
計	30,921,000	30,921,000	100.0%	1.0000

滿洲パルプ工業(昭和十三年)

工場名	系統	資本金	年産	工場所在地
滿洲パルプ	寺田系	10,000	10,000	牡丹江下流楠林
日滿パルプ	王子系	10,000	10,000	京畿縣敦化
東洋パルプ	川西系	10,000	10,000	關佳嶽石硯
東滿洲人絹パルプ	大川系	5,000	5,000	間島省湖山邑
鴨綠江製紙パルプ	王子系	5,000	5,000	製紙五安東
計		45,000	45,000	

北支セメント生産高表

種別	昭和六年	七年	八年	九年	十年
啓新洋灰	3,521,000	4,121,000	3,341,000	3,101,000	3,111,000
致敵水坭	4,121,000	4,121,000	4,121,000	4,121,000	4,121,000
山東セメント	—	—	—	—	—
西北洋灰廠	—	—	—	—	—
計	7,642,000	8,242,000	7,462,000	7,222,000	7,232,000

世界護謨積出高(單位英噸)

年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
英領馬來	1,031,000	1,121,000	1,211,000	1,301,000	1,391,000	1,481,000
荷蘭	5,211,000	5,311,000	5,411,000	5,511,000	5,611,000	5,711,000
關連印度	3,121,000	3,221,000	3,321,000	3,421,000	3,521,000	3,621,000
其他	1,211,000	1,311,000	1,411,000	1,511,000	1,611,000	1,711,000
計	10,574,000	10,964,000	11,354,000	11,744,000	12,134,000	12,524,000

北支那セメント工場表

工場名	國籍別	所在地	設立年	資本金	年産能力
啓新洋灰	支那	唐山	一八七〇	15,000	300,000
致敵水坭	支那	濟南	一九〇〇	1,000	30,000
山東セメント	日本	濱口	一九〇〇	1,000	30,000
西北洋灰廠	山西省營	太原	一九〇〇	1,000	30,000
計				18,000	390,000

米國各州別亞麻仁收穫豫想高

州名	一九二七年平均	一九三七年	一九三八年
ミシガン	25,000	25,000	25,000

品名	單位	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
ウイニコシン	噸	71,000	411,000	62,000	346,000	110,000	591,000	100,000	528,000
ミネソリ	噸	5,511,000	8,047,000	5,200,000	7,200,000	121,000	161,000	100,000	130,000
ミゾリ	噸	15,000	10,000	10,000	7,000	7,000	10,000	10,000	10,000
北ダコタ	噸	4,800,000	1,400,000	1,800,000	1,200,000	2,000,000	600,000	2,000,000	600,000
南ダコタ	噸	1,710,000	360,000	360,000	360,000	3,510,000	6,900,000	8,150,000	8,150,000
全國合計						3,751,000	6,900,000	8,150,000	8,150,000

### 昭和十三年化學關係品生産額

品名	單位	十三年七月		前月		前年同月		昭和十三年		一月以降累計	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
セメント	噸	4,550,000	—	4,880,000	—	5,380,000	—	3,351,000	—	3,551,000	—
過燐酸石灰	噸	9,600,000	4,880,800	101,300	5,000,000	1,380,000	5,830,000	8,500,000	4,200,000	9,900,000	4,200,000
硫酸(濃縮)	噸	1,200,000	2,600,000	1,300,000	2,800,000	1,000,000	2,200,000	8,500,000	3,800,000	7,500,000	3,800,000
石灰	噸	1,800,000	1,800,000	1,900,000	1,900,000	1,300,000	1,300,000	1,300,000	1,300,000	1,300,000	1,300,000
石炭	噸	3,300,000	1,700,000	3,400,000	1,700,000	3,400,000	1,700,000	3,400,000	1,700,000	3,400,000	1,700,000
硝子	噸	5,700,000	—	6,200,000	—	7,100,000	—	5,700,000	—	5,700,000	—
苛性ソーダ	噸	8,600,000	8,600,000	8,600,000	8,600,000	8,600,000	8,600,000	8,600,000	8,600,000	8,600,000	8,600,000
板硝子	噸	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000
印刷用紙	噸	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000
新聞用紙	噸	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000
包紙	噸	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000
紙類	噸	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000
その他	噸	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000
アソルト	噸	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000
ソール	噸	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000

### 支那曹達工業會社表

會社名	所在地	設立	資本金	製品	備考
永利化學工業公司	塘沽、浦口	一九一五年	5,000千元	曹達灰、苛性曹達、重碳酸曹達、硫酸	製法ソルヴェー法浦口は硫酸工場
渤海化學工業公司	塘沽	一九二六年	600	硫酸曹達、硅酸曹達、芒硝、鹽酸、炭酸マグネシウム、炭酸カルシウム	
興華總廠	天津	一九二九年	500	硅酸	
老利天津分廠	天津	一九二六年	500	硅酸	
合記化學工業製造公司	河北省河間縣	一九三二年	300	苛性曹達、乾曹達、元明粉	總廠、景泰縣製造工廠在北京
西北實業公司	太原	一九三五年	500	苛性曹達、漂白粉、鹽酸	
通盛化學工廠	太原	一九三四年	500	曹達	
道義製鐵工廠	濟南	一九三三年	100	曹達	

### 本邦セメント生産、出荷、在庫高統計

(昭和十三年十月分迄、數量は噸)

種別	昭和十三年										合計
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	
セメント生産	3,500,000	3,900,000	4,000,000	4,300,000	4,800,000	5,200,000	5,500,000	5,800,000	6,000,000	6,200,000	52,000,000
セメント出荷	3,300,000	3,700,000	3,800,000	4,100,000	4,600,000	5,000,000	5,300,000	5,600,000	5,800,000	6,000,000	48,000,000
セメント在庫	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	4,000,000
内地向出荷	2,500,000	2,800,000	2,900,000	3,200,000	3,700,000	4,100,000	4,400,000	4,700,000	4,900,000	5,100,000	40,000,000
海外向出荷	800,000	900,000	900,000	900,000	900,000	900,000	900,000	900,000	900,000	900,000	4,000,000
在庫	2,000,000	2,200,000	2,300,000	2,400,000	2,500,000	2,600,000	2,700,000	2,800,000	2,900,000	3,000,000	28,000,000
クリンカー在庫	1,500,000	1,600,000	1,700,000	1,800,000	1,900,000	2,000,000	2,100,000	2,200,000	2,300,000	2,400,000	22,000,000

世界護謨產地積出高 (單位=英噸)

Table showing world rubber production by country and month from 1919 to 1922. Countries listed include USA, Brazil, India, etc. Months listed from January to May.

昭和十二年度本邦硝子製品國別輸出統計

Table showing the export statistics of domestic glass products by country for the 12th year of the Showa era (1922).

内地に於ける主要販賣肥料の生産額 (單位=噸、千圓)

Table showing the production amounts of major fertilizers sold in the domestic market from 1918 to 1921. Fertilizers listed include phosphate, urea, etc.

滿洲大豆豫想收穫高 (昭和十二年度、康德四年)

Table showing the estimated soybean harvest in Manchuria for the 12th year of the Showa era and the 4th year of the Kangde era. Includes regional breakdowns.

世界護謨生産消費額

Table showing the world production and consumption of rubber, broken down by country/region.

北	京	關	小	計
瀋陽	瀋陽	瀋陽	瀋陽	瀋陽
...	...	...	...	...

世界油脂生産高

(フランク・フェア商會調査)

國名	一九二七年	一九二八年	一九二九年
一、オリーブ油	...	...	...
二、大豆油	...	...	...

本邦生ゴム輪

入國別

國名	昭和十一年	昭和十二年
...	...	...

消費額	...
...	...

丁	瑞	北	英	日	合	四	三	二	一	支	日	伊	和	獨	英	支	合	一	支	英
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

英領印度	北米	英吉利	和蘭	其他	合計
...	...	...	...	...	...

世界採油原料、雜穀  
その他農産原料品價  
格指數

年次 雜穀 採油原料 其他農産原料

一九三〇年 六三 六三 六三

一九三一年 六三 六三 六三

一九三二年 六三 六三 六三

一九三三年 六三 六三 六三

一九三四年 六三 六三 六三

一九三五年 六三 六三 六三

一九三六年 六三 六三 六三

一九三七年 六三 六三 六三

一九三八年 六三 六三 六三

註一 一九二七—一九二九年を一〇〇とする

雜穀は蕎麥、玉蜀黍、大豆、榨油原料は亞麻仁、大豆、棉實、その他農産原料は棉花、羊毛、生糸、黄麻、皮革、錫礦

Table of international trade statistics including categories like 佛國西 (France West), 獨逸 (Germany), 和蘭 (Holland), and 伊太利 (Italy). It lists various agricultural products and their values in different currencies.

南氷洋鯨油生産高

Table showing the production and export of whale oil from the North Atlantic, including data for the years 1926-1928 and a note on the unit used.

本邦肥料輸出

Table detailing the export of fertilizers from Japan, categorized by type (e.g., 肥料, 骨粉) and listing specific quantities and prices.

Main table for domestic agricultural statistics, titled '昭和十三年菜種實收高' (High Yield of Rapeseed in Showa 13). It lists production data for various regions like 北海道 (Hokkaido), 東北 (Tohoku), and 關東 (Kanto).

中國區

Table showing trade data for China (中國區) with columns for region (e.g., 島根, 山口), items, and values. Includes sub-sections for 九州區 and 沖繩區.

本邦植物油原料輸入、製油輸出高比較

(單位=樽)

Table comparing domestic vegetable oil raw material input and refined oil output. Columns include item names (大豆, 花生, etc.), years (昭和十一年, etc.), and quantities.

一月より九月迄の累計

濠太刺利

Table for '濠太刺利' (Haito) showing values for 'その他' and '計'.

外安輸入價額

(單位圓)

Table for '外安輸入價額' (Foreign purchase value) showing data for 十二年度 and 十三年九月迄.

本邦肥料製造業者

Table for '本邦肥料製造業者' (Domestic fertilizer manufacturers) showing production and sales for 十一年 and 十一年.

本邦工業藥品

Table for '本邦工業藥品' (Domestic industrial chemicals) listing various chemical products and their production values.

支那硫酸工場表

Table for '支那硫酸工場表' (China Sulfuric Acid Plants Table) listing plant names, locations, and production data.

本邦肥料製造業者

Table for '本邦肥料製造業者' (Domestic fertilizer manufacturers) with columns for '種別' and '昭和十一年'.

Table for fertilizer manufacturers, categorized by '植物質肥料' (Plant-based fertilizers) and '動物質肥料' (Animal-based fertilizers).



工場別	昭和九	一〇	一一	
利中製酸廠	天津	三〇〇	三〇〇	三〇〇
得利三酸廠	唐山	五〇〇	五〇〇	五〇〇
西北實業化學	太原	五〇〇	五〇〇	五〇〇
開成硫酸廠	上海	五〇〇	五〇〇	五〇〇
江蘇藥水廠	上海	五〇〇	五〇〇	五〇〇
兩廣硫酸廠	梧州	五〇〇	五〇〇	五〇〇
集成三散廠	西安	五〇〇	五〇〇	五〇〇
永利化學工業	南京	五〇〇	五〇〇	五〇〇
天利氣火氣	上海	五〇〇	五〇〇	五〇〇
江蘇藥水廠	上海	五〇〇	五〇〇	五〇〇
集成三酸工廠	西安	五〇〇	五〇〇	五〇〇

種別	昭和九	一〇	一一
硫酸安母尼亞	三〇〇	三〇〇	三〇〇
過磷酸石灰	三〇〇	三〇〇	三〇〇
油成肥料	三〇〇	三〇〇	三〇〇
魚灰	三〇〇	三〇〇	三〇〇
石灰	三〇〇	三〇〇	三〇〇
骨粉	三〇〇	三〇〇	三〇〇
其他共計	三〇〇	三〇〇	三〇〇

本邦重要化學製品輸出高

種別	數量	價額
植物油	八六、〇〇〇	三、六六、六六六
亞麻仁油	二、二二二	六、六六六
椰子油	三、三三三	九、九九九
椰子油	四、四四四	一、二、三、四
硬化油	五、五五五	一、五、七、九
石鹼	六、六六六	二、〇、二、〇
硫酸	七、七七七	二、五、七、七
硝酸	八、八八八	三、〇、〇、〇
鹽酸	九、九九九	三、五、五、五
苛性曹達	一〇、一〇一〇	四、〇、〇、〇
曹達灰	一一、一一一	四、五、五、五
植物油	一二、一二二	五、〇、〇、〇
亞麻仁油	一三、一三三	五、五、五、五
椰子油	一四、一四四	六、〇、〇、〇
椰子油	一五、一五五	六、五、五、五
硬化油	一六、一六六	七、〇、〇、〇

本邦セメント工場統計

工場別	昭和九	一〇	一一
昭和六	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
九	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
一〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
一一	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇

支那硝子器具工場

工場別	昭和九	一〇	一一
天津	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
北京	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
青島	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
濟南	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
博山	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇

本邦ゴム製品 (工場統計)

種別	昭和九	一〇	一一
タイヤ及附屬品	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
靴その他履物	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
玩具	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
管	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
その他	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇

本邦木材パルプ統計 (農林省調)

地方別	昭和九	一〇	一一
本邦	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
支那	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
南洋	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
他	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇

支那セメント工場表

會社名	所在地	年生産能力
啓新洋灰公司	河北省唐山	一、〇〇〇,〇〇〇
華北水泥公司	河北省大沽	一、〇〇〇,〇〇〇
廣州士敏土廠	廣東省	一、〇〇〇,〇〇〇
上海華西水泥公司	上海市	一、〇〇〇,〇〇〇
中國水泥公司	廣東省	一、〇〇〇,〇〇〇
西村士敏土廠	廣東省	一、〇〇〇,〇〇〇
致致洋灰公司	廣東省	一、〇〇〇,〇〇〇
青洲水泥公司	廣東省	一、〇〇〇,〇〇〇
海防水泥公司	廣東省	一、〇〇〇,〇〇〇
江甯水泥公司	廣東省	一、〇〇〇,〇〇〇
四川水泥公司	四川省	一、〇〇〇,〇〇〇
建設中のもの	四川省	一、〇〇〇,〇〇〇

Table showing domestic requirements (国内需要額) and production (生産) for various materials. Includes columns for year (年次), production (生産), and requirements (需要).

Table showing domestic requirements (国内需要額) and production (生産) for various materials. Includes columns for year (年次), production (生産), and requirements (需要).

Table showing domestic requirements (国内需要額) and production (生産) for various materials. Includes columns for year (年次), production (生産), and requirements (需要).

Table showing domestic requirements (国内需要額) and production (生産) for various materials. Includes columns for year (年次), production (生産), and requirements (需要).

Table showing domestic requirements (国内需要額) and production (生産) for various materials. Includes columns for year (年次), production (生産), and requirements (需要).

Table showing domestic requirements (国内需要額) and production (生産) for various materials. Includes columns for year (年次), production (生産), and requirements (需要).

計十二社

北支粘土産額

Table showing clay production (北支粘土産額) by region (region: 河北, 山東, etc.) and year (year: 一九三三年, 一九三四年).

本邦建築構造種別表

Main table showing building structure types (本邦建築構造種別表) by year (昭和十二年, 十三年) and type (木造, 煉瓦造, etc.). Columns include number of buildings (棟數), floor area (床面積), and construction cost (工事費).

Table showing building structure types (本邦建築構造種別表) by year (昭和十二年, 十三年) and type (木造, 煉瓦造, etc.). Columns include number of buildings (棟數), floor area (床面積), and construction cost (工事費).



本邦主要建築材料價格並に指數表

(東京方面 昭和十三年九月二十日現在)

Table with columns: 名 (Name), 稱 (Type), 單位 (Unit), 價格指數 (Price Index), 三ヶ月前との指數差 (Change in index 3 months ago), 三ヶ月前との指數差の割合 (Ratio of change in index 3 months ago). Rows include items like 鋼梁石, 砂利, 煉瓦, etc.

本邦建築職工勞銀並に指數表

(昭和十三年九月二十日現在) 東京方面

Table with columns: 名稱 (Name), 單位 (Unit), 勞銀指數 (Wage Index), 三ヶ月前との指數差 (Change in index 3 months ago). Rows include 大工, 木挽, 土工, etc.

Table with columns: 名 (Name), 稱 (Type), 單位 (Unit), 價格指數 (Price Index), 三ヶ月前との指數差 (Change in index 3 months ago), 三ヶ月前との指數差の割合 (Ratio of change in index 3 months ago). Rows include 杉二間板割, 杉一間四分板, etc.

Table with columns: 名 (Name), 稱 (Type), 單位 (Unit), 價格指數 (Price Index), 三ヶ月前との指數差 (Change in index 3 months ago), 三ヶ月前との指數差の割合 (Ratio of change in index 3 months ago). Rows include 檜丸太三間, 柳角材, etc.

Table with columns: 名稱 (Name), 單位 (Unit), 勞銀指數 (Wage Index), 三ヶ月前との指數差 (Change in index 3 months ago). Rows include 經子, 硝子, 鑄冶, etc.

備考 本表第一表に於ける指数は大正三年六月末の材料価格を一〇〇と爲し之を基準とす  
第二表に於ける指数は昭和九年六月末の材料価格を一〇〇と爲し之を基準とす

平均一八一

(昭和十二年一ヶ年累計)

種別	棟数	床面積 平方米	工事費
△住居建築物	六、六三三	五、五六一、六一	一、六六〇、四四〇
住 宅	五、四一八	五、二六六、六七	一、二〇三、一〇一
獨立住宅	四、四九一	三、三九六、三三	七、〇七〇、三三
長 屋	一、三三三	一、七九、九四	三、七〇八、六九
共同住宅	一、〇三二	一、七九、九四	八、三六四、六八
寄 宿 舎	一、六〇	一、五二	一、七二、八三
下 宿 屋	一、七	一、六	一、七二、八三
その他	四、六七	一、〇〇、六四	二、〇六五、三九
△工業建築物	五、三六	五、五〇、八八	一、〇三三、四五
工 場	四、九	五、八六、三	一、七〇、三九
工場事務所	二、三六	一、六四、五五	一、七〇、三九
工場寄宿舎	四、九	一、六四、五五	一、七〇、三九
その他	八、〇	一、九〇、九八	一、九〇、九八
住宅併用工場	五、四	一、九〇、九八	一、九〇、九八
△商業建築物	一、八	二、〇九、六五	一、〇三三、一〇一
商店	一、八	二、〇九、六五	一、〇三三、一〇一
銀行	一、〇	一、〇	一、〇
事務所	一、〇	一、〇	一、〇
旅館、宿泊所	一、〇	一、〇	一、〇
料理店、飲食店	一、〇	一、〇	一、〇
製菓、製糖、演	一、〇	一、〇	一、〇
遊技場、舞踏場	一、〇	一、〇	一、〇
待合、貸座敷	一、〇	一、〇	一、〇
浴 場	一、〇	一、〇	一、〇
その他	一、〇	一、〇	一、〇
△その他の建築物	一、〇	一、〇	一、〇
公 館	一、〇	一、〇	一、〇
停車場	一、〇	一、〇	一、〇
學校	一、〇	一、〇	一、〇
その他	一、〇	一、〇	一、〇

六月末の労働を一〇〇と爲し之を基準とす

本邦木材輸出 入國別

輸 出 國名	昭和十一年	昭和十二年
滿洲國	一、三三三	一、三三三
關東州	一、三三三	一、三三三
中華民國	一、三三三	一、三三三
香 港	一、三三三	一、三三三
英領印度	一、三三三	一、三三三
海峽殖民地	一、三三三	一、三三三
關領印度	一、三三三	一、三三三
ソ領亞細亞	一、三三三	一、三三三
英吉利	一、三三三	一、三三三
獨逸	一、三三三	一、三三三
白且	一、三三三	一、三三三
和 國	一、三三三	一、三三三
北米合衆國	一、三三三	一、三三三
南阿爾邦	一、三三三	一、三三三
濠太利	一、三三三	一、三三三
其他	一、三三三	一、三三三

種別	棟数	床面積 平方米	工事費
集會場、公會堂	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
俱樂部、觀技場	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
遊藝場	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
病院、療養所、診察所	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
育兒院、感化院、養老院、陶器館	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
博物館、美術館、圖書館、商品陳列所	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
社寺、教會	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
火葬場、納骨堂、埋葬場	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
葬儀場、西物處理場	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
格納庫、驛車	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
その他	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
合 計	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇

本邦都市別建築工事費 (昭和十三年八月)

前一年間累計

都市	新築	増築	改築	移轉	合計	棟数	床面積 平方米	工事費
函館市	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
山形市	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
東京市	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
横浜市	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
川崎市	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
金澤市	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
静岡市	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
名古屋市	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
京都市	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
大阪市	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
堺市	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
神戸市	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
尼崎市	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
西宮市	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
合計	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇

滿洲木材生産高

地方別	昭和八年	昭和九年	昭和十年
關東江地方	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
吉林地方	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
間島地方	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
北滿地方	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

滿洲對日主要輸	
大豆	19,478,500
蘇子油	3,250,000
毛皮	2,150,000
雜糧	1,800,000
鐵鋼及同製品	1,700,000
硫磺	1,650,000
其他豆	1,500,000
棉花	1,400,000
芝麻	1,350,000
花生	1,300,000
其他	1,200,000
混合飼料	1,100,000
石炭	1,000,000

### 滿洲對日主要輸

(單位千圓)

輸出品	輸出品	輸出品	輸出品	輸出品	輸出品
大豆	蘇子油	毛皮	雜糧	鐵鋼及同製品	硫磺
19,478,500	3,250,000	2,150,000	1,800,000	1,700,000	1,650,000
其他豆	棉花	芝麻	花生	其他	混合飼料
1,500,000	1,400,000	1,350,000	1,300,000	1,200,000	1,100,000
石炭	煤	玻璃	棉織品	紙	陶磁器
1,000,000	800,000	700,000	600,000	500,000	400,000
藥品	化學藥品	洗料	洗料	洗料	洗料
300,000	200,000	100,000	100,000	100,000	100,000
其他	其他	其他	其他	其他	其他
500,000	400,000	300,000	200,000	100,000	100,000

### 本邦樟腦、樟腦油收納高及補償金

種別	昭和一〇	一一	一二
樟腦	1,250,000	1,300,000	1,350,000
樟腦油	1,100,000	1,150,000	1,200,000
合計	2,350,000	2,450,000	2,550,000

### 本邦自動車産額

種別	昭和六	九	一〇
製造	1,500,000	1,600,000	1,700,000
輸出入	1,500,000	1,500,000	1,500,000
合計	3,000,000	3,100,000	3,200,000

### 木材パルプ國別輸入量及額

國名	数量(噸)	金額(圓)
日本	1,200,000	1,500,000
加拿大	800,000	1,000,000
瑞典	600,000	750,000
其他	400,000	500,000
合計	3,000,000	3,750,000

### 北支石炭輸出数量

目的地	一九三五年	一九三六年
日本	1,500,000	1,600,000
内地	1,000,000	1,100,000
朝鮮	500,000	550,000
關東州	300,000	350,000
其他	200,000	250,000
合計	3,500,000	3,850,000

### 本邦製紙額

(工場統計)

種別	昭和一〇	一一	一二
印刷用紙	1,200,000	1,300,000	1,400,000
書籍用紙	1,100,000	1,200,000	1,300,000
製紙用紙	1,000,000	1,100,000	1,200,000
其他	500,000	550,000	600,000
合計	3,800,000	4,150,000	4,500,000

### 世界石灰窒素産額

種別	昭和六	九	一〇
製造	1,200,000	1,300,000	1,400,000
輸出入	1,100,000	1,200,000	1,300,000
合計	2,300,000	2,500,000	2,700,000

工事中船舶月別表

Table showing ship construction statistics by month from 1920 to 1923. Columns include month, number of ships (隻數), and tonnage (噸數).

本邦陶磁器輸出國別

Table showing the export of domestic pottery by country from 1920 to 1923. Columns include country (輸出先), month, and value.

世界石油埋藏量

Table showing world oil reserves by country, comparing 1920 and 1921 data.

世界ボーキサイト産額

Table showing world bauxite production by country, comparing 1920 and 1921 data.

日本商工會議所一覽

(昭和十三年十一月現在)

Table listing Japanese Chamber of Commerce and Industry (Nikkei Kaigi) branches by region and city, including names and presidents.

水戸市	水戸市	江橋	新弓削	德次	金澤	澤之介	大津	大津市	西田	利七	上田	元治郎	岡田	保太郎
宇都宮市	宇都宮市	上野	松次郎	橫倉	正吉	富田	根	根市	藤田	太吉	本庄	新兵衛	岡田	彌作
栃木市	栃木市	毛塚	源盛	鈴木	良作	中井	長	滋賀縣飯田	西川	源左衛門	中川	利三郎		
津市	津市	田中	林助	後藤	仁兵衛	久岡	岐	津	武藏	嘉門	玉田	源太郎	田村	寛一
四日市市	四日市市	伊藤	傳七	堀	鬼忠	良	大	野	國枝	嘉兵衛	戶田	良直	佐竹	英吉
宇治山田市	宇治山田市			北	岡	善之助	長	野	神津	慶平	橋田	文五郎	今村	清見
名古屋市中區	名古屋市中區	青木	鐵太郎	高	松	利三郎	上	本	今井	五介	武	居	由太郎	
豊橋市	豊橋市	河合	政郎	加	藤	源平	仙	臺	中村	梅三	三	原	庄	太
岡崎市	岡崎市	近藤	重三郎	柴	田	吉造	福	島	油井	徳藏	田	子	健吉	
一宮市	一宮市	小島	太左衛門	加	藤	清次	郡	山	太田	三郎	新	城	安	二
半田市	半田市	小栗	三郎	中	野	重義	盛	岡	中	岡	孫	一	郎	
津市	津市	鈴木	幸作	津	倉	龜作	弘	前	宮	川	忠	助		
濱松市	濱松市	鈴木	幸作	津	倉	龜作	山	形	菅	源	久	五郎		
清水市	清水市	鈴木	與平	原	田	三左衛門	酒	田	荒	木	幸	吉		
甲府市	甲府市	若尾	義角	上	原	庄	秋	田	石	川	信	助		

敦賀市	敦賀市	那須	吉兵衛	宮	野	相	吉	宇	部	市	高	良	宗	七	渡	木	剛	二				
金澤市	金澤市	中島	德太郎	新	石	名	彌三	和	歌	山	市	則	田	辰	助	中	西	谷				
富山	富山	金	國又左衛門	廣	田	傳	次郎	德	島	市	吉	見	勢	之助	東	西	宮	一				
高岡市	高岡市	荻	布宗太郎	石	黒	茂	三郎	高	松	市	細	溪	宗	次郎	大	西	和	夫				
鳥取市	鳥取市	北	川菊藏	山	岡	要	平	丸	龜	市	尾	池	松	太郎	宮	本	和	夫				
米子市	米子市	坂	口武市	神	部	政	七	坂	出	香	川	縣	敷	喜	七	水	川	恒	三			
松江市	松江市	田	中源一	西	谷	善	之助	松	山	市	山	本	義	晴	久	西	米	川	金	九	郎	
岡山市	岡山市	山	上岩二	更	井	久	正	今	治	今	治	市	木	原	茂	中	村	忠	左	衛	門	
倉敷市	倉敷市	石	井熊夫	森	田	金	衛	宇	和	島	市	高	島	龜	太	中	地	傳	次	郎		
津山市	津山市	小	池百次郎	荒	野	金	衛	八	幡	濱	市	佐	木	長	治	淺	井	常	太	郎		
岡崎市	岡崎市	森	田福市	三	宅	來	次郎	高	知	高	知	市	入	交	太	酒	本	市	平	郎		
尾道市	尾道市	小	西常吉	宮	崎	富	助	博	多	福	岡	市	木	梨	久	仁	西	山	市	七		
下關市	下關市	中	部	淺	次郎	山	本	久	留	米	市	藤	原	倍	藏	阿	尾	市	吉	一		
山口市	山口市	笠	原	善	五郎	杉	本	小	倉	市	村	上	巧	兒	小	川	島	市	久	富	金	作



大車田	大車田市	田畑	守吉	永井	益太郎	浦	秀吉	大泊	大野	順末	越川	良造	小原	正泰					
八幡	八幡市	入江	實助	中村	良平	定石	宗利	眞取	眞取	町	大磯	徳太郎	島田	久四郎	平木	時助			
戸畑	戸畑市	岡田	晋次郎	金子	慶太郎	永沼	哲平	眞須	眞須	取町	杉村	富作	樋口	武	大塚	國太郎			
直方	直方市	野上	辰之助	金尾	清三郎	有吉	吉作	京	川	京城府長谷	買田	直治	田川	永治郎	伊藤	正泰			
飯塚	飯塚市	麻生	義之介	麻生	尙敏	吉木	義雄	仁	川	仁川府山手	吉田	秀次郎	吉木	善介	渡邊	政壽			
大分	大分市	塚本	秀雄	糸川	作次郎	土師	字	開	城	開城府東本	朴	鳳	八木	右一	宮内	益男			
別府	別府市	西原	左太郎	手嶋	森太郎	河村	友吉	群	山	群山府山手	赤松	繁夫	上田	晚	秀	中尾	三		
中津	中津市	岩田	虎造	糸川	又五郎	須藤	吉雄	木	浦	木浦府仲町	村上	直助	伊藤	南	太	油谷	保三		
佐賀	佐賀市	野中	萬太郎	副島	常次	紀伊	一彦	大	邱	大邱府錦町	小倉	武之助	伊藤	吉三郎	吉田	由巳			
唐津	唐津市	宮島	傳兵衛	古館	正右衛門	池田	蘭之進	釜	山	釜山府西町	立石	良雄	松尾	己之介	上田	耕一郎			
熊本	熊本市	中山	清酒夫	上野	景治	中村	政藏	平	塚	平塚府山手	福島	英朝	古	莊	仁太郎	朝倉	昇		
宮崎	宮崎市	岩切	章太郎	中村	常三郎	前山	長七	新	州	新州府錦	加藤	鉄治郎	中	込	精一	飯野	正太郎		
都城	都城市	江夏	秀太郎	坂元	貞吉	川畑	時吉	元	山	元山府海岸	三隅	義一	小林	儀三郎	章	勳	夫		
延岡	延岡市	久米田	新太郎	飯島	貞雄	佐々木	謙四良	威	興	威興府昭和	林	良作	張	田	西	河	土谷	惟一	
鹿兒島	鹿兒島市	久米田	新太郎	山口	吉左衛門	堀	勇吉	清	津	清津府港町	四元	嘉平次	水	島	計	次郎	長平		
那霸	那霸市	平尾	嘉三郎	川畑	花	志	幸	瀨	浦	瀨浦浦府旭	河村	國助	朴	重	枝	太	石川	谷次	
豊原	豊原市	小林	隆平	太田	鎮雄	内山	四男也												

朝鮮 京城府長谷 買田 直治 福島 英朝 伊藤 正泰  
 大連 大連市 高田 友吉 相生 常三郎 長永 露正

【中華民國】  
 天津 天津日本租界 齋藤 茂一郎 武内 久雄 小林 陽之助  
 青島 青島日本租界 田邊 郁太郎 吉澤 千城 松崎 雄二郎  
 上海 上海日本租界 吉田 政治 西川 秋次 杉村 廣藏  
 漢口 漢口日本租界 中西 嘉吉 山下 英三 佐藤 國之助  
 濟南 濟南日本租界 多治見 文雄 田中 晴一

カルカッタ 135 Canning St., Calcutta, India 加納 藤右衛門 小俣 朋義 (名譽書記) 駒井 三郎  
 孟買 孟買日本租界 Patel House, Churchgate Street, Bombay, India  
 香港 香港日本租界 549 Market St., San Francisco, Calif., U.S.A. 正副會頭ノ制度ナシ 渡邊 久克

日本商工會議所

東京市麹町區丸ノ内三ノ一四

會頭	伍 京 卓 雄	同	神戶商工會議所
副會頭	有 吉 忠 一	同	京都商工會議所
常議員	安 宅 彌 吉	同	橫濱商工會議所
	東京商工會議所	同	博多商工會議所
	大阪商工會議所	同	廣島商工會議所
	名古屋商工會議所	同	八幡商工會議所

同	大牟田商工會議所	同	福井商工會議所
同	長崎商工會議所	同	清水商工會議所
同	札幌商工會議所	同	和歌山商工會議所
同	小樽商工會議所	同	徳島商工會議所
同	函館商工會議所	同	門司商工會議所
同	青森商工會議所	理事	松井春生
同	前橋商工會議所	副理事	依田信太郎

**日本工業協會**

東京工場懇話會(事務理事)	東京府廳商工課内
大阪府工場懇話會	大阪府廳商工課内
京都工場懇話會	京都府廳商工課内
愛知縣工場懇話會	愛知縣廳商工課内
兵庫縣工場懇話會	兵庫縣廳商工課内
神奈川工場協會	神奈川縣廳建設工務課内
北海道工場協會	北海道廳警察部工場課内
福井縣工場協會	福井縣廳工場課内
福島縣工場協會	福島縣廳工場課内
廣島縣工場協會	廣島縣廳工場課内
愛媛縣工場協會	愛媛縣廳工場課内
岡山縣工場協會	岡山縣廳工場課内
埼玉縣工場協會	埼玉縣廳工場課内
富山縣工場協會	富山縣廳工場課内
滋賀縣工場協會	滋賀縣廳工場課内
秋田縣工場協會	秋田縣廳工場課内
山形縣工場協會	山形縣廳工場課内

栃木縣工場懇話會聯合會	栃木縣廳保安課内
神奈川縣商工協會	神奈川縣廳保安課内
新潟縣商工協會	新潟縣廳保安課内
石川縣商工協會	石川縣廳保安課内
三重縣商工協會	三重縣廳保安課内
和歌山縣商工協會	和歌山縣廳保安課内
鳥取縣商工協會	鳥取縣廳保安課内
島根縣商工協會	島根縣廳保安課内
徳島縣商工協會	徳島縣廳保安課内
高知縣商工協會	高知縣廳保安課内
岐阜縣商工協會	岐阜縣廳保安課内
大津縣商工協會	大津縣廳保安課内

**大阪府立貿易館海外施設**

天津分館分館長坂口逸雄 奉天浪速通二十六番地△天津分館分館長井岡大輔 中華國民天津日本租界濠街十五△北京出張所所長藤田忠義 中華國民北京西長安街七二號△青島分館分館長高瀬俊郎 中華國民青島廣西路九號△甲谷院駐在員鈴木新納 △バタビヤ駐在員東野一  
貿易通信員  
青島伊藤義雄 青島熱河路十二號△  
天津見玉 天津市特別第一區通州路六號△香港吉井貞△マニラ原繁治△サイゴン松下光廣△バンコック中澤勝次△カラチ山田文治△マドラス山内昌治△モンパサ藤井定雄△ケールプタウん味岡馨△ロンドン井上角太郎△ベルリン手塚隆三△ロスアンゼルス黒柳軍平△シヤトル松本勝△メキシコ市堀内猪三郎△ハバナ大平忠雄△ブエノスアイレス岡部壯一△リオデジヤネイロ惟野登△サンチャゴ太田長三 △グワヤキル佐藤忠夫△プリズベーン柏木坦

**滿鐵關係會社一覽表**

◎印日本特殊法人 ▲印滿洲國特殊法人 ★印滿洲國準特殊法人 △印滿洲國法人 ×印その他無印は全部日本法人 ※印日滿兩國法人 My印滿洲國幣

會社名	所在地	創立年月	公稱資本金	拂込資本金	滿鐵持株割合	年度	最近業績	配當率
昭和製鋼所	鞍山	昭四、七	100,000,000	100,000,000	100%	十一年	三一六、〇〇〇	二五・六
滿洲化學工業	大連	昭八、五	35,000,000	35,000,000	100%	十一年	一三、四、〇〇〇	二五・〇
南滿洲瓦斯	大連	大四、七	10,000,000	10,000,000	100%	十一年	六、〇〇〇、〇〇〇	二五・〇
★滿洲電業	新京	昭九、二	140,000,000	107,500,000	100%	十一年	三、八八八	二五・〇
△撫順セメント	撫順	昭九、七	3,500,000	3,500,000	100%	十一年	三、八八八	二五・〇
▲滿洲石油	新京	昭九、二	10,000,000	10,000,000	100%	十一年	一、三、七、〇〇〇	二五・〇
▲滿洲日本精糖	大連	昭四、二	11,000,000	11,000,000	100%	十一年	一、三、七、〇〇〇	二五・〇
★滿洲曹達	新京	昭二、五	8,000,000	8,000,000	100%	十一年	八、三、九、〇〇	二五・〇
東洋硝子工業	東京	大五、三	5,000,000	5,000,000	100%	十一年	一、六、二、〇〇〇	二五・〇
△滿洲紡績	遼陽	大三、三	5,000,000	5,000,000	100%	十一年	一、六、二、〇〇〇	二五・〇
▲滿洲光紡子	東京	大四、四	3,000,000	3,000,000	100%	十一年	一、六、二、〇〇〇	二五・〇
▲滿洲鹽業	新京	昭二、四	8,000,000	8,000,000	100%	十一年	一、六、二、〇〇〇	二五・〇

滿洲大豆工業	大連	昭九、七	五,000,000	二,五二四,000	三〇・七	十一年	損一九,一五五	損九,三	〇
大連 蒸 業	大連	大二、七	五,000,000	五,000,000	一〇〇・〇	十二年下上	三〇,一七三	四〇・〇	〇
大連 油脂工業	大連	大五、五	五,000,000	五,000,000	六八・八	十二年下上	四,八八八	三〇・〇	〇
大連 工業	大連	大七、四	五,000,000	一,五〇〇,〇〇〇	五・八	十二年下上	四,三三三	一〇・〇	〇
★南滿洲硝子	大連	昭三、二	五,000,000	一〇〇,〇〇〇	一・七	十二年下上	四,三三三	三〇・三	〇
▲滿洲合成燃料	新京	昭三、八	五,000,000	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇・〇	十二年下上	四,三三三	三〇・三	〇
△滿洲豆稈バルブ	開原	昭三、九	五,000,000	五,000,000	一〇・〇	十二年下上	四,三三三	三〇・三	〇
大連船渠鐵工	大連	昭三、八	五,000,000	五,000,000	一〇・〇	十二年下上	四,三三三	三〇・三	〇
二〇社計			五〇,〇〇〇,〇〇〇	一,二二四,〇〇〇	一〇〇・〇				

商業

★日滿通商	新京	昭二、一〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五・〇	十一年	三三,八二二	五・五	〇
鐵道共同販賣	東京	昭七、八	一,〇〇〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	三三・〇	十二年	一五,四四四	四・二	〇
大連火災海上保險	大連	大二、七	一,〇〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	三三・三	十一年	一〇,一〇二	一〇・四	〇
新京官營取引所	新京	大五、三	一,〇〇〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	二二・五	十二年下上	九,二八八	五・八	〇
△哈爾濱交易所	哈爾濱	昭八、一〇	二,〇〇〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	二二・五	十二年下上	三七,三六〇	五・三	〇
△滿洲畜産工業	奉天	昭二、二	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一〇〇・〇	十二年	三,一七一	九・七	〇
×登 覽 開	大連	昭三、二	一五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	六〇・〇	十二年	八,四三三	三・八	〇

△滿洲市	奉天	大六、九	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	五〇・〇	十二年下上	三,一六九	一五・八	〇
△新京市	新京	大六、六	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	五〇・〇	十二年下上	三,〇九三	一五・八	〇
△撫順市	撫順	大七、五	一〇〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一〇・〇	十二年下上	四,七七一	二六・三	〇
△安東市	安東	昭二、八	一五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	五〇・〇	十二年下上	一五,四九九	二八・七	〇
△瀋陽市	瀋陽	昭九、六	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	五〇・〇	十二年下上	三,〇八一	一五・八	〇
▲滿洲火柴販賣	奉天	昭二、二	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	一〇・〇	十二年	五,七五五	一五・四	〇
△湯崗子溫泉	湯崗子	大九、三	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	五〇・〇	十二年	三,三三三	八・五	〇
十四社計			一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇一四,〇〇〇	五〇・〇				

礦業

山東 鐵 業	青島	大三、五	五,〇〇〇,〇〇〇	二,五二〇,〇〇〇	五〇・〇	十一年	八,三〇九	三・六	〇
▲滿洲鑛業開發	新京	昭二、八	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五〇・〇	十二年	四,四二二	損七・七	〇
△滿洲 鉛 鑛	奉天	昭二、六	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五〇・〇	十二年	五,七〇六	一五・三	〇
△南滿 鑛 業	大石橋	大七、四	三,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	五〇・一	十二年下上	九,六四六	三六・六	〇
△復州 鑛 業	復縣	昭二、八	二,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	五〇・〇	十二年下上	一八,三三三	一八・三	〇
△大瀋 探 金	新京	昭九、六	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	五〇・〇	十二年	損八,七四〇	損一七・五	〇
六社計			一八,〇〇〇,〇〇〇	一三,〇二〇,〇〇〇	五〇・〇				

土地建物土木請負

阪神 築 港	大阪	昭四、七	一〇,〇〇〇,〇〇〇	二,五二〇,〇〇〇	四〇・〇	十二年下上	二,一〇〇	一〇・一	〇
--------	----	------	------------	-----------	------	-------	-------	------	---

△滿洲不動產	奉天	昭三、一〇	10,000,000	2,200,000	100.0	十二年	2,200,000	5.9	〇
△東亞土木企業	奉天	大九、一	2,000,000	1,500,000	50.0	十二年	1,500,000	1.2	〇
△哈爾濱土地建物	哈爾濱	大九、五	500,000	500,000	100.0	十二年	3,100,000	4.6	〇
△鞍山不動產信託	鞍山	大十、〇	1,000,000	1,000,000	100.0	十二年	2,800,000	7.0	〇
元山海水浴	元山	大三、六	150,000	150,000	100.0	十二年	700,000	0.5	〇
六社計			3,150,000	1,100,000	34.9				

交通運輸

大連汽船	大連	大四、一	15,700,000	15,700,000	100.0	十二年上	2,700,000	3.7	〇
日滿倉庫	東京	昭四、五	15,000,000	15,000,000	100.0	十二年上	3,000,000	4.0	〇
國際運輸	大連	大五、八	5,000,000	2,000,000	100.0	十二年上	700,000	1.4	〇
福昌華工	大連	大五、一〇	1,000,000	1,000,000	100.0	十二年上	2,300,000	2.3	〇
大連都市京通	大連	大五、五	5,000,000	5,000,000	100.0	十二年上	1,600,000	3.2	〇
營口水道交通	營口	明元、二	1,000,000	1,000,000	100.0	十二年上	1,000,000	1.0	〇
★滿洲航空	奉天	昭七、九	MY 13,500,000	MY 2,500,000	19.2	十二年	1,100,000	1.3	〇
七社計			42,100,000	42,100,000					

興業拓殖農林

興中公司	大連	昭一〇、二	10,000,000	10,000,000	100.0	十二年	損六、九〇一	損三、三	〇
大連農事	安東	昭四、四	10,000,000	5,000,000	100.0	十二年	1,000,000	0.1	〇
△滿洲拓殖	京城	昭八、二	1,000,000	1,000,000	100.0	十二年	1,000,000	1.0	〇
〇鮮	拓殖	昭二、九	10,000,000	2,000,000	20.0	十二年	1,000,000	1.0	〇
八社計			31,000,000	28,000,000					

日佛對講事業	大連	昭二、二	100,000	100,000	50.0	十一年	損四、五二	損六、五	〇
×札免公司	哈爾濱	大二、六	MY 4,000,000	MY 4,000,000	50.0	十一年	損八、八四	損三、八	〇
▲滿洲林業	新京	昭二、二	MY 5,000,000	MY 2,500,000	25.0	十二年	5,000,000	1.0	〇
▲滿洲拓公社	新京	昭三、八	MY 20,000,000	MY 3,000,000	10.0	十二年	1,000,000	1.0	〇
▲滿洲通信電話	新京	昭八、八	20,000,000	13,100,000	65.5	十二年	3,700,000	1.8	〇
▲滿洲弘報協會	新京	昭二、九	MY 2,000,000	MY 2,000,000	100.0	十二年上	損六、八四七	損一、八	〇
▲滿洲映畫協會	新京	昭三、八	MY 5,000,000	MY 2,000,000	40.0	十二年下	損一〇、四〇〇	損三、一	〇
六四社總計			62,000,000	42,600,000					

備考 總計は國幣を日圓と同額、英貨を昭和十三年三月末爲替相場一志二片にて換算せるものを掲ぐ

滿洲重工業開發株式會社並滿洲國內關係會社一覽(康德五年九月二十日現在)

本社所在地 新立年月日 資本金 出資者 代表者

滿洲重工業開發株式會社 新京特別市大同 大正元、九、八 10,000,000 滿洲國一社 總裁 鮎川 義介

直接投資會社(設立年月日順)

滿洲重工業株式會社(特殊法人) 大正四、〇、六 (康德一、三、二七) 1,000,000 滿洲鐵業 會長 鮎川 義介

滿洲重工業株式會社(特殊法人) 大正四、〇、六 (康德一、三、二七) 1,000,000 滿洲鐵業 會長 鮎川 義介

滿洲重工業株式會社(特殊法人) 大正四、〇、六 (康德一、三、二七) 1,000,000 滿洲鐵業 會長 鮎川 義介

滿洲重工業株式會社(特殊法人) 大正四、〇、六 (康德一、三、二七) 1,000,000 滿洲鐵業 會長 鮎川 義介

十三年七月以降本邦新設增資合併會社

(臨時資金調整法許可事例)

(七月四日發表)

東北興業 新 1,000,000 滿洲鐵業 同 1,000,000

榮炭礦 同 1,000,000

北海道炭 同 1,000,000

鐵道局 同 1,000,000

四八九

滿洲炭礦株式會社 (特殊法人)	新京特別市調町 二ノ一〇	康德元、五、七	20,000	滿洲、滿洲國、 中銀	理事長 河本大作
滿洲探金株式會社 (特殊法人)	新京特別市大同 大街三〇一	同 元、五、六	30,000	滿洲、滿洲國、 拓、中銀	常務理事 小須田常三郎
滿洲輕金屬製造株式會社 (特殊法人)	遼寧市山本町	同 三、二、〇	25,000	滿洲、住友、日 本電化、日瀨、 ルミ、日曹	理事長 根橋 龍二
滿洲鑛山株式會社	新京特別市大同 大街二一三	同 五、三、六	50,000	滿洲	會長 鮎川 義介
滿洲飛行機製造株式會社 (特殊法人)	奉天市大東區長 安街二一	同 五、六、〇	10,000	滿洲	會長 鮎川 義介
東邊道開發株式會社 (準特殊法人)	新京特別市大同 大街四〇六	同 五、九、四	10,000	滿洲、滿洲	會長 鮎川 義介
間接投資會社 (投資年月日期)					
滿洲鉛礦株式會社	奉天加茂町二	同 二、六、九	40,000	滿山、日滿鐵業	社長 島田 利吉
滿洲マグネシウム 工業株式會社	新京特別市大同 大街四〇六	同 五、七、四	10,000	滿洲輕金屬	社長 根橋 龍二
安奉鐵業株式會社	新京特別市大同 大街二一三	同 四、二、三	1,000	滿山	專務 島田 利吉
熱河鐵業株式會社	熱河承德縣興隆 第五區倒流水	同 二、一〇、二	600	滿山 中村岩次郎	專務 中村 岩次郎
撫順セメント株式會社	撫順市大官屯	同 元、七、八	5,000	滿洲輕金屬	專務 佐久間 章

滿洲特殊會社及準特殊會社一覽

(唐德五年九月二十日現在)

特殊會社	所在地	創立年月日	資本金 (千圓)	出資者	代表
株式會社滿洲中央銀行	新京大同廣場	大同元、六、五	500,000	滿洲國全株	總裁 田中 誠三郎

宮製鋼	同 三、〇〇〇	34
松浦炭礦	同 二、五〇〇	34
松河電機製作	同 二、〇〇〇	34
日清紡績	合 六、五〇〇	36、35、35
(日清レイコンを)		
北越製紙	同 三、二五〇	37、37
(新設板紙を)		
日産汽船	同 10,000	8、500
(共和汽船を)		
(七月十一日發表)		
日本スチール	増 10,000	34
川西航空機	同 10,000	34
金城鑛務機	同 1,500	34
自動車機物	同 1,000	34
大日本紡績	合 三、〇〇〇	六、六、五〇〇
(岸和田人絹を)		
(八月一日發表)		
瀋陽實業	新 20,000	二五、〇〇〇
(八月八日發表)		
大伊萬里炭礦	新 五、〇〇〇	三、〇〇〇
大日本輪	同 三、〇〇〇	一、五〇〇
出丸大小	同 三、〇〇〇	一、五〇〇
藤井鑛業	増 二、五〇〇	二、五〇〇
大瀋陽鐵	同 三、〇〇〇	七、五〇〇
日本バル	同 五、〇〇〇	二、〇〇〇
製造		

滿洲電信電話株式會社

新京大同廣場	同 二、八、三	500,000	日本國、滿洲國、 滿洲、日本放送協 會、鮮銀	總裁 廣瀬 壽助
--------	---------	---------	------------------------------	----------

滿洲石油株式會社

新京大同大街康 德會館	同 二、二、四	10,000	滿洲國、滿鐵、日 石、三菱、小倉、 三井、興銀	理事長 橋本 圭三郎
----------------	---------	--------	-------------------------------	------------

同和自動車工業株式會社

奉天工業區一馬 路	康德元、三、三	5,000	日本國、農事合作 會、滿洲國、 自動車	理事長 竹原 傳
--------------	---------	-------	---------------------------	----------

滿洲棉花株式會社

奉天加茂町八	同 元、四、九	2,000	滿洲國、農事合作 會	理事長 劉 夢 庚
--------	---------	-------	---------------	-----------

滿洲炭礦株式會社

新京調町二ノ一	同 元、五、七	80,000	滿洲、滿洲國中銀	理事長 河本 大作
---------	---------	--------	----------	-----------

滿洲探金株式會社

新京大同大街康 德會館	同 元、五、六	30,000	滿洲國、滿洲、東 拓	常務理事 小須田常三郎
----------------	---------	--------	---------------	-------------

滿洲鐵業開發株式會社

新京大同大街	同 二、八、四	5,000	滿洲國、滿鐵	理事長 山西 恒郎
--------	---------	-------	--------	-----------

滿洲火藥販賣株式會社

奉天商場地八緯 路	同 二、二、二	500	滿洲國、奉天道兵所 滿鐵、昭和製鐵、 本溪湖鐵、滿鐵	理事長 小柳津 正藏
--------------	---------	-----	----------------------------------	------------

滿洲拓殖公社

新京大同大街康 德會館	同 四、八、三	50,000	日本國、滿洲國、 東拓、住友、三 菱、住友	總裁 坪上 貞二
----------------	---------	--------	-----------------------------	----------

滿洲林業株式會社

新京豐樂路一〇	同 三、二、九	5,000	滿洲國、滿鐵、共 榮企業	理事長 藤原 可省
---------	---------	-------	-----------------	-----------

滿洲國業株式會社

新京大同大街康 德會館	同 三、四、六	5,000	日本國、滿洲國、 滿鐵、旭硝子、 山曹達、滿化、東 拓	理事長 三角 愛三
----------------	---------	-------	--------------------------------------	-----------

株式會社奉天道兵所

奉天大東區	同 三、八、一	10,000	滿洲國、大倉、三 井	理事長 村瀬 文雄
-------	---------	--------	---------------	-----------

(第二日本バルを)

日本鐵屑製鋼	新 2,000	二、〇〇〇
日本內燃機	増 3,000	三、〇〇〇
日之出汽船	同 1,500	一、五〇〇
海陸車輛	同 1,500	三、五〇〇
(八月二十六日發表)		
關東電化工業	新 4,000	一、〇〇〇
大垣鐵工所	同 1,500	一、五〇〇
日新耐火工業	同 1,000	500
滿洲道鐵工	同 1,000	1,000
日本鐵業	増 60,000	10,000
滿山鐵板	同 3,000	1,200
大阪電氣	同 4,000	1,000
理研アル バイト	合 7,000	2,000
(池田アルミを)		

(八月廿九日發表)

東亞製業	新 1,500	三、五〇〇
日本エヤー	増 3,000	三、〇〇〇
帝隆染料	同 2,500	三、五〇〇
附船製菓	同 2,000	二、〇〇〇
(九月五日發表)		
信濃合同	新 5,000	五、〇〇〇

滿洲拓植株式會社	新京大同大街康 德會館	同	三、九、四	一五、〇〇〇	滿洲拓植會社全株	理事長 二宮 治重
滿洲弘報協會	新京北安路二四	同	三、九、六	三、〇〇〇	滿洲國、滿鐵、電々	理事長 森田 久
滿洲生命保險株式會社	新京大同大街康 德會館	同	三、一〇、三	三、〇〇〇	滿洲國、第一生命、 千代田生命、日本 生命、帝國生命、 明治生命等	理事長 高橋 康順
滿洲計器株式會社	新京豐樂路都ビ ル	同	三、一〇、六	三、〇〇〇	滿洲國、日本度價 衡協會、奉天造兵所	理事長 黒沼 直温
滿洲輕金屬製造株式會社	撫順山本町	同	三、一、九	三、〇〇〇	滿洲國、住友、日電 工、日本曹達、日 濱アールミ	理事長 根橋 前二
株式會社滿洲興業 銀行	新京大同大街大 興ビル	同	三、三、七	三〇、〇〇〇	滿洲國、朝鮮銀行	總 裁 富田 勇太郎
滿洲圖書株式會社	新京西七馬路一 四	同	四、四、六	三、〇〇〇	滿洲國、康德印刷 内地印刷業者	理事長 石川 正作
滿洲合成燃料株式會社	新京興仁大路特 西中央會内	同	四、八、六	五〇、〇〇〇	滿洲國、三井、滿 炭、滿鐵、滿石	理事長 尾形 次郎
株式會社映畫協會	新京大同大街二 一三日毛ビル	同	四、八、二	五、〇〇〇	滿洲國、滿鐵	理事長 金 隆 東
滿洲鴨綠江水力發 電株式會社	新京大同大街康 德會館	同	四、九、七	五〇、〇〇〇	滿洲國、長津江發 電、東拓、朝鮮送 電	理事長 野 口 進
滿洲重工業開發株式會社	新京大同大街四 〇六號	同	四、三、七	五〇、〇〇〇	滿洲國、一般民間 共立企業、田村合 名、東株代、大 株代、ほか内地保 險會社	總 裁 鮎川 義介
滿洲油化工業株式會社	新京大同大街大 興ビル	同	五、二、三	一〇、〇〇〇	滿洲國、興銀、滿 石、滿炭、ほか内地 各保險會社	理事長 田 島 滿

三菱礦業	增	100,000	三、五、〇〇〇
理化學興業	同	10,000	二、五〇〇
東洋炭煙草	同	9,000	二、五〇〇
日之出汽船	同	1,800	一、五〇〇
第一工業製藥	合	三、〇〇〇	一、六八五
(木津川油船)			
(九月十二日發表)			
磐城炭礦	增	三、七五〇	三、四七五
日瀨亞麻	同	六、〇〇〇	一、五〇〇
東亞電機製造	同	四、〇〇〇	一、〇〇〇
(九月十六日發表)			
日本放銅院初	新	三、〇〇〇	一、五〇〇
原皮移入	同	一、〇〇〇	三〇〇
松下電動機	同	一、〇〇〇	一、〇〇〇
神戶製鋼	增	五〇,〇〇〇	二、二五〇
岡田組	同	二、五〇〇	二、五〇〇
忠南金礦業	同	二、〇〇〇	五〇〇
清津炭業	同	一、五〇〇	五〇〇
(九月二十六日發表)			
日本ラヂエ	新	三、五〇〇	六、五〇〇
1タ1製造	同	二、〇〇〇	一、〇〇〇
藤倉化學工業	同	六、〇〇〇	三、〇〇〇
日本電氣冶金	增	六、〇〇〇	三、〇〇〇
大日本塗料	同	三、〇〇〇	七、五〇〇

滿洲房產株式會社	新京大同大街	同	五、三、一	一〇、〇〇〇	滿洲國、興銀、東拓	理事長 謝 介 石
滿洲飛行機製造株式會社	奉天市大東區長 安二一	同	五、六、〇	一〇、〇〇〇	業	理事 鮎川 義介
準特殊會社	本溪湖河西街 (改組) 康二、九、三	同	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	滿洲國、大倉	理事長 梶山 又吉
株式會社本溪湖煤 鐵公司	鞍山鋼鐵工場地 區	同	四、七、四	一〇〇、〇〇〇	滿洲國、滿鐵	會長 鮎川 義介
滿洲航空株式會社	奉天商場地	同	大同元、三、六	一五、〇〇〇	滿洲國、滿鐵、三井 三菱重工、住友	社長 兒玉 常雄
滿洲化學工業株式會社	大連甘井子	同	同 二、五、〇	五、〇〇〇	滿鐵、全購、東 洋藥業、日本生命 前田利爲	社長 高橋 是賢
大同酒類株式會社	哈爾濱馬家溝永 和街一	同	同 二、二、四	一、六〇〇	東拓、徐鶴志	社長 徐 鶴 志
滿洲電業株式會社	新京大同大街康 德會館	同	康德元、二、一	一五〇、〇〇〇	滿鐵、興銀、滿洲 國、中銀、新京市 東拓、盤口水電	社長 丁 隆 修
日瀨商事株式會社	新京大同大街大 興ビル	同	三、一〇、一	一〇、〇〇〇	滿鐵、滿炭、昭和 興業、本溪湖煤鐵	理事長 武部治右衛門
熱河鑛山株式會社	新京特別市崇智 胡同四一三	同	四、七、五	一、〇〇〇	滿洲國、三井、上 島豐德	社長 川島 三郎
滿洲畜産株式會社	新京大同大街康 德會館	同	四、九、一	五、〇〇〇	滿洲國、滿拓、滿 鮮拓殖	社長 毛 遇 風
東邊道開發株式會社	新京大同大街四 〇六	同	五、九、五	一〇、〇〇〇	滿洲、滿炭	會長 鮎川 義介
滿洲曹達株式會社	新京大同大街康 德會館	同	三、五、三	八、〇〇〇	滿鐵、滿化、旭前 子、昌光前子	社長 西川 虎吉

北千島水産	同	一、五〇〇	一、五〇〇
日本化學	同	一、〇〇〇	一、〇〇〇
明昭電機	合	五、〇〇〇	三、〇〇〇
(東洋無線電信會社)			
北日本汽船	同	五、〇〇〇	四、二五〇
(北陸汽船)			
(十月三日發表)			
三寶礦業	新	三、〇〇〇	三、〇〇〇
三井鑛山	增	100,000	一五、〇〇〇
神電氣	同	10,000	二、五〇〇
東京人造糸	同	四、〇〇〇	一、一〇〇
大阪製紙	同	二、〇〇〇	一、〇〇〇
日本針布	同	一、五〇〇	四、七五〇
(十月十日發表)			
多々良製作	新	二、〇〇〇	五〇〇
宇部鐵工	同	三、五〇〇	三、三〇〇
筑豊鐵道	增	一、〇〇〇	一、〇〇〇
(十月十七日發表)			
朝鮮無煙炭礦	增	一、〇〇〇	三、三〇〇
中央電氣工業	同	一、〇〇〇	五〇〇
梅鉢車輛	增	一、五〇〇	三、三〇〇
農機株式會社	同	一、五〇〇	三、三〇〇
小島電氣製鋼	同	四、六〇〇	二、一〇〇
日本火工	同	五、〇〇〇	一、三〇〇

雜錄・便覽 一千萬圓以上新設・増資・合併會社、大阪市海外出張所及囑託  
員在所地、商工省關係海外商品陳列館及貿易通員

**一千萬圓以上新設・増資、合併會社**  
(昭和十二年八月以降)

新設 創立 總會	社名	資本 萬圓	増資額 萬圓	合併 額 萬圓
八・三	日東化學工業	1,000	500	1,500
八・五	池貝自動車製造	1,000	500	1,500
八・七	トヨタ自動車製造	1,000	500	1,500
八・三〇	日本水産工業	1,000	500	1,500
九・一	三菱石炭油化学工業	1,000	500	1,500
九・八	大日本證券投資	1,000	500	1,500
九・九	王子造林	1,000	500	1,500
九・一〇	新日本レイヨン	1,000	500	1,500
九・一	明治農産工業	1,000	500	1,500
九・三	極洋捕鯨會社	1,000	500	1,500
九・二	瀨洲豆科バルブ(新設)	1,000	500	1,500
九・八	帝國高壓工業	1,000	500	1,500
一〇・一	日本通運	1,000	500	1,500
一〇・七	帝國纖維棉火工業	1,000	500	1,500
一〇・二	大阪交通	1,000	500	1,500
一一・二	東京纖維工業	1,000	500	1,500
一一・〇	協同企業	1,000	500	1,500
一一・元	川崎航空機工業	1,000	500	1,500
一一・六	富國人絹バルブ	1,000	500	1,500
一一・〇	硫安販賣	1,000	500	1,500
二・七	東北振興アルミニウム	1,000	500	1,500
二・三	東北振興化學	1,000	500	1,500
二・五	西鮮中央鐵道	1,000	500	1,500
二・九	帝國燃料興業	1,000	500	1,500
一・三	江界水力電氣	1,000	500	1,500
一・五	東北振興バルブ	1,000	500	1,500
二・〇	朝鮮バルブ工業	1,000	500	1,500
二・九	朝鮮化學工業(京城)	1,000	500	1,500
一・〇	第二東洋曹達工業	1,000	500	1,500
三・六	瀨洲鐵山	1,000	500	1,500
三・六	關東興業	1,000	500	1,500
四・一	前中鐵礦(東京)	1,000	500	1,500
四・三	新日本砂糖工業	1,000	500	1,500
四・三	山下	1,000	500	1,500
四・三	昭和ヘアリング製造	1,000	500	1,500
七・六	東邦金屬製鍊	1,000	500	1,500
八・五	三菱倉庫	1,000	500	1,500
八・九	朝鮮セメント	1,000	500	1,500
八・五	古河電氣工業	1,000	500	1,500
八・六	森永製菓	1,000	500	1,500
九・二	松坂電氣	1,000	500	1,500
九・四	東京電氣	1,000	500	1,500
九・六	昭和製糖	1,000	500	1,500

**増資(新資本金一千萬圓以上)**

決議 月日	社名	増資額 萬圓	新資本 萬圓	第一回 拂込 月日
八・五	三菱倉庫	1,000	2,000	八・一
八・九	朝鮮セメント	1,000	2,000	八・一
八・五	古河電氣工業	1,000	2,000	八・一
八・六	森永製菓	1,000	2,000	八・一
九・二	松坂電氣	1,000	2,000	九・一
九・四	東京電氣	1,000	2,000	九・一
九・六	昭和製糖	1,000	2,000	九・一

**大阪市海外出張所  
及囑託員在所地**

貿易調査所  
上海福州路八九號小田田十三△大  
連常盤町二九番地瀨洲報ビル内北  
島又右衛門△哈爾濱道裡石頭街開  
本一雄△瀋陽州青柳大街瀋陽州商會組  
合樓上野多野茂樹△張家口橋西東  
關街下野一  
通信囑託員  
奉天野澤幸生△漢口佐藤國之助△  
新加坡朝朝二△△△△△小原友吉△  
バタビヤ佐藤國男△桑蔭小花務△  
ボゴダ波新一△サンチャゴ金谷  
敏夫

**商工省關係海外商  
品陳列館及び貿易  
通信員**

商品陳列館  
哈爾濱商品陳列館(瀨洲國哈爾濱  
道裡斜街二號地)川角忠雄、日  
商協會△新加坡商品陳列所(新嘉  
坡夫)

九・八	日本油脂	1,000	500	1,500
九・七	九州水力電氣	1,000	500	1,500
九・三	龜見製鐵造船	1,000	500	1,500
一〇・〇	倉敷紡績	1,000	500	1,500
一〇・七	立川飛行機	1,000	500	1,500
一〇・七	東洋海運	1,000	500	1,500
一〇・七	日原自動車運輸	1,000	500	1,500
一〇・〇	富士電氣製造	1,000	500	1,500
一〇・〇	和歌山紡績	1,000	500	1,500
一一・五	出雲製鐵	1,000	500	1,500
一一・六	鹽水港製糖	1,000	500	1,500
一一・六	理研特殊鋼	1,000	500	1,500
一一・六	川崎車輛	1,000	500	1,500
一一・三	九州送電	1,000	500	1,500
一一・三	日本化學工業	1,000	500	1,500
一一・三	(日産化學工業と改稱)	1,000	500	1,500
一一・〇	早山石油	1,000	500	1,500
一一・〇	日本産業	1,000	500	1,500
一一・〇	(瀨洲重工業開發と改稱)	1,000	500	1,500
一一・三	日本電氣	1,000	500	1,500
一一・三	大隈鐵工所	1,000	500	1,500
一一・四	中山製鋼	1,000	500	1,500
一一・四	帝國産金興業	1,000	500	1,500
一一・五	石井鐵工所	1,000	500	1,500
一一・五	東洋汽船	1,000	500	1,500
一一・六	理研ピストン	1,000	500	1,500
一一・六	日浦アルミ	1,000	500	1,500
二・七	名古屋鐵道	1,000	500	1,500
二・七	東洋製糖	1,000	500	1,500
二・七	東邦人造纖維	1,000	500	1,500
二・二	關西共同火力	1,000	500	1,500
二・二	日本染料製造	1,000	500	1,500
二・二	東京磚埋立	1,000	500	1,500
二・二	大阪製鐵造機	1,000	500	1,500
二・二	住友機械製作	1,000	500	1,500
二・五	日清倉庫	1,000	500	1,500
二・五	日本ステレンス	1,000	500	1,500
二・五	日本アルミ	1,000	500	1,500
二・五	東邦炭礦	1,000	500	1,500
二・五	大阪機械製作所	1,000	500	1,500
二・五	日曹製鋼	1,000	500	1,500
二・五	愛知時計電機	1,000	500	1,500
二・六	日産自動車	1,000	500	1,500
二・六	東洋高壓工業	1,000	500	1,500
二・六	電氣化學工業	1,000	500	1,500
二・六	日本車輛製造	1,000	500	1,500
二・六	ラサ工業	1,000	500	1,500
二・六	日本電池	1,000	500	1,500
二・六	品川白煉瓦	1,000	500	1,500
二・六	日本製鋼	1,000	500	1,500
二・六	三菱製菓	1,000	500	1,500
二・六	日本製糖	1,000	500	1,500
二・六	新瀧鐵工所	1,000	500	1,500
二・六	昭和肥料	1,000	500	1,500

坡ハイストリート六五號)小原友  
吉、南洋協會△スラバヤ商品陳列  
所(蘭領印度スラバヤ)藤澤亮三同  
△同バタビヤ出張所員事務所(バ  
タビヤ)堀弘、同△桑蔭日本商品  
陳列所(米國サンフランシスコ)  
渡邊久克、桑蔭日本人商工會議所  
△カルカッタ日本商品館(英領印  
度カルカッタ)西藤、日印協會△  
カイロ日本商品館(埃及カイロ)  
右手寛太郎、日本産業協會△イス  
タンブル日本商品館(土耳其イス  
タンブル)廣田直路、近東貿易協會  
貿易通信員  
天津駐在商工省貿易通信員(支  
那天津)藤重一、豐沢△漢口同  
(支那漢口)西川喜一、同△青島  
同(支那青島)大谷彌十次、同△  
香港同(香港)渡邊寛太郎、同△  
西貢同(佛領印度支那)加藤俊雄  
同△曼谷(暹羅國)ハンコック△大山  
同△三、同△ランゲーン同(ビルマ  
ランゲーン)大場忠、同△マニラ  
同(比律賓マニラ)渡邊順、同△  
カラチ同(英領印度カラチ)秋員

社名	資本金	設立	所在地	代表
北海通商汽船	7,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
石原産業海運	3,000,000	昭和十一年	横濱市中區北中通六ノ六	岡崎 憲
神戸製鋼所	4,500,000	昭和十一年	神戸市神戶區下山手通八ノ一八二	宮本 吉太郎
〔合併〕	(新資本一千萬圓以上)			
日本鋼管	10,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
東京自動車工業	2,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
目黒浦田電機	3,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
帝國産金興業	1,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
伊那電氣鐵道	1,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
日華鐵業	1,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
明治製糖	5,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
日本通運	2,500,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
東邦電力	1,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
日本油脂	4,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
日本電力	3,600,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
大同電氣製鋼	1,300,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
日本無線電信	2,500,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
日清製粉	2,500,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
大同電力	1,800,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
昭和産業	1,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
東京地下鐵	2,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
日清製粉	2,500,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
日本製糖	5,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
石井鐵工所	1,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
高岡銀行	1,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
第一銀行	2,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
日本水産	1,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
警備炭礦	1,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
不二煉鋼材	1,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
日本油脂	4,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
日本ニツケル	1,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
片食製絲紡績	1,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
東洋製糖工業	3,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
小野田セメント	4,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
錦華紡績	3,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
日本興業汽船	1,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
日東製粉	1,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
日産汽船	1,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
東洋高壓工業	1,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
大日本紡績	2,000,000	昭和十一年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒

△テヘラン同(イラン國テヘラン)  
 同△ミラン同(イタリ國ミラン)  
 同△ウキーン同(澳太利國ウキーン)  
 同△ブラツセル同(白耳義ブラツセル)  
 同△東阿ケンヤ殖民地ナイロビ)  
 中川彦治、同△カサアランカ(阿弗利加モロッコカサブランカ) 橋山承二、△トロント同(加奈陀トロント) 大沼恒、同△シヤトル同(米蘭シヤトル) 松本正彦、同△シカゴ同(シカゴ) 小川米次郎、同△ヒューストン同(ヒューストン) 河井信三、同△ハバナ同(キューバ國ハバナ) 缺員△メキシコ同(メキシコ國メキシコ) 缺員△リマ同(秘魯國リマ) 宮田謙一、同△サンチャゴ同(智利國サンチャゴ) 新谷吉松、同△リオデジャネイロ(ブラジル國リオデジャネイロ) 缺員△シドニー同(澳洲シドニー) 岩崎寛太郎、同△ウエリントン同(ニュージーランドウエリントン) 缺員

### 主要労働組合 (昭和十三年八月現在)

會名	年月日	所在地	代表
日本労働組合會議	昭和七年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
〔加盟團體〕			
全日本労働總同盟	昭和二年	東京市芝區三田四國町二ノ六	松岡 駒
日本港灣従業員組合	同八年	横濱市中區北中通六ノ六	岡崎 憲
海員協會	明治三十二年	神戸市神戶區下山手通八ノ一八二	宮本 吉太郎
日本海員組合	大正二年	神戸市神戶區海岸通三ノ二六	堀内 長
日本労働總連盟	同二年	大阪市北區相生町七三	八木 信一
日本製糖労働組合同盟	昭和六年	神戸市大字瀬戸二〇三四	伊藤 榮次郎
東電従業員組合	同六年	東京市下谷區入谷町二一	岩水 榮一
日本製鐵従業員組合	同八年	八幡市西廻生町一丁目	高橋 文作
日本労働組合總聯合	大正五年	東京市芝區三田四國町一五	高井 久藏
日本産業労働俱樂部	昭和八年	東京市豊町區有樂町一ノ四	石井 照藏
愛國労働組合全國懇話會	昭和二年	東京市芝區三田四國町一五	高山 久藏
〔加盟團體〕			
日本労働組合總聯合	新日本海員組合、愛國労働農民同志會、東電愛國同盟、愛國従業員組合總聯盟、中部港灣労働組合、日本労働同盟、愛國木材工同志會、日本海上同志會、帝國木材産業		
〔地方協議會〕	北海道地方協議會、中部地方協議會、九州地方協議會、神戶地方協議會、大阪地方協議會、神奈川地方協議會		
正義研究會、東京花結生産者組合			

### 滿洲工業機關並に團體

滿鐵中央試驗所 明治四十三年五月關東都府府上り引繼を受け主として殖産工業及び衛生に關する試験を施行する機關であつたが現在は無機化學、有機化學、燃料化學、農學化學、機械研究、車輛研究、電氣研究、土木研究、纖維研究の各研究室に分れ理化學工業及び一般理化學的試驗研究、機械及び材料の試驗研究、電氣標準及び衡器の管理並に上記各項の附帯業務を施行し尙依賴によつて分析試驗及び機器、材料試驗等を行つてをり、最近では特に石炭液化工業試驗、纖維バルブ工業試驗に力を注いでゐる、なほ沙河口の分工場は鐵道方面の諸研究を行つてゐる

大陸科學院 大陸科學院は滿洲に於ける資源の開發利用を目的とする科學的研究を行ふため日本各種機關、滿鐵中央試驗所と別個獨自に研究すべき事項にのみ限り研



新日本海員組合	同	一〇・五・二〇	神戸市神戸區榮町五	赤崎寅藏
愛國労働農民同志會	同	八・三・二五	東京市豊町區内幸町一ノ三	松本勇吉
愛國従業員組合總聯盟	同	一・二・二〇	名古屋市中村區日置通一ノ八	山崎常吉
日本労働同盟	同	七・二・二〇	東京市豊町區内幸町一ノ三 (再建)	近藤榮藏
三河愛國従業員組合聯盟	同	二・二・二二	豊橋市花田村西宿八	山口保光
三重愛國従業員組合聯盟	同	一・二・二七	津市乙部町觀音通四ノ六七五	山崎常吉
大日本忠孝労働組合	同	一・一・二七	名古屋市中區日置通一ノ八	今村常吉
日本産業軍	同	九・二・二五	東京市豊町區内幸町一ノ三	大谷代太郎
東京瓦斯新工組合	同	二・四・二〇	東京市芝區濱松町一ノ四	大谷代太郎
日本交通労働總聯盟	同	大正五・六・二七	東京市京橋區榮地三丁目八	岡本丑太郎
東京市従業員組合	同	二・三・二〇	東京市神田區美土代町二ノ三	大谷代太郎
逓信従業員聯盟	同	昭和九・二・二四	東京市芝區田村町六ノ二	幸成瑤
逓信従業員會同盟	同	一〇・五・二五	東京市下谷區御徒町四ノ四	海老原一哲
海軍官業労働組合聯盟	同	大正三・三・二二	吳市本通一二丁目一五ノ一	林助一
<b>農 民 團 體</b>				
大日本農民組合	昭和三・四	東京市芝區西久保櫻川町七 (社大黨本部内)	杉山元治郎	
白本農民聯盟	同 三・二	東京市赤坂區溜池町五富士ビル内	中山元治郎	
日本農民組合總同盟	同 二・三	東京市芝區南佐久間町一ノ五五 和田ビル内	鈴木文治	
日本農民組合	同 三・七	東京市芝區琴平町二	平野力三	
皇國農民同盟	同 八・三	大阪市北區會場橋上四ノ一九	吉田賢一	

究する機關として康徳元年度以來日本に於ける權威者たる大河内博士を招聘協議の結果、康徳二年六月設立業務を開始した、而してこの大陸科學院の上に滿洲國の資源開發利用上科學的研究に關する事項その他重要事項を審議し、且つ政府各部門全般に亘り之等科學的研究事項の統制審議を目的とする科學審議委員會が設置された、この審議會に於て年々研究項目を決定、夫々研究が行はれてゐる

**工業博物館** 社団法人滿洲技術協會の經營に係り、昭和二年大連市に開館した、工業館、講義館、交通館、交通分館に分ちて各種工業學術に關する最新式機械設備及び原料製品等の貴重な資料を一般無料觀覽に供してゐる

**工業家團體** 【大豆工業研究會】大連滿鐵内にあり滿洲における大連工業に關する技術的經濟的研究を目的とし、大連工業營業者及びその關係者を以て組織する

【滿洲工業會】昭和九年奉天主要

工業關係者により創設された社団法人の工業家代表機關である、事業としては關稅、通貨、投資、内國稅、勞働等の諸問題を調査研究して意見を發表し同時に内鮮工業機關と提携し日滿工業界の諸問題となつてゐる

【大連工業會】大正八年十月創立され大連及びその附近に工場を經營するのを以て組織されてゐる

【滿洲工業者懇談會】大正十五年創立し事務所を奉天に置き労働者の救済探察その他の目的を發行し會員は南滿各地で職工人夫その他使用人を備役する工業家又は企業家を以て組織してゐる

以上の外工業關係團體としては滿洲技術協會、滿洲電氣協會、滿洲土木建築業協會、滿洲製糖業協會、大連油房聯合會、滿洲製糖協會、滿洲木材同業組合聯合會その他がある

本國總その他より補助金の支給を受け邦人職工助長に活動し、この外滿鐵附屬地にも略これに類似する機關として遼陽實業會、撫順實業會、開原實業會、四平街實業協會、公主嶺商工會、廣通商工會、本溪湖實業協會等があつたが附屬地行政權の移調と共に關東州を附し滿洲國內の商工會事務所、實業協會、商工會等はいずれも市縣商會と合併商工會と結成し、現在では大連商工會事務所のみである(會頭高田友吉、副會頭曾廣定、同相生常三郎、理事長永壽正)

の仕入資金の貸付に當て、なほ別に代入以外の用途、例へば店舗、倉庫の新築改造、支店設置資金等のために大連省出金部より百五十萬圓の低利資金の融通を受けてゐる、組合の二大事業たる組合員の保證仕入、仕入資金の貸付は別項に記してある、既に滿鐵融資が制限された、め向後の新興市場に對して、昭和十一年齊齊哈爾、滿洲の二地にその設立を見た、なほ日滿貿易の發展につれ滿洲國に於ても組合結成の機熟し、昭和十一年二月新京に貿易組合の設立を見た

**輸入組合所在地一覽表**  
(康徳五年六月一日現在)  
(關東州) 大連△辰辰  
(滿洲國) 大石橋△磐石△鞍山△遼陽△奉天△張家灣△本溪湖△安東△開原△四平街△公主嶺△新京△吉林△哈爾濱△齊齊哈爾△

**哈爾濱△滿洲**  
**滿洲輸入會社** 昭和十年七月滿洲輸入組合聯合會の設立により(資本金四十萬圓)で創立翌十一年五月十萬圓、更に翌十二年五月に四百五十萬圓の増資を行ひ現在五百萬圓全額現達済である、各組合理山の商品、賣買の仲立前に保證行為を主目的として仕入資金の貸付、倉庫、貿易館の經營等を爲し、その仕入金は連年漸しい増加を示し、昭和十二年度は一千萬圓突破は實現とみられてゐる、大連初期町に延坪約一千坪の大倉庫を有し倉庫料の低廉、倉庫金融等により業者の便宜を圖り、又貿易館としては哈爾濱の外に昭和十一年十二月奉天の日滿貿易館を買収して奉天貿易館と改稱、サービス・ステーション、商品陳列所、内地販賣駐在員事務所、倉庫、賃住宅を附設し東西の貨物、仲介のみならず土産品の輸移出入も取扱ひ貿易助長機關として貢獻するところである

**滿洲輸出入關係團體**

日本側の商工會事務所 昭和十二年過は十五箇所に設けられ何れ

も滿鐵その他より補助金の支給を受け邦人職工助長に活動し、この外滿鐵附屬地にも略これに類似する機關として遼陽實業會、撫順實業會、開原實業會、四平街實業協會、公主嶺商工會、廣通商工會、本溪湖實業協會等があつたが附屬地行政權の移調と共に關東州を附し滿洲國內の商工會事務所、實業協會、商工會等はいずれも市縣商會と合併商工會と結成し、現在では大連商工會事務所のみである(會頭高田友吉、副會頭曾廣定、同相生常三郎、理事長永壽正)

の仕入資金の貸付に當て、なほ別に代入以外の用途、例へば店舗、倉庫の新築改造、支店設置資金等のために大連省出金部より百五十萬圓の低利資金の融通を受けてゐる、組合の二大事業たる組合員の保證仕入、仕入資金の貸付は別項に記してある、既に滿鐵融資が制限された、め向後の新興市場に對して、昭和十一年齊齊哈爾、滿洲の二地にその設立を見た、なほ日滿貿易の發展につれ滿洲國に於ても組合結成の機熟し、昭和十一年二月新京に貿易組合の設立を見た

**輸入組合所在地一覽表**  
(康徳五年六月一日現在)  
(關東州) 大連△辰辰  
(滿洲國) 大石橋△磐石△鞍山△遼陽△奉天△張家灣△本溪湖△安東△開原△四平街△公主嶺△新京△吉林△哈爾濱△齊齊哈爾△

全滿各府縣駐在員 物産の取引發達、宣傳乃至在滿關係商人の信用狀況調査等のため夫々駐在員を當置してゐる、しかしてそれ等駐在員は各地毎に協會を結成して事業の遂行上相互協力を計つてゐる

各地府縣駐在員

(昭和十三年七月現在)

△大連駐在員協會  
 △滿洲國產業獎勵館分館△大阪貿易調査所△愛知縣東亞輸出組合出張所△北海道貿易調査所△山口縣駐在員事務所△府立東京商工獎勵館出張所△佐賀縣物産販賣會所△和歌山縣物産販賣會所△中州農會農產物販賣會所出張所△熊本縣輸出協會支部△廣島縣農產販賣會所出張所△廣島縣農產販賣會所出張所△新瀉縣立物産販賣會所出張所△愛媛縣物産販賣會所出張所△長崎縣物産販賣會所出張所△長崎縣物産販賣會所出張所△島根縣物産販賣會所出張所

△奉天駐在員協會  
 △瀋陽駐在員協會  
 △滿洲國駐在員協會△福井縣滿洲國駐在員協會△靜岡縣滿洲國駐在員協會△山縣海外輸出協會滿洲販賣會所△神戶東亞輸出組合出張所△香川縣滿洲販賣會所△岐阜縣滿洲輸出組合出張所△石川縣滿洲出張員△東京東亞輸出組合出張所△大阪府立貿易館分館△府立東京商工獎勵館駐在員△和歌山縣物産販賣會所支部△名古屋市商品紹介所△朝鮮貿易館支部△瀋陽縣產業獎勵館分館△宮城縣輸出協會出張所△島根縣物産大連發賣所出張所

△新京駐在員協會  
 △大阪府立貿易館分館△新瀉縣物産紹介所事務所△廣島縣滿洲國出張員事務所△朝鮮貿易協會事務所△府立東京商工獎勵館駐在員事務所△東京市產業局出張所△東京優良商品展示協會

奉天貿易商組合大正元年十二月創立され、奉天在住の對滿人買易に當る、組合員西尾一五郎氏以下邦匪三十五名を組合員とする、小麥粉、砂糖、毛皮、ゴム底製品化粧品、金物その他雜貨を主として扱ひ内地輸出同業者と滿人小賣業者の間につて普通の同業組合と異つた堅實な歩みを續けてゐる

各省別商工公會一覽表

(康徳五年十月末現在)

省	商工公會名	會長名	事務所の所在地
奉天	奉天商工公會	石田 武玄	奉天市總務門牌二三七號
遼寧	遼寧商工公會	李子初	營口市
吉林	吉林商工公會	趙見 次世	四平街市昭平通二十六番地
山東	山東商工公會	久保 孚	濰州府北五條通七番地
河南	河南商工公會	張 香閣	豫陽市大和通
湖北	湖北商工公會	中山正三郎	鞍山市南三條町一番地
湖南	湖南商工公會	樹山 又吉	本溪縣本溪湖明山縣十四番地
浙江	浙江商工公會	丁 濤 修	奉天特別市西四道街十三號
安徽	安徽商工公會		
江西	江西商工公會		
福建	福建商工公會		
廣東	廣東商工公會		
廣西	廣西商工公會		
雲南	雲南商工公會		
貴州	貴州商工公會		
四川	四川商工公會		
陝西	陝西商工公會		
甘肅	甘肅商工公會		
山西	山西商工公會		
察哈爾	察哈爾商工公會		
綏遠	綏遠商工公會		
熱河	熱河商工公會		
遼北	遼北商工公會		
黑龍江	黑龍江商工公會		

省	商工公會名	會長名	事務所の所在地
奉天	奉天商工公會	川島定兵衛	開原縣開原大街二十九番地
遼寧	遼寧商工公會	王子章	法庫縣法庫縣內
吉林	吉林商工公會	于 隆 源	東豐縣財神廟院內
山東	山東商工公會	新 菊 豐	遼源縣遼源東街公濟館當後院
河南	河南商工公會	劉 錫 候	西豐縣內北順城街
湖北	湖北商工公會	祝 世 恩	梨樹縣城
湖南	湖南商工公會	李 普 霖	昌圖縣西街
江西	江西商工公會	丁 文 淵	新民縣街後大街
福建	福建商工公會	王 佐 臣	海城縣南大門裏三義廟
廣東	廣東商工公會	候 顯 漢	蓋平縣城內前商會地址
廣西	廣西商工公會	王 耀 耀	西安縣城
雲南	雲南商工公會	劉 毓 麟	海龍縣城
貴州	貴州商工公會	張 廷 閣	哈爾濱市田地街六十九號
四川	四川商工公會	史 殿 明	呼蘭縣城保東建國街六九號
陝西	陝西商工公會	顧 德 忠	實靈州保廟胡同
甘肅	甘肅商工公會	林 瑞 軒	阿城縣阿城保廟街二五號
山西	山西商工公會	朱 福 三	五常縣城區保西大街二九號
察哈爾	察哈爾商工公會	李 遇 文	雙城縣城區保順天街三號
綏遠	綏遠商工公會	馬 伯 探	肇東縣昌五保如意甲玉樹街
熱河	熱河商工公會	劉 清 祐	肇東縣瀋陽保北三友街
遼北	遼北商工公會	王 順 祺	開西縣城區保廟街胡同

省	商工公會名	會長名	事務所の所在地
青島	青島商工公會	王 國 彪	青島縣青島街東大街
望奎	望奎商工公會	陳 谷 庭	望奎縣望奎街西里三道街十一號
海倫	海倫商工公會	李 樹 滋	海倫縣城保天橋二道街路南
綏化	綏化商工公會	孫 德 本	綏化縣城區保松本大街十八號
興農	興農商工公會	王 鳴 九	綏化縣興農鎮保北大街
巴彥	巴彥商工公會	葉 瑞 祥	巴彥縣城區保米街
興隆	興隆商工公會	嚴 俊 峰	巴彥縣興隆鎮保中街
木蘭	木蘭商工公會	周 忠 貞	木蘭縣城街保興隆街九七
延壽	延壽商工公會	畢 文 東	延壽縣城延壽保安街門牌三號
吉林	吉林商工公會	河野 嘉作	吉林市財神廟胡同
永吉	永吉商工公會	衛 誠 明	永吉縣樺皮廠
樺甸	樺甸商工公會	陳 登 顯	樺甸縣城二道街
乾安	乾安商工公會	任 兆 會	乾安縣城東大街
磐石	磐石商工公會	楊 鏡 東	磐石
敦化	敦化商工公會	和 品 輝	敦化縣城內後二道街路北
懷德	懷德商工公會	郭 素 仁	懷德縣公主嶺鎮島通市場町一丁目
額敏	額敏商工公會	潘 輔 本	額敏縣敦河
舒蘭	舒蘭商工公會	張 萬 春	舒蘭縣城東門裏路南
扶餘	扶餘商工公會	韓 鳳 洲	扶餘縣城鎮安街財神廟胡同
三岔河	三岔河商工公會	李 子 峰	扶餘縣三岔河縣街
農安	農安商工公會	陳 品 輝	農安縣城

伊通商工公會	胡應中	伊通縣城
雙陽商工公會	李家興	雙陽縣城
九臺商工公會	孫明珍	九臺縣城
前郭旗商工公會	薛益臣	前郭旗農安路五一號
榆樹商工公會	屈永伸	榆樹縣城內
長春商工公會	溫前山	長春縣大屯
德惠商工公會	張香九	德惠縣縣街
△滿州省		
滿州商工公會	劉運三	滿州市
西海口商工公會	賈明山	龍西海口鎮商會大街龍王廟內 公字門牌十二號
北鎮商工公會	馮春山	北鎮縣城內
瀋陽子商工公會	馮鏡容	北鎮縣瀋陽子街
黑山商工公會	何榮九	黑山縣城會文胡同
新立屯商工公會	劉銀漢	黑山縣新立屯興安中街
臺安商工公會	程德三	臺安縣城
磐山商工公會	楊寶衡	磐山縣城南街
田莊臺商工公會	張福林	磐石縣田莊臺街關帝廟東隣
綏中商工公會	關守三	綏中縣城南門外
前衛所商工公會	盧金祥	綏中縣前衛城內
興城商工公會	祖靜修	興城縣興城南胡同門牌八十五號
連山商工公會	修徵芝	錦西縣連山正陽街
義州商工公會	郝文琛	義縣城內

朝陽商工公會	張國柱	朝陽縣城關街
北票商工公會	李芳春	朝陽縣北票公安街
阜新商工公會	段雨潤	阜新縣城
彰武商工公會	張彩新	彰武縣彰武街
△安東省		
安東商工公會	瀋之口藤太郎	安東市大和橋三丁目
岫巖商工公會	嚴星彩	岫巖縣縣街
鳳城商工公會	陳治中	鳳城縣鳳城街
大孤山商工公會	白貴基	莊河縣大孤山街
大東溝商工公會	樊永漢	安東縣大東溝
莊河商工公會	林雲峰	莊河縣縣城街
寬甸商工公會	王連城	寬甸縣寬甸街
桓仁商工公會	王浩讓	桓仁縣桓仁街
△間島省		
延吉商工公會	馬一清	延吉縣延吉街
圖們商工公會	中島信太郎	延吉縣圖們街
龍井商工公會	韓雲階	延吉縣龍井街
琿春商工公會	王新遠	琿春縣琿春街
△龍江省		
齊齊哈爾商工公會	王玉堂	齊齊哈爾市財神廟街一號
開通商工公會	張雲峰	開通縣開通街東大街
洮南商工公會	李敏芝	洮南縣洮南街六韓路

白城子商工公會	王香九	洮南縣白城子街晴安路
大賚商工公會	李幹臣	大賚縣大賚街
泰來商工公會	陳子源	泰來縣泰來街正陽街
林甸商工公會	姚廷選	林甸縣林甸街北大街
北安商工公會	長澤紀代司	龍江縣北安街
拜泉商工公會	王炳衡	拜泉縣拜泉街阜康街
訥河商工公會	程光烈	訥河縣訥河街北大街
拉哈商工公會	鄧惠臣	訥河縣拉哈街盛盛街
△牡丹江省		
牡丹江商工公會	奧野隆一	牡丹江市紫雲街八番地
△熱河省		
承德商工公會	高毓蕃	承德縣承德街西大街
源發商工公會	艾善晨	建昌縣源發街
圍場商工公會	齊慶雲	圍場縣圍場街
赤峰商工公會	倪文翰	赤峰縣赤峰街
△三省		
佳木斯商工公會	曲恩遠	佳木斯市中央大街
勃利商工公會		勃利縣勃利街
△興安北省		
海拉爾商工公會	李棟朝	海拉爾正陽街二七號
滿洲里商工公會	關同年	滿洲里市
△興安東省		

札蘭屯商工公會  
博克圖商工公會  
△興安南省  
通遼商工公會

布特哈旗札蘭屯中央大街  
布特哈旗博克圖一面街  
楊濟武 通遼縣通遼街

### 發明獎勵團體

帝國發明協會 東京市麴町區丸ノ内三丁目二番地  
同 研究所 東京市目黒區下目黒二丁目四六三番地

### 支部

橫濱支部	橫濱市役所勸業課內
兵庫縣支部	神戸市神戶區西區工務課內
群馬支部	群馬縣工務課內
栃木支部	栃木縣工務課內
山梨支部	甲府市山梨縣教育館內
長野縣支部	長野縣商工獎勵館內
宮城縣支部	宮城縣商工獎勵館內
山形支部	山形縣物產紹介所內
石川支部	石川縣商工水産課內
岡山支部	岡山市岡山商工會議所內
福岡支部	福岡縣商工課內
大分縣支部	大分縣商工水産課內

- 熊本支部 熊本縣商工水産課内
- 大阪支部 大阪府工務課内
- 長崎支部 長岡商工會議所内
- 愛知支部 名古屋商工會議所内
- 廣島支部 廣島商工會議所内
- 京都支部 京都商工會議所内
- 瀋陽支用協會 大連市愛宕町六六

昭和十三年中設立の主要産業經濟團體

名	代表者	所在地
日本鐵鋼製品工業組合聯合會	三井 米松	日本橋區兜町東株ビル
東京府鐵鋼製品工業組合聯合會	大塚 榮吉	芝區豊岡町
日本鑄物工業組合聯合會	澁澤 七郎	豊町區内幸町
東京城南機械工業組合	佐藤 義明	蒲田區新宿町一、二五八
東京坂ナット工業組合	後藤作太郎	城東區大島町二ノ四二三
東京ミシン工業組合	小瀬 興作	日本橋區江戸橋一ノ一二
東京鋸釘工業組合	加藤 清一	豊町區内幸町大阪ビル一
東京化學機械工業組合	石井 太吉	同右
東京鐵骨橋梁工業組合	宮地榮治郎	同右

東京硬條製造業組合	山本 勇男	豊町區内幸町大阪ビル一
山手熔接工業組合	鈴木竹次郎	四谷區新宿二ノ七九
八王子鐵物機械工業組合	瀧見 軍治	八王子市南町九
東京動力印刷工業組合	小島 長藏	品川區北品區四ノ六五五
東京動力製品工業組合	松本猪太郎	神田區東紺屋町二一
東京平板バケツ工業組合	藤岡 隆吉	城東區大島町一ノ七九
東京金屬玩具工業組合	北川 末吉	本所區千歲町三ノ一四
東京刀劍玩具工業組合	三ヶ原徳太郎	株式會社北川製作所内
東京理容鐵鋼製品工業組合	河野 彌一	荒川區日暮里五ノ八一二
東京手提金庫工業組合	熱田 榮助	淺草區藏前二ノ五
東京鐵櫃機械工業組合	佐野 勲雄	豊町區内幸町大阪ビル一
東京印刷製本機械工業組合	濱田初太郎	同右
東京輸送機械製造工業組合	本川 一郎	同右
東京鐵製小兒車工業組合	鈴木源三郎	城東區龜戸町一丁目一二
東京木綿子工業組合	片山 近市	三島區日暮里四ノ一、〇
東京製鐵工業組合	中條 貞三	本所區龜澤町一ノ一福島
東京地産生地工業組合	新井 幸夫	神田區東紺屋町二一
東京磁器工業組合	岡本龜之助	同右
東京電機工業組合	小穴 秀一	豊町區有樂町一ノ三電氣
東京工具製造工業組合	山ノ内種秀	京橋區西銀座三ノ一藤々
電氣通信機器工業組合	佐島 仁左	芝區三田四國町二日本電

東京府農機具工業組合	岩田 龜清	神田區龜住町五
東京鐵線工業組合		城東區北砂町二一六東京
東京輸出時計附屬品工業組合	小森宮由太郎	淺草區三筋町三
東京内燃機製造工業組合	又木 周夫	豊町區内幸町大阪ビル一
東部ドラム罐工業組合	本野 吉彦	同右
東京高壓縮機工業組合	島山 一清	豊町區内幸町大阪ビル
東京試驗機工業組合	片野 雄二	同右
東京光學儀器製造工業組合	小糸源六郎	同右
東京城南鑄造工業組合	原 嘉秀	蒲田區東六郷二ノ一
東京鑄物工業組合	澁澤 七郎	本所區大平町一ノ二八
東京電球工業組合	益田 元亮	豊町區有樂町一ノ三電氣
東京時計備工業組合	在間明次郎	板橋區成均町二二〇
東京ラヂオ工業組合	七尾 菊良	京橋區銀座八ノ三吉澤ビ
東京建材製造工業組合	清水 敏	豊町區内幸町大阪ビル一
東京事務機械工業組合	城森 省三	同右
東京シヤベル工業組合	安田 五郎	同右
東京鍍金加工工業組合	野澤 年初	本所區龜澤町一九
東京架線金物工業組合	山田虎次郎	同右
東京鐵工製造工業組合	菜谷岡太郎	同右

東京製針工業組合	今泉吉太郎	板橋區板橋八ノ五六三
深川鐵鋼工業組合	藤 嘉六	安念製針所内
東京薄鋼材工業組合	大鹿佐右衛門	深川區千駄町二五
特殊鐵鋼板壓延工業組合	田所 林吉	同右
東京鐵パイプ製造工業組合	叶内 安彦	同右
東京醫科器械工業組合	渡部 求	神田區淡路町二ノ八
東京理化學器械工業組合	須見 勝治	本郷區春木町二ノ一
東京鋼製醫科器械工業組合	高山竹次郎	本郷區本郷二ノ二
東京計器工業組合	和田 嘉衛	豊町區内幸町大阪ビル一
中央時計工業組合	藤原三十郎	京橋區銀座四丁目辰都時
西多摩鐵鋼工業組合	荒井廣之助	計店內
東京金屬挽物工業組合	土屋辰之助	西多摩郡青柳町西分一〇
東京ハットメ工業組合	朝比奈佐太郎	淺草區島越一ノ三
東京熔接材料製造工業組合	佐藤 四郎	向島區吾道町西九ノ一三
東京コンクリート管工業組合	大塚 晃長	芝區本芝二ノ三東京角丸
東京鑄鋼工業組合	油田 尚郎	京橋區銀座西五ノ二松田
東京鐵機工業組合	小田村有芳	同右
東京利器工具工業組合	富永佐右衛門	同右

- 日本放熱器工業組合 阪田久次郎 野町丸ノ内二丁目二ノ一丸ビル五〇六
- 東京乾電池工業組合 神田 政吉 神田區鎌倉町一三ノ一
- 日本安全剃刀工業組合 松島 眞吉 足立區千住河原町一〇二
- 日本鋼ベン先工業組合 石川 徳松 小石川區丸山町一七東洋精鋼合資會社内
- 日本ゼンマイ製造工業組合 佐藤善太郎 神田區岩本町一三佐藤佳二商店内
- 東京機械鉛筆工業組合 中田清三郎 日本橋區本町四丁目二ノ一
- 東京サッシュ製造工業組合 藤田 直間 野町區内幸町大阪ビル
- 日本第一種シャリリング工業組合 淺野 義夫 京橋區新佃西町三ノ三
- 東京建築板金加工組合 中山 直行 芝區田村町五ノ三
- 東京家庭金物工業組合 吉川百太夫 神田區東紺屋町二一
- 東京建築家具金物工業組合 川島 廣吉 神田區東紺屋町二一
- 東京耐酸鋼ベン先工業組合 柏原 俊雄 本所區東兩國三ノ七
- 東京バルブコック合金製造工業組合 吉富 令哉 野町區内幸町大阪ビル
- 日本磨帶鋼工業組合 岡山 延 京橋區銀座四ノ三高砂鐵工所内
- 日本被鉛護電線工業組合 古河電氣工業 野町區丸ノ内三ノ一〇
- 日本交通保安裝置工業組合 吉岡 正司 神田區鍛冶町三丁目五ノ一
- 東京自轉車工業組合 古屋 幹雄 王子區稻付町五ノ七六〇
- 日本衝器工業組合 平賀佐十郎 芝區西久保明舟町日本度量衡協會内
- 日本計壓器工業組合 岡本英太郎 同 右

- 日本度器工業組合 藤村延次郎 同 右
- 日本電器工業組合 平賀佐十郎 同 右協會内
- 東京瓦斯機械器具工業組合 武嶋 次郎 京橋區邊町三ノ七東洋ビル
- 日本熔線工業組合 阪田藤二郎 京橋區銀座西二ノ一高島屋阪田株式會社
- 東京メッキバケツ工業組合 笠倉 源明 神田區東紺屋町二一
- 日本第二種シャリリング工業組合 羽部權四郎 本所區新澤町四ノ一打網富強内
- 東京洋傘骨金屬工業組合 藤巻 琢磨 深川區森下町一ノ二六
- 東京伸鐵工業組合 齋藤 四郎 日本橋區江戸橋一ノ二
- 東京冷凍機工業組合 木下 重作 京橋區銀座西八ノ九株式會社木下會社
- 日本アルミニウム板工業組合 鹽田 貞壽 深川區日野里町三ノ六八
- 東京酸素塔斷器工業組合 小池 清一 江戸川區小岩町六ノ九三
- 日本度量衡器具修理工業組合 渡邊竹次郎 芝區西久保明船町一七ノ三
- 日本衝材工業組合 大手堂三郎 芝區西久保明船町日本度量衡協會内
- 本所能鐵工業組合 小森 壽七 本所區東駒形三ノ一〇
- 東京鑄口金具工業組合 成毛 貴 本所區向島中ノ郷一七〇
- 城南熔接工業組合 石坂 光三 芝區芝浦町三ノ一
- 城北熔接工業組合 中村辰三郎 野野川區田端町二二二四
- 南葛熔接工業組合 小堀 要 城東區大島町二一〇
- 中央熔接工業組合 小林 保男 小石川區大塚仲町三六
- 桐生熔接工業組合 地上 三郎 深川區高橋五ノ三

【大阪】

- 日本洋傘骨製造工業組合 東成區中濱町二二九ノ三
- 日本針金 縫 既 工業組合 東區北久太郎町一ノ五五
- 日本リードワイヤ工業組合 西區江戸堀通三ノ五(長谷川商店)
- 大阪厚鋼板押抜物工業組合 堺市九間町六
- 大阪莫大小機械器具工業組合 北區空町一丁目二
- 大阪莫大小針工業組合 北區天満橋筋三ノ二八
- 大阪理髮器具工業組合 東區小橋元町九一
- 大阪互研機械器具工業組合 東區平野町五ノ一(ガスビル)
- 大阪器音機工業組合 北區高田町二三
- 大阪内燃機工業組合 南區末吉橋通三ノ六(三休ビル)
- 大阪農機具工業組合 同
- 大阪磨粉鋼工業組合 西區藤原堀南ノ町三三
- 大阪液體ポンプ工業組合 東區船場町一ノ一六
- 大阪鋼線材加工工業組合 南區船場町二ノ一五
- 大阪加熱鉄鋼工業組合 港區北堀川町一ノ三〇
- 大阪平鋼製ナット工業組合 西區西道頓堀六ノ一〇
- 日本鋼管工業組合 西區新町通り一ノ一四
- 大阪鋼製工 業 組合 浪速區櫻川一丁目一〇六一(村井商會)
- 大阪生押鉄鋼工業組合 西區幸町通四八
- 大阪鐵製ナット工業組合 同
- 大阪鐵力製鋼工業組合 西區藤原堀北ノ町三六
- 大阪鐵力印刷工業組合 南區船場町一八
- 大阪王冠工業組合 南區船場谷仲ノ町三九(印刷日本社内)
- 大阪鐵道工業組合 南區末吉橋通り三ノ六(三休ビル)
- 大阪工作機械工業組合 同

- 大阪鑛山化學用機械工業組合 同
- 大阪輸送機工業組合 同
- 大阪磨粉鋼工業組合 同
- 大阪土木機械工業組合 同
- 大阪製鋼業壓板工業組合 同
- 大阪印刷製本機械製造工業組合 南區船場町一八
- 大阪府殺條製造工業組合 此花區上福島南二丁目(さくらやビル)
- 大阪鋼鐵製器具工業組合 西淀川區蒲江上二ノ五九(阿部鐵工所)
- 大阪亞鉛製器具工業組合 浪速區馬場町二(石川洋行亞鉛製器)
- 大阪氣力玩具工業組合 東區小橋元町一四
- 大阪空氣機械工業組合 東成區深江中四ノ二二
- 大阪シン製造工業組合 天王寺區石ヶ辻町二四
- 大阪精密工具製造工業組合 北町綱島町一五
- 大阪金屬板押物工業組合 港區北堀川町二丁目三五
- 大阪ラス工業組合 此花區四貫島日厚町一
- 大阪電線管工業組合 西區立賣堀北通り一ノ一〇(立賣堀ビル)
- 大阪鋼製鋼製品工業組合 西區幸町通り五ノ二五
- 大阪打拔金網工業組合 西區幸町通り五丁目九ノ五
- 大阪鐵道輸工業組合 浪速區櫻川一ノ一〇六三
- 大阪空氣壓縮機排風機工業組合 此花區上福島中三丁目一九(福ビル)
- 大阪建設鋼材加工工業組合 西區新町通り一ノ一四

大阪引拔鋼管工業組合 南區末吉橋通り二ノ三(日能ビル)  
 大阪鐵板製鐵工業組合 西區北堀江一番丁三五  
 大阪鐵工工業組合 北區中ノ島六丁目六番地  
 大阪鐵板切斷工業組合 西區北堀江上通五ノ一二  
 大阪及物利器工業組合 堺市役所分室産業課内  
 大阪府商工工業組合 住吉區天王寺町三三六八(島田嘉平方)  
 大阪液體ポンプ工業組合 東區船越町一ノ一六  
 大阪齒車製造工業組合 大正區大正通り一丁目(泉尾ビル)  
 大阪鋼線製鐵工業組合 東區區猿橋野東七ノ五  
 東淀川鐵鋼製品工業組合 東淀川區中津本通一ノ三  
 西淀川鐵鋼製品工業組合 西淀川區海老江中一丁目(國澤ビル)  
 此花鐵鋼製品工業組合 此花區朝日橋通二丁目八  
 大正鐵鋼製品工業組合 大正區泉尾上通一ノ三三  
 浪速鐵鋼製品工業組合 浪速區稻荷町二ノ九二二(櫻川ビル)  
 港鐵鋼製品工業組合 港區桂町二丁目三一  
 東成鐵鋼製品工業組合 東成區搭野東二ノ四四  
 上町鐵鋼製品工業組合 南區田島町二三  
 中之島鐵鋼製品工業組合 北區山崎町五〇ノ五  
 和泉鐵鋼製品工業組合 堺市市之町大道(堺商工會事務所)  
 阪南鐵鋼製品工業組合 西成區海濱町五  
 東播磨鐵鋼製品工業組合 三島郡茨木町大字茨木  
 河内鐵鋼製品工業組合 布師市下小坂六三一  
 關西金屬戶車工業組合 西區北堀江上通五ノ一二  
 關西鐵鋼製品工業組合 西區京町堀上通一ノ二二  
 關西可鍛鐵鋼工業組合 北區曾根崎中二丁目二八(第一會根崎ビル)  
 大阪鋼球軸承工業組合 西區西道堀通三丁目三五

旭鐵鋼製品工業組合 旭區森小路町三丁目五二  
 大阪器具工業組合 南區田島町二四  
 大阪錠前工業組合 東西味原町六九  
 西都ドラム鐵工業組合 東淀川區南濱町(日本鐵業工業組合内)  
 大阪鐵鋼線材加工工業組合 南區難波新地六番町三ノ一  
 大阪鐵鋼線材加工工業組合 北區真砂町三  
 大阪冷凍機工業組合 北區富島北町  
 大阪鋼管製鐵工業組合 港區九條中通一ノ五八(大阪フランチ製作所)  
 大阪船用補機工業組合 三休ビル  
 日本線材ミスロール工業組合 南區豐谷中之町八〇(近久ビル)  
 大阪螺絲鐵工業組合 堺市堺之町一四  
 大阪自動給炭完全燃焼機工業組合 三休ビル  
 大阪製鐵製造工業組合 此花區西九條上通一ノ九  
 大阪シャトル工業組合 西區京町堀上通一ノ三三(京町堀ビル)  
 大阪彈着棒工業組合 東成區南中本町二ノ一〇(東洋鐵線合資會社)  
 大阪新螺卸商業組合 西區立賣場北通六丁目  
 大阪磨擦鋼卸商業組合 西區立賣場北通五丁目  
 大阪バルブコック鑄手卸商業組合 西區立賣場北通四丁目

鐵鋼關係(大阪)  
 設立 代表者 所在地  
 大阪古帶鐵商業組合 〇・六 平塚藤三郎 西區本田通二丁目住友ビル  
 大阪鋼材短尺切揃販賣組合 二・二 塚田武四郎 友ビル

大阪磨帶鋼工業組合 〇・三 渡邊 榮一 西區新町南通四丁目第百ビル

大阪引拔鋼管工業組合 〇・三 渡邊 榮一 西區立賣場南通四丁目住友ビル

大阪鋼材特約店商業組合 〇・一 石田 房藏 南區心齋橋ビル

大阪鐵力板特約店商業組合 〇・一 佐渡島英祿 西區幸橋

大阪鐵力板特約店商業組合 〇・一 渡邊 榮一 西區立賣場南通四丁目

全鋼鋼材商業組合大阪支部 〇・一 竹内 西區立賣場南通四丁目

大阪金剛工業組合 〇・三 石村平太郎 南區安堂寺橋通四丁目廿九

大阪伸鋼工業組合 〇・八 渡邊 貞勝 南區豐谷仲之町五四

大阪半田鋼工業組合 〇・一 成川 清三 南區谷町四丁目九

大阪鐵鋼線材製品工業組合 〇・五 糟田 萬作 南區豐町二丁目

大阪鐵鋼線材製品工業組合 〇・五 糟田 萬作 心齋橋北詰

大阪電解鋼工業組合 〇・一 和田卯一郎 西區道頓堀住友ビル

日本鋼製鐵組合大阪支部 〇・一 中西善太郎 心齋橋大丸橋三和ビル内

日本アルミ板工業組合 〇・一 中西善太郎 同上

日本アルミ鋳物工業組合 〇・一 同上

大阪アンチモン合金工業組合 二・一 津田與三郎 未定

化學關係

日本硝子工業組合聯合會 〇・四 澤永芳治郎 大阪市北區梅ヶ枝町

大阪生澱粉卸商業組合 〇・四 井上 靜逸 同 東區區鶴橋北之町一

東京硝子器工業組合 三・一 瀧波 才助 東京市本所區橋町五

日本アンモニア曹達工業組合 〇・五 大野 政吉 東京市丸ノ内

日本電解曹達工業組合 〇・七 石川 一郎 東京市

日本沃度輸出組合 二・六 森 龜親 大阪市東區伏見町二丁目

日本炭化曹達工業組合 二・五 山田 製業 同 東區淡路町三丁目

西日本硝子工業組合 〇・一 山村徳太郎 神戸市兵庫區琴緒町

大阪府硝子管加工工業組合 〇・三 松岡菊太郎 大阪市北區梅ヶ枝町

日本皮革卸商業組合聯合會 〇・五 由良小一郎 同 此花區上福島北

大阪皮革工業組合 二・七 北中巳之吉 同 浪速區愛町四

日本高壓容器工業組合 〇・六 磯村 秀策 東京市豐町區内幸町

阪神再生澱粉工業組合 〇・七 鈴木 與一 神戸市

東京合成澱粉加工工業組合 二・三 鈴木 與一 東京市

自動車技術協會 長谷川正道 豐町區丸ノ内

日本自動車協會 林 隆之助 日本橋區木町四ノ一

日本マイヤ協會 高田 正一 京橋區銀座西五

全日本小型自動車協會 山本 憲治 芝區田村町飛行館内

新炭瓦斯發生機工業組合 田原 和男 豐町區平河町

東京タクシー商業組合 柳田 諒三 京橋區京橋區京橋一  
 東京タイヤ再生工業組合 村上 義廣 麴町區飯田町一ノ三  
 東京タイヤ工業組合 高田 正一 京橋區銀座西五

【大阪】

大阪府自動車工業組合 丸二 松尾 幸次 南區巖谷仲八〇近久  
 大阪府自動車タイヤ再生工業組合 高橋助太郎 北區富田町一四  
 電力關係 新井 榮吉 東京市豊町區丸ノ内  
 水 力 協 會 三ノ六ユニオン館内

工業關係大學、專門學校

(昭和十三年九月現在)

◇帝國大學及官立大學

東京帝國大學 (理工) 明九・二 長興 又郎 東京本郷區元宮土町  
 京都帝國大學 (理工) 大三・七 正野 正雄 (事務取扱) 京都左京區吉田町  
 東北帝國大學 (理工) 大八・九 本多光太郎 仙臺市片平町  
 九州帝國大學 (理工) 明四・九 荒川 文六 福岡縣箱崎町  
 北海道帝國大學 (理工) 大三・九 今 裕 札幌市北十二條  
 大阪帝國大學 (理工) 昭六・四 楠本長三郎 大阪北區東野田九丁目  
 東京工業大學 (工) 昭四・四 中村幸之助 東京目黒區大岡山

東京文理科大學 (理) 昭四・四 森岡 常藏 東京小石川區大塚區  
 廣島文理科大學 (理) 昭四・四 塚原 政次 廣島市千田町

◇私立大學

早稻田大學 (理工) 大六・二 田中 穂積 東京澁橋區戶塚町  
 日本大學 (工) 昭三・四 山岡萬之助 東京神田區駿河臺北  
 甲賀町

◇官公立專門學校

神戸高等工業 大二 古字田 實 神戸市須磨區水等通  
 名古屋高等工業 明六 土屋 純一 名古屋市昭和區  
 橫濱高等工業 大九 富山 保 橫濱市大岡町  
 仙臺高等工業 明四 鶴見 一之 仙臺市南六軒町  
 米澤高等工業 明四 大場 成實 米澤市元中馬口旁町  
 秋田鑛山專門 明四 平岡 通也 秋田市手形深田  
 桐生高等工業 大八 西田博太郎 桐生市天神町  
 千葉醫藥大學附屬藥學專門 明三 間座 秀夫 千葉縣千葉市  
 富山藥學專門 大九 高橋 隆造 富山縣富山市東田  
 金澤高等工業 大九 青戸 信實 金澤市上野木町  
 關東藥學專門 大三 後野三千三 金澤市土取島  
 福井高等工業 大三 大田代唯六 福井縣吉田郡西廣島  
 廣島高等工業 明九 長 俊一 廣島市千田町三丁目  
 明治專門 明三 中川 維則 福岡縣戶畑市

長崎藥學專門大學 同四 大倉 東一 長崎市里郷  
 附屬藥學專門部 同元 大森徹一郎 熊本市黒髪町  
 熊本高等工業 同八 村山 義温 熊本市大江町  
 熊本藥學專門 大二 安達 禎 濱松市廣澤町  
 濱松高等工業 同三 福田 爲造 長岡市學校町三丁目  
 長岡高等工業 [公立] 昭七 宮道 悦男 岐阜市九重町  
 岐阜藥學專門

◇私立專門學校

東京物理學校 明三 大河内正敏 牛込區神樂町  
 東京藥學專門 同六 鍋島 豊太 淀橋區柏木二ノ六〇〇  
 日本大學專門部 同三 山岡萬之助 神田區三崎町  
 明治藥學專門 同四 高橋 三郎 世田谷區野澤町一丁目  
 【地方】  
 大阪藥學專門 明五 吉本 彌之 大阪市外區急須線  
 京都藥學專門 大八 藤井 勝也 京都市東山區山科御  
 名古屋藥學專門 昭二 高島 清 名古屋市鳴海町

能率研究指導機關

△日本能率聯合會 東京市芝區田村町市產案局内 會長 加茂 正雄  
 ◇同會員團體  
 東京經營能率協會——東京市丸ノ内府庭工課内 會長 府經濟部長

アメリカ能率學會日本支部——東京市麻布區宮土見町二八 事務理事 上野 陽一

神奈川縣商工協會能率部——橫濱市磯工課内 會長 龜 知事  
 岩手縣商工經營研究會——盛岡縣立商業學校内  
 濱松能率研究會——濱松市濱松工業試驗所内 會長 藤野工課長  
 大阪能率研究會——大阪市東區豊後町府立產業能率研究所内  
 兵庫縣能率研究會——神戸市製工課内  
 福岡縣能率協會——福岡市製工課内  
 瀨田能率研究會——大連市瀨田本社總務部  
 熊本能率協會——熊本市商工會議所内  
 共榮會——香川縣小豆郡苗羽村小豆島製油製造同業組合内

長岡工業商工協理研究部——長岡市商工會議所内  
 高松能率研究會——高松市商工會議所内  
 兵庫縣實業協會——神戸市神戶區山手通四丁目  
 埼玉縣企業經營研究會——浦和市製工課内  
 名古屋工業振興會——名古屋市產案部内  
 瓦斯電氣能率研究會——東京市大森區入新井東京瓦斯電氣株式會社内  
 愛知縣能率研究會——名古屋市製工課内  
 宮城縣能率研究會——仙臺市產案部製工課内  
 早稻田大學工學經營研究會——同大學内

△大阪府立產業能率研究所——大阪市東區豐後町 府經濟部長  
 △日本產業能率研究所——東京市麻布區宮土見町二八 所長 上野陽一  
 △荒木能率事務所——東京市芝區芝公園協同會館内 所長 荒木東一郎  
 △日本工業協會——東京市京橋區墨田四丁目三三 子銀座ビル内 商工大臣

貿易組合中央會 易幹旋所職員名

(印は所長)

サンパウロ○茂木清吾、福田定治  
△ウイニベグ○吉岡恒、若林精△  
メキシコ○四至本八郎、河合幸太  
部△ハンブルグ○松井龍吉、木村  
嘉夫△ラゴス○植村隆二郎、尾尾  
健彦△ヒューストン小峰平八△ハ  
ンコック櫻井芳樹△アレキサンド  
リア兵頭△カラカス秋田已代次△  
ウエリントン藤井幸一△ラングー  
ン後藤廣吉△バグダッド須藤順

舊幹旋所分

△カラチ鈴木俊平△カルカッタ  
藤澤誠△カサブランカ藤澤道夫△  
サンフランシスコ田中彦作△パナ  
マ中塚貫志△ウエノスアイレス中  
川傳之輔△シカゴ渡部英梧

日滿實業協會

第一章 總 則

第一條 本會ハ日滿經濟提携ヲ促  
進シ滿洲國ノ經濟建設ニ協力シ  
兩國ノ共存共榮ヲ圖ルヲ以テ目

的トス

第二條 本會ハ日滿實業協會ト稱  
ス

第三條 本會ハ本部ヲ東京ニ置キ  
支部ヲ新京、大阪、京城及大連  
ニ置ク

第四條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ  
一 日滿經濟提携ニ關スル方策  
ノ審議、建議及咨申  
二 日滿實業經濟ニ關スル調査  
及統計ノ編纂並ニ通報  
三 日滿實業經濟ニ關スル仲介  
斡旋、調停又ハ仲取  
四 日滿實業經濟關係者ノ懇親  
五 其他日滿經濟提携上臨機必  
要ノ事項

第五條 本會ノ細則ハ理事會ノ議  
ヲ經テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第六條 本會ハ左ノ者ヲ以テ會員  
トス  
一 日本商工會所加入ノ商工

會所及之ニ準ズル團體ニシ  
テ本會ノ目的ニ資スルモノ  
二 滿洲國商會、工會及農會ニ  
シテ本會ノ目的ニ資シ滿洲國  
實業部ノ許可ヲ受ケタルモノ  
三 其他日滿實業公共團體、組  
合、銀行、會社及個人ニシテ  
本會ノ目的ニ資スルモノ  
第七條 前條ノ規定ニ依リ本會ニ  
入會又ハ退會セントスル者ハ其  
ノ旨本會ニ届出ツベシ

第八條 會員ニシテ本會ニ對スル  
義務ヲ怠リ又ハ本會ノ體面ヲ汚  
スガ如キ行爲ヲナシタル者ハ評  
議員會ノ決議ニ依リ之ヲ除名ス  
會員其ノ資格ヲ喪失シタル場合  
ニ於テモ既ニ納付シタル會費ハ  
之ヲ還付セザルモノトス

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク  
一 會長 一名  
二 副會長 四名  
三 理事 若干名  
四 常務理事 若干名  
五 監事 若干名

第十條 評議員ハ總會ニ於テ選舉  
シ顧問ハ評議員會ニ於テ推薦シ  
其他ノ役員ハ評議員會ニ於テ選  
舉ス  
役員ノ任期ハ二年トス  
第十一條 本會ノ機能ヲ發揮スル  
ニ資スル事業ノ決議ヲ經テ會長  
及理事會ノ決議ヲ經テ會長  
之ヲ委嘱ス  
第十二條 會議ヲ分チテ總會、評

六 評議員 若干名

七 顧問 若干名

會長ハ本會ヲ代理シ會議ノ議長  
トナリ會務ヲ總理ス  
副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故  
アルトキハ之ヲ代理ス  
理事ハ會務ヲ執行ス  
常務理事ハ理事中ヨリ互選シ常  
務ヲ處理ス  
監事ハ會計ヲ監査ス  
評議員ハ重要事項ヲ評議ス  
顧問ハ會長ノ諮問ニ應ズ

第十一條 本會ノ機能ヲ發揮スル  
ニ資スル事業ノ決議ヲ經テ會長  
及理事會ノ決議ヲ經テ會長  
之ヲ委嘱ス  
第十二條 會議ヲ分チテ總會、評

及整理  
四 本會ニ對スル諮問、建議及  
陳情  
五 其他會長ニ於テ必要ト認メ  
タル事項

第二十一條 本會ノ事務ヲ處理ス  
ル爲本部ニ事務局ヲ置ク  
第二十二條 事務局ニハ總務、主  
事及書記其他ノ職員ヲ置ク  
總務ハ會長之ヲ任免ス  
主事、書記其他ノ職員ハ會長ノ  
承認ヲ經テ總務之ヲ任免ス  
第二十三條 總務ハ會長ノ命ヲ受  
ケ事務局ヲ統轄シ事務ヲ掌理ス

第二十四條 本會ノ會計年度ハ每  
年四月一日ニ始マリ翌年三月三  
十一日ニ終ル但シ特別會計ニ就  
テハ此ノ限リニ非ズ  
第二十五條 本會ノ經費ハ會費、  
補助金及寄附金收入等ヲ以テ之  
ヲ支辨ス、會費ハ一口年額金二  
十圓トス  
第二十六條 本會ノ會費ハ毎年四  
年ニ一ヶ年分ヲ徵收ス  
支部所屬會員ノ會費ハ支部ニ於  
テ之ヲ徵收ス

第三十條 本會ノ會計年度ハ每  
年四月一日ニ始マリ翌年三月三  
十一日ニ終ル但シ特別會計ニ就  
テハ此ノ限リニ非ズ  
第三十一條 本會ノ經費ハ會費、  
補助金及寄附金收入等ヲ以テ之  
ヲ支辨ス、會費ハ一口年額金二  
十圓トス  
第三十二條 本會ノ會費ハ毎年四  
年ニ一ヶ年分ヲ徵收ス  
支部所屬會員ノ會費ハ支部ニ於  
テ之ヲ徵收ス

第三十三條 本會ノ會計年度ハ每  
年四月一日ニ始マリ翌年三月三  
十一日ニ終ル但シ特別會計ニ就  
テハ此ノ限リニ非ズ  
第三十四條 本會ノ經費ハ會費、  
補助金及寄附金收入等ヲ以テ之  
ヲ支辨ス、會費ハ一口年額金二  
十圓トス  
第三十五條 本會ノ會費ハ毎年四  
年ニ一ヶ年分ヲ徵收ス  
支部所屬會員ノ會費ハ支部ニ於  
テ之ヲ徵收ス

第三十六條 本會ノ會計年度ハ每  
年四月一日ニ始マリ翌年三月三  
十一日ニ終ル但シ特別會計ニ就  
テハ此ノ限リニ非ズ  
第三十七條 本會ノ經費ハ會費、  
補助金及寄附金收入等ヲ以テ之  
ヲ支辨ス、會費ハ一口年額金二  
十圓トス  
第三十八條 本會ノ會費ハ毎年四  
年ニ一ヶ年分ヲ徵收ス  
支部所屬會員ノ會費ハ支部ニ於  
テ之ヲ徵收ス

第三十九條 本會ノ會計年度ハ每  
年四月一日ニ始マリ翌年三月三  
十一日ニ終ル但シ特別會計ニ就  
テハ此ノ限リニ非ズ  
第四十條 本會ノ經費ハ會費、  
補助金及寄附金收入等ヲ以テ之  
ヲ支辨ス、會費ハ一口年額金二  
十圓トス  
第四十一條 本會ノ會費ハ毎年四  
年ニ一ヶ年分ヲ徵收ス  
支部所屬會員ノ會費ハ支部ニ於  
テ之ヲ徵收ス

第四十二條 本會ノ會計年度ハ每  
年四月一日ニ始マリ翌年三月三  
十一日ニ終ル但シ特別會計ニ就  
テハ此ノ限リニ非ズ  
第四十三條 本會ノ經費ハ會費、  
補助金及寄附金收入等ヲ以テ之  
ヲ支辨ス、會費ハ一口年額金二  
十圓トス  
第四十四條 本會ノ會費ハ毎年四  
年ニ一ヶ年分ヲ徵收ス  
支部所屬會員ノ會費ハ支部ニ於  
テ之ヲ徵收ス

第四十五條 本會ノ會計年度ハ每  
年四月一日ニ始マリ翌年三月三  
十一日ニ終ル但シ特別會計ニ就  
テハ此ノ限リニ非ズ  
第四十六條 本會ノ經費ハ會費、  
補助金及寄附金收入等ヲ以テ之  
ヲ支辨ス、會費ハ一口年額金二  
十圓トス  
第四十七條 本會ノ會費ハ毎年四  
年ニ一ヶ年分ヲ徵收ス  
支部所屬會員ノ會費ハ支部ニ於  
テ之ヲ徵收ス

第四十八條 本會ノ會計年度ハ每  
年四月一日ニ始マリ翌年三月三  
十一日ニ終ル但シ特別會計ニ就  
テハ此ノ限リニ非ズ  
第四十九條 本會ノ經費ハ會費、  
補助金及寄附金收入等ヲ以テ之  
ヲ支辨ス、會費ハ一口年額金二  
十圓トス  
第五十條 本會ノ會費ハ毎年四  
年ニ一ヶ年分ヲ徵收ス  
支部所屬會員ノ會費ハ支部ニ於  
テ之ヲ徵收ス

第五十一條 本會ノ會計年度ハ每  
年四月一日ニ始マリ翌年三月三  
十一日ニ終ル但シ特別會計ニ就  
テハ此ノ限リニ非ズ  
第五十二條 本會ノ經費ハ會費、  
補助金及寄附金收入等ヲ以テ之  
ヲ支辨ス、會費ハ一口年額金二  
十圓トス  
第五十三條 本會ノ會費ハ毎年四  
年ニ一ヶ年分ヲ徵收ス  
支部所屬會員ノ會費ハ支部ニ於  
テ之ヲ徵收ス

第五十四條 本會ノ會計年度ハ每  
年四月一日ニ始マリ翌年三月三  
十一日ニ終ル但シ特別會計ニ就  
テハ此ノ限リニ非ズ  
第五十五條 本會ノ經費ハ會費、  
補助金及寄附金收入等ヲ以テ之  
ヲ支辨ス、會費ハ一口年額金二  
十圓トス  
第五十六條 本會ノ會費ハ毎年四  
年ニ一ヶ年分ヲ徵收ス  
支部所屬會員ノ會費ハ支部ニ於  
テ之ヲ徵收ス

第五十七條 本會ノ會計年度ハ每  
年四月一日ニ始マリ翌年三月三  
十一日ニ終ル但シ特別會計ニ就  
テハ此ノ限リニ非ズ  
第五十八條 本會ノ經費ハ會費、  
補助金及寄附金收入等ヲ以テ之  
ヲ支辨ス、會費ハ一口年額金二  
十圓トス  
第五十九條 本會ノ會費ハ毎年四  
年ニ一ヶ年分ヲ徵收ス  
支部所屬會員ノ會費ハ支部ニ於  
テ之ヲ徵收ス

第六十條 本會ノ會計年度ハ每  
年四月一日ニ始マリ翌年三月三  
十一日ニ終ル但シ特別會計ニ就  
テハ此ノ限リニ非ズ  
第六十一條 本會ノ經費ハ會費、  
補助金及寄附金收入等ヲ以テ之  
ヲ支辨ス、會費ハ一口年額金二  
十圓トス  
第六十二條 本會ノ會費ハ毎年四  
年ニ一ヶ年分ヲ徵收ス  
支部所屬會員ノ會費ハ支部ニ於  
テ之ヲ徵收ス

第六十三條 本會ノ會計年度ハ每  
年四月一日ニ始マリ翌年三月三  
十一日ニ終ル但シ特別會計ニ就  
テハ此ノ限リニ非ズ  
第六十四條 本會ノ經費ハ會費、  
補助金及寄附金收入等ヲ以テ之  
ヲ支辨ス、會費ハ一口年額金二  
十圓トス  
第六十五條 本會ノ會費ハ毎年四  
年ニ一ヶ年分ヲ徵收ス  
支部所屬會員ノ會費ハ支部ニ於  
テ之ヲ徵收ス

北、中支政府機關

〔北支之部〕

(昭和十二年十二月十四日成立)

Table with columns for various government departments and officials, including names like 湯和, 王克敏, 朱深, etc.



實業部	長	王蔭泰	財政部	長	汪時璟	教育部	長	馮爾和	法政部	長	朱深	內政	長	姚國棟	交通	長	于景陶	郵政	長	潘慕蓮	行政	長	李宜威	財政	長	祝書元	行政	長	方宗濇	東京	長	孫茂
國務院	總理	段祺瑞	國務院	秘書長	王克敏	國務院	秘書長	王克敏	國務院	秘書長	王克敏	國務院	秘書長	王克敏	國務院	秘書長	王克敏	國務院	秘書長	王克敏	國務院	秘書長	王克敏	國務院	秘書長	王克敏	國務院	秘書長	王克敏	國務院	秘書長	王克敏
臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏

教育部	長	陶鈞	財政部	長	沈鴻烈	內務部	長	張志讓	司法部	長	張志讓	農林部	長	張志讓	交通	長	張志讓	郵政	長	張志讓	行政	長	張志讓	財政	長	張志讓	行政	長	張志讓	東京	長	張志讓
國務院	秘書長	王克敏	國務院	秘書長	王克敏	國務院	秘書長	王克敏	國務院	秘書長	王克敏	國務院	秘書長	王克敏	國務院	秘書長	王克敏	國務院	秘書長	王克敏	國務院	秘書長	王克敏	國務院	秘書長	王克敏	國務院	秘書長	王克敏	國務院	秘書長	王克敏
臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏	臨時政府	秘書長	王克敏

總理	野田清武	副總理	久光正男	財政	馬永毅	農務	金永昌	交通	杜運宇	民政	寺坂佑一	保安	伊藤祐	察哈爾	卓持巴札布	錫林郭勒	德楚克棟魯布	烏蘭札布	巴穆寶多爾濟	伊克昭	盟九沙克都爾札布
國務	野田清武	國務	久光正男	財政	馬永毅	農務	金永昌	交通	杜運宇	民政	寺坂佑一	保安	伊藤祐	察哈爾	卓持巴札布	錫林郭勒	德楚克棟魯布	烏蘭札布	巴穆寶多爾濟	伊克昭	盟九沙克都爾札布
國務	野田清武	國務	久光正男	財政	馬永毅	農務	金永昌	交通	杜運宇	民政	寺坂佑一	保安	伊藤祐	察哈爾	卓持巴札布	錫林郭勒	德楚克棟魯布	烏蘭札布	巴穆寶多爾濟	伊克昭	盟九沙克都爾札布

【中支之部】  
中國維新政府  
(昭和十三年三月二十八日成立)

國務	野田清武	國務	久光正男	財政	馬永毅	農務	金永昌	交通	杜運宇	民政	寺坂佑一	保安	伊藤祐	察哈爾	卓持巴札布	錫林郭勒	德楚克棟魯布	烏蘭札布	巴穆寶多爾濟	伊克昭	盟九沙克都爾札布
國務	野田清武	國務	久光正男	財政	馬永毅	農務	金永昌	交通	杜運宇	民政	寺坂佑一	保安	伊藤祐	察哈爾	卓持巴札布	錫林郭勒	德楚克棟魯布	烏蘭札布	巴穆寶多爾濟	伊克昭	盟九沙克都爾札布
國務	野田清武	國務	久光正男	財政	馬永毅	農務	金永昌	交通	杜運宇	民政	寺坂佑一	保安	伊藤祐	察哈爾	卓持巴札布	錫林郭勒	德楚克棟魯布	烏蘭札布	巴穆寶多爾濟	伊克昭	盟九沙克都爾札布

北支那開發株式會社定款

第一章 總則

第一條 本會社ハ北支那開發株式會社法ニ依リ設立シ北支那開發株式會社ト稱ス

第二條 本會社ハ北支那ニ於ケル經濟開發ヲ促進シ其ノ統合調整ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條 本會社ノ資本ハ三億五千萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ增加スルコトヲ得

第四條 本會社ノ資本ノ内一億七千五百萬圓ハ政府之ヲ出資スルモノトス

第五條 本會社ハ按金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

第二章 株式

第六條 本會社ハ本店ヲ東京市ニ支店ヲ北京ニ置ク

第七條 本會社ノ公告ハ官報及本店所在地ニ於テ所稱裁判所ガ商業登記事項ヲ公告スル新聞紙ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條 本會社ノ株式ハ七百萬株トシ一株ノ金額ヲ五十圓トス

第九條 政府ハ左ノ財産ヲ出資シ本會社ハ其ノ財產價格三千五百八萬六千圓ニ對シ全額拂込ノ株式六十一萬七千七百二十株ヲ與フルモノトス

一 鐵道

一 橋梁及建物

一 機關車其ノ他ノ車輛

一 軌道車ニ軌條及枕木

一 其ノ他鐵道施設及之ニ附帶スル物件

右價格 三千五百八萬六千圓

第十條 本會社ノ株式ハ一株券、十株券、五十株券、百株券、千株券、一萬株券、及五萬株券ノ七種トス

第十三條 株式又ハ其ノ法定代理人ハ株式取得ノ時其ノ氏名、住所及印章ヲ本會社ニ届出ツベシ其ノ變更アリタルトキ亦同ジ

第十條 本會社ノ株式ハ一株券、十株券、五十株券、百株券、千株券、一萬株券、及五萬株券ノ七種トス

第十一條 第一回ノ株金拂込ハ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ付テハ一株ニ付十二圓五十錢トシ政府ノ所有スル株式ニ付テハ一株ニ付八圓六十五錢トス

第十二條 株金拂込ハ事業ノ必要ニ應ジ總裁其ノ拂込金額、期日及方法ヲ定メ少クモ三十日以前ニ各株券ニ之ヲ通知ヲ爲スルモノトス

第十三條 政府ノ所有スル株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込トシテハ一株ニ付十二圓五十錢トシ政府ノ所有スル株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込トス

第十四條 株金拂込ハ第二期以後ニ各株券ニ之ヲ通知ヲ爲スルモノトス

第十五條 株金拂込ノ期日ニ株金拂込ヲ爲サザルトキハ其ノ拂込ムベキ金額ニ對シ拂込期日ノ翌日ヨリ拂込當日迄百圓ニ付一日二錢ノ割合ヲ以テ違約金ヲ徵收ス

第十四條 株式ノ譲渡ニ依リ株券者ノ姓名捺印セル書面ヲ作成シ之ニ株券及本會社ニ於テ必要ト認ムル證據書類ヲ添ヘ本會社ニ其ノ請求ヲ爲スベシ

第十四條 株式ノ譲渡ニ依リ株券者ノ姓名捺印セル書面ヲ作成シ之ニ株券及本會社ニ於テ必要ト認ムル證據書類ヲ添ヘ本會社ニ其ノ請求ヲ爲スベシ

第十五條 株券ノ種類ヲ變更セシトスルトキハ株券引換請求書ニ株券ヲ添ヘ之ヲ本會社ニ提出スベシ

第十六條 株券ノ遺失シタルトキハ其ノ事由ヲ詳記シタル書面ヲ作成シ本會社ニ提出スベシ

會社ニ於テ適當ト認ムル保護人二人以上ノ連印ヲ以テ本會社ニ新株券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

前項ノ請求アリタルトキハ本會社ハ請求者ノ費用ヲ以テ直ニ其ノ旨ヲ公告シ六十日ヲ經ルモ別議ヲ申立ツル者ナキトキニ限リ新株券ヲ交付スルモノトス

株券ヲ再掲又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ詳記シタル書面ニ株券ヲ添ヘ之ヲ本會社ニ提出シ新株券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ本會社其ノ眞偽ヲ鑑別シ難キトキハ株券亡失ノ例ニ依ルモノトス

第十六條 株券ノ名義書換手續料ハ株券一通ニ付十錢トシ株券ノ引換其ノ他新株券ノ交付手續料ハ新株券一通ニ付五十錢トス

第十七條 本會社ハ豫メ公告ノ上定時株主總會則三十日ヲ越エザル期間株式ノ譲渡ニ依ル株券ノ名義書換ヲ停止ス

メ公告ノ上株式ノ譲渡ニ依ル株主ノ名義書換ヲ停止スルコトヲ得ルベシ

第三章 株主總會

第十八條 本會社ノ定時株主總會ハ必要アル毎ニ總裁之ヲ召集ス總會ノ日時、場所及會議ノ目的タル事項ハ總裁之ヲ定ム

第十九條 總會ノ議長ハ總裁之ニ當ル總裁事故アルトキハ副總裁中ノ一人之ニ當リ總裁副總裁共ニ事故アルトキハ業務ヲ分掌スル理事中ノ一人之ニ當ル

第二十條 議長ハ株主トシテ其ノ議決權ヲ行使スルコトヲ妨グズ

第二十一條 株主ハ本會社其ノ他ノ株主ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ代理權ヲ證明スベキ委任狀ヲ本會社ニ提出スベシ

第二十二條 總會ノ決議ハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ルモノトス

定款ノ變更ハ資本ノ半額以上ニ

當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決スルモノトス

第二十二條 定款ノ變更、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ効力ヲ生ゼザルモノトス

第二十三條 總會ノ議事ノ要領ハ議事録ニ記載シ議長及議長ノ指名シタル出席株主二人以上之ニ記名捺印スベシ

第四章 役員

第二十四條 本會社ニ總裁一人、副總裁二人、理事五人以上及監事二人以上ヲ置ク

第二十五條 總裁ハ本會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁ヲ輔佐シ總裁事故アルトキハ副總裁ノ一人其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

理事ハ總裁ヲ輔佐シ總裁ノ定ムル所ニ從ヒ本會社ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

監事ハ本會社ノ業務ヲ監査ス

第二十六條 總裁及副總裁ハ勅裁

ヲ經テ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受タルモノトシ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

第二十七條 總裁、副總裁及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十八條 本會社ニ顧問若干人ヲ置クコトヲ得

顧問ハ總裁ノ諮問ニ應ジテ意見ヲ開陳スルモノトス

顧問ハ政府ノ認可ヲ受ケ總裁之ヲ委嘱ス

第五章 業務

第二十九條 本會社ハ左ノ事業ノ主要ナルモノニ對シ投資又ハ融資ヲ爲シ其ノ經營ヲ綜合調整スルモノトス

一 交通、運輸及港灣ニ關スル事業

二 通信ニ關スル事業

三 發送電ニ關スル事業

四 鑛産ニ關スル事業

五 鹽ノ製造、販賣及利用ニ關スル事業

六 則各號ノ外北支那ニ於ケル經濟開發ヲ促進スル爲メ特ニ統合調整ヲ必要トスル事業

第六章 北支開發債券

第三十條 本會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ北支開發債券ヲ發行スルコトヲ得

北支開發債券ヲ發行スル場合ニ於テハ西法第二九條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セザルモノトス

第三十一條 本會社ハ携込株金額ノ五倍ヲ限リ北支開發債券ヲ發行スルコトヲ得

本會社ハ北支開發債券借換ノ爲メ一時前項ノ制限ニ依ラズ北支開發債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月内ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル補北支開發債券ヲ償還ス

第三十二條 北支開發債券ハ無記名式トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名式ト爲スコトヲ得ルモノトス

第三十三條 北支開發債券ノ所有者ハ本會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ清算ヲ受クル權利ヲ有スルモノトス

第三十四條 無記名北支開發債券ヲ亡失シタルトキハ新債券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ本會社ハ請求人ノ費用ヲ以テ公示催告ノ手續ヲ爲シ無効ノ宣告アリタル後ニ非ザレバ新債券ヲ交付セズ

第三十五條 第十四條ノ規定ハ記名北支開發債券ノ名義書換ノ場合ニ、第十五條第二項及第三項ノ規定ハ記名北支開發債券ヲ亡失シタル場合ニ、第十五條第四項ノ規定ハ北支開發債券ヲ再掲又ハ毀損シタル場合ニ、第十六條ノ規定ハ北支開發債券ノ名義書換及債券ノ引換其ノ他新債券

ノ交付ノ手数料ニ之ヲ適用ス

第七章 計 算

第三十六條 本會社ノ營業年度ハ一月一日ヨリ十二月三十一日迄トス

第三十七條 本會社ノ利益金ハ當該營業年度ノ總益金（政府ヨリノ補助金ヲ含ム）ヨリ總損金（政府ノ償還金ヲ含ム）ヲ控除シタル殘額トス

第三十八條 本會社ノ利益金ハ左ノ方法ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分スルモノトス

一 法定準備金 利益金ノ百分十以上

二 従業員退職給與積立金 利益金ノ百分一以上

三 役員賞與金

四 株主配當金

五 特別積立金

六 特別準備金

第三十九條 本會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ携込金額ニ對シ年百分ノ六ノ

割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セザルモノトス

第四十條 本會社ノ每營業年度ニ於ケル投資及融資ノ總額ニ對スル割合（以下收入割合ト稱ス）ガ年百分ノ六ニ達セザルトキハ政府ヨリ初營業年度及爾後五年間左ノ各號ノ金額ノ合計額ヲ限度トシ配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ携込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄其ノ不足額ニ相當スル金額ノ補給ヲ受タルモノトス

一 投資及融資ノ總額中政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ携込金ニ依リタル部分ニ百分ノ七ヨリ收入割合ヲ減ジタル差ヲ乘ジテ得ベキ金額

二 投資及融資ノ總額中社債取入金（社債前借金ヲ含ム以下同ジ）ニ依リタル部分ニ百分ノ五ヨリ收入割合ヲ減ジタル差ヲ乘ジテ得ベキ金額

每營業年度ニ於ケル配當シ得ベ  
利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有  
スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百  
分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ  
其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項ノ補  
給金ノ償還ニ充ツルモノトス  
第一項ノ投資及融資ニ依ル收入  
投資及融資ノ總額並ニ其ノ中政  
府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂  
込金ニ依リタル部分及社債收入  
金ニ依リタル部分ノ計算方法ハ  
命令ノ定ムル所ニ依ルモノトス  
第四十一條 本會社ノ每營業年度  
ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額  
ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式  
ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ  
割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府  
以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ  
年百分ノ六ノ割合ヲ超エ利益配  
當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超  
過スル利益金額ハ利益配當ガ總  
株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對  
シ均一ノ割合ニ連スル迄政府以  
外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金  
額及政府ノ所有スル株式ノ拂込

金額ニ對シ一ト五トノ割合ヲ以  
テ之ヲ配當スルモノトス  
第四十二條 株主配當金ハ三月一  
日現在ノ株主名簿ニ登錄セラレ  
タル株主ニ之ヲ支拂フモノトス  
配當金ノ拂渡期日及場所ハ總裁  
之ヲ定メ株主ニ通知スルモノト  
ス  
附 則  
第四十三條 本會社ノ負擔ニ關ス  
ベキ設立費用ハ十五萬圓ヲ限度  
トス  
前項ノ金額中政府ノ立替ニ係ル  
モノハ政府ニ之ヲ返納スルモノ  
トス  
中支那振興株式會  
社定款  
第一章 總 則  
第一條 本會社ハ中支那振興株式  
會社法ニ依リ設立シ中支那振興  
株式會社ト稱ス  
第二條 本會社ハ中支那ニ於ケル  
經濟ノ復興及開發ヲ助成スルヲ

以テ目的トス  
第三條 本會社ノ資本ハ一億圓ト  
ス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増  
加スルコトヲ得  
第四條 本會社ノ資本ノ内五千萬  
圓ハ政府之ヲ出資スルモノトス  
第五條 本會社ハ株金全額拂込前  
ト雖モ其ノ資本ヲ增加スルコト  
ヲ得  
第六條 本會社ハ本店ヲ上海ニ支  
店ヲ東京市ニ置ク  
第七條 本會社ノ公告ハ官報並ニ  
上海ニ駐在スル帝國領事官ガ商  
業登記事項ヲ公告スル新聞紙及  
東京支店所在地ニ於テ所轄裁判  
所ガ商業登記事項ヲ公告スル新  
聞紙ヲ以テ之ヲ爲ス  
第二章 株 式  
第八條 本會社ノ株式ハ二百萬株  
トシ一株ノ金額ヲ五十圓トス本  
會社ノ株式ハ記名式トス  
第九條 政府ハ左ノ財産ヲ出資シ  
本會社ハ其ノ財產價格七百六十  
四萬圓ニ對シ全額拂込ノ株式十  
五萬二千八百株ヲ與フルモノト

ス  
一 機關車、貨車、客車其ノ他  
ノ車輛  
一 軌道並ニ軌條及枕木  
一 其ノ他鐵道施設及之ニ附帶  
スル物件  
右價格 七百六十四萬圓  
第十條 本會社ノ株券ハ一株券、  
十株券、五十株券、百株券、千  
株券及一萬株券ノ六種トス  
第十一條 第一回ノ株金拂込ハ政  
府以外ノ者ノ所有スル株式ニ付  
テハ一株ニ付十二圓五十錢トシ  
政府ノ所有スル株式ニ付テハ一  
株ニ付十三圓二十錢トス  
第二回以後ノ株金拂込ハ事業ノ  
必要ニ應ジ總裁其ノ拂込金額、  
期日及方法ヲ定メ少クとも三十  
日間ニ各株主ニ之ヲ通知ヲ爲ス  
ルモノトス  
政府ノ所有スル株式ノ株金拂込  
ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之  
ヲ異ニスルコトヲ得ルモノトス  
第十二條 株主拂込ノ期日ニ株金  
ノ拂込ヲ爲サザルトキハ其ノ拂

込ムベキ金額ニ對シ拂込期日ノ  
翌日ヨリ拂込當日迄百圓ニ付一  
日二錢ノ割合ヲ以テ違約金ヲ徵  
收ス  
第十三條 株主又ハ其ノ法定代理  
人ハ株式取得ノ時其ノ氏名、住  
所及印鑑ヲ本會社ニ届出ツベシ  
其ノ變更アリタルトキ亦同ジ  
帝國内ニ住所又ハ居所ヲ有セザ  
ル株主ハ帝國内ニ居住所又ハ代  
理人ヲ定メ本會社ニ届ケ置クベ  
シ其ノ變更アリタルトキ亦同ジ  
第十四條 本會社ノ株式ハ總裁ノ  
承認ヲ受タルニ非ザレバ之ヲ外  
國人又ハ外國法人ニ譲渡スルコ  
トヲ得ザルモノトス  
第十五條 株式ヲ譲渡ニ依リ株券  
ノ名義書換ヲ爲サントスルトキ  
ハ本會社所定ノ書式ニ依リ當事  
者ノ記名捺印セル書面ヲ作成シ  
之ニ株券及本會社ニ於テ必要ト  
認ムル證據書類ヲ添ヘ本會社ニ  
其ノ請求ヲ爲スベシ  
改氏名、相續其ノ他ノ事由ニ依  
リ株券ノ名義書換ヲ爲サントス

ルトキハ前項ニ準ジテ本會社ニ  
其ノ請求ヲ爲スベシ  
第十六條 株券ノ種類ヲ變更セシ  
トスルトキハ株券引換請求書ニ  
株券ヲ添ヘ之ヲ本會社ニ提出ス  
ベシ  
株券ヲ亡失シタルトキハ其ノ事  
由ヲ詳細シタル書面ヲ作成シ本  
會社ニ於テ適當ト認ムル保證人  
二人以上ノ連印ヲ以テ本會社ニ  
新株券ノ交付ヲ請求スルコトヲ  
得ルモノトス  
前項ノ請求アリタルトキハ本會  
社ハ請求者ノ費用ヲ以テ直ニ其  
ノ旨ヲ公告シ六十日ヲ經ルモ異  
議ヲ申立ツル者ナルトキニ限り  
新株券ヲ交付スルモノトス  
株券ヲ汚損又ハ毀損シタルトキ  
ハ其ノ事由ヲ詳細シタル書面ニ  
株券ヲ添ヘ之ヲ本會社ニ提出シ  
新株券ノ交付ヲ請求スルコトヲ  
得此ノ場合ニ於テ本會社其ノ價  
額ヲ區別シ難キトキハ株券亡失  
ノ同ニ依ルモノトス  
第十七條 株券ノ名義書換及株券

ノ引換其ノ他新株券ノ交付ニ關  
スル事務ハ東京支店ニ於テモ之  
ヲ取扱フモノトス  
第十八條 株券ノ名義書換手續料  
ハ株券一通ニ付十錢トシ株券ノ  
引換其ノ他新株券ノ交付手續料  
ハ新株券一通ニ付五十錢トス  
第十九條 本會社ハ豫メ公告ノ上  
定時株主總會前三十日ヲ超エザ  
ル期間株式ヲ譲渡ニ依ル株券ノ  
名義書換ヲ停止ス  
前項ノ外特ニ必要アルトキハ豫  
メ公告ノ上株式ヲ譲渡ニ依ル名  
義書換ヲ停止ス分コトヲ政ベシ  
第三章 株主總會  
第二十條 本會社ノ定時株主總會  
ハ毎年三月ニ臨時株主總會ハ必  
要アル毎ニ總裁之ヲ召集ス  
總會ハ上海又ハ東京市内ニ之ヲ  
召集ス  
總會ノ日時、場所及會議ノ目的  
タル事項ハ總裁之ヲ定ム  
第二十一條 總會ノ議長ハ總裁之  
ニ當リ總裁事故アルトキハ副總  
裁之ニ當リ總裁副總裁共ニ事故

アルトキハ業務ヲ分掌スル理事  
中ノ一人ニ當ル  
總會ノ議長ハ株主トシテ其ノ議  
決權ヲ行使スルコトヲ妨グズ  
第二十二條 株主ハ本會社ノ他ノ  
株主ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行  
フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其  
ノ代理權ヲ證明スベキ委任狀ヲ  
本會社ニ提出スベシ  
第二十三條 總會ノ決議ハ出席シ  
タル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以  
テ之ヲ爲ス可ク同數ナルトキハ  
議長ノ決スル所ニ依ルモノトス  
定款ノ變更ハ資本ノ半額以上ニ  
當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過  
半ヲ以テ之ヲ決スルモノトス  
第二十四條 定款ノ變更、合併及  
解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受テ  
ルニ非ザレバ其ノ効力ヲ生ゼザ  
ルモノトス  
第二十五條 總會ノ議事ノ要領ハ  
議事録ニ記載シ議長及議長ノ指  
名シタル出席株主二人以上之ニ  
記名捺印スベシ

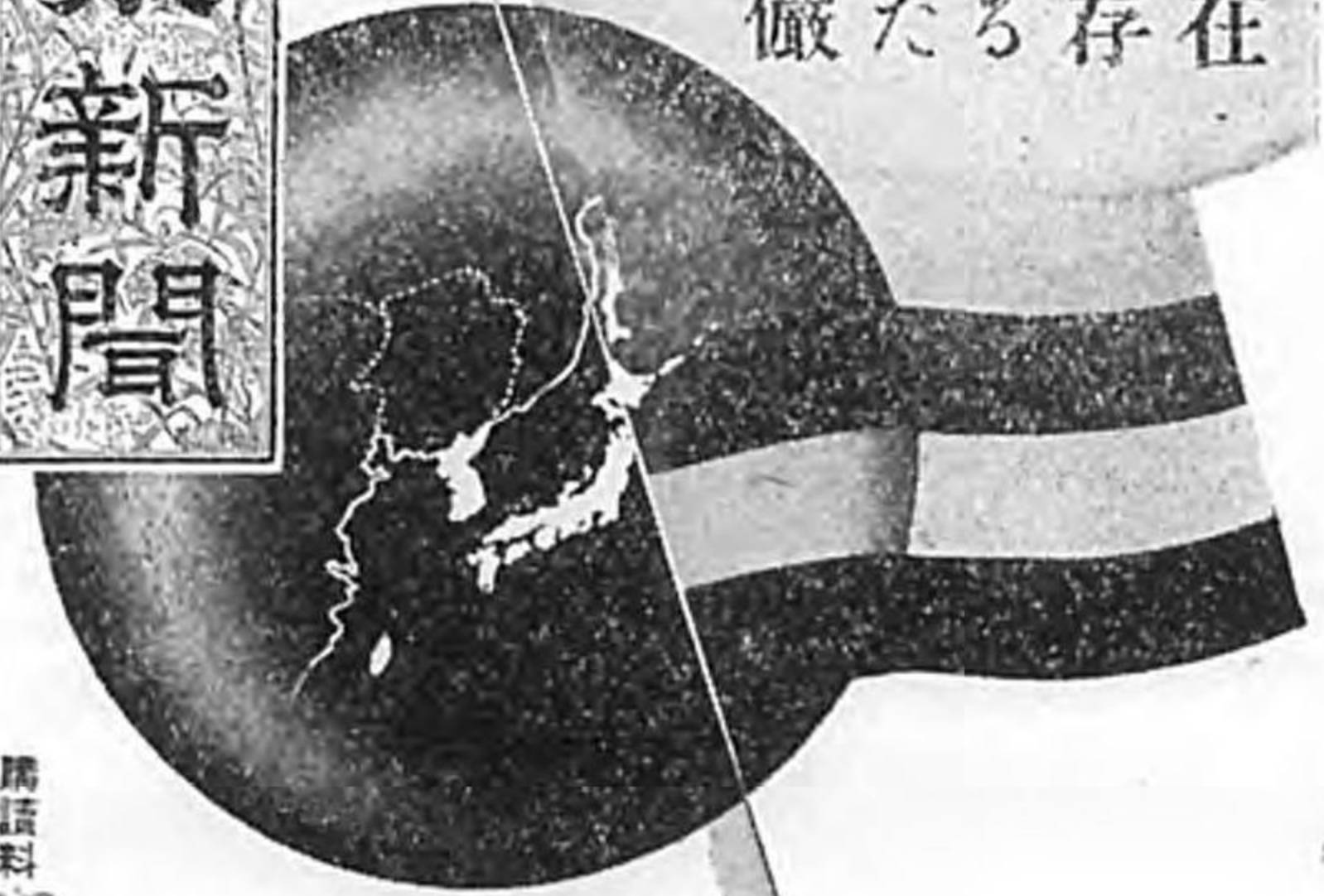
# 日滿支經濟懇談會 錄記



## 日滿工業新聞

### 躍進

日滿支に  
儼たる存在



購讀料  
半年  
金五拾圓

他の追隨を許さぬ本紙の特色  
一般工業  
機械工業  
造船工業  
電機工業  
電氣工業  
化學工業  
地鉄工業  
金銅工業  
鑛山工業  
建築工業  
土木建築  
世界大況  
官公買入  
内特報  
経外電報

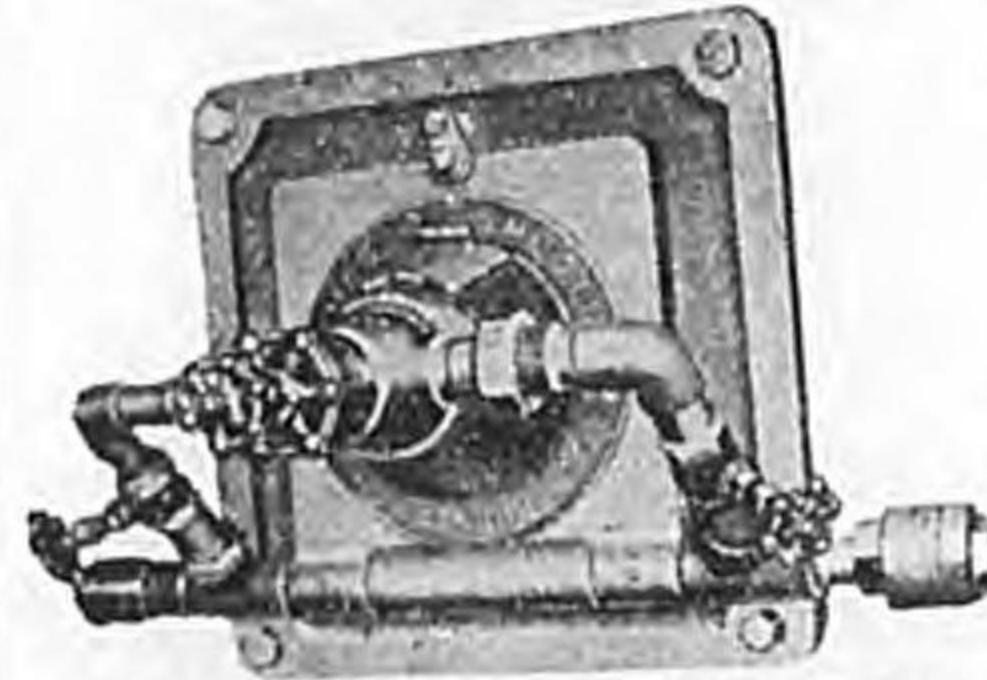
大阪—西區昭和通・東京—麹町區有樂町  
日滿工業新聞社  
各地總局支局 { 新京・天津・北京・大連・奉天・名古屋  
                  { 神戶・福岡・廣島・京城・臺北・上海

# 燃焼機ト築爐ハ斯界ノ最高權威

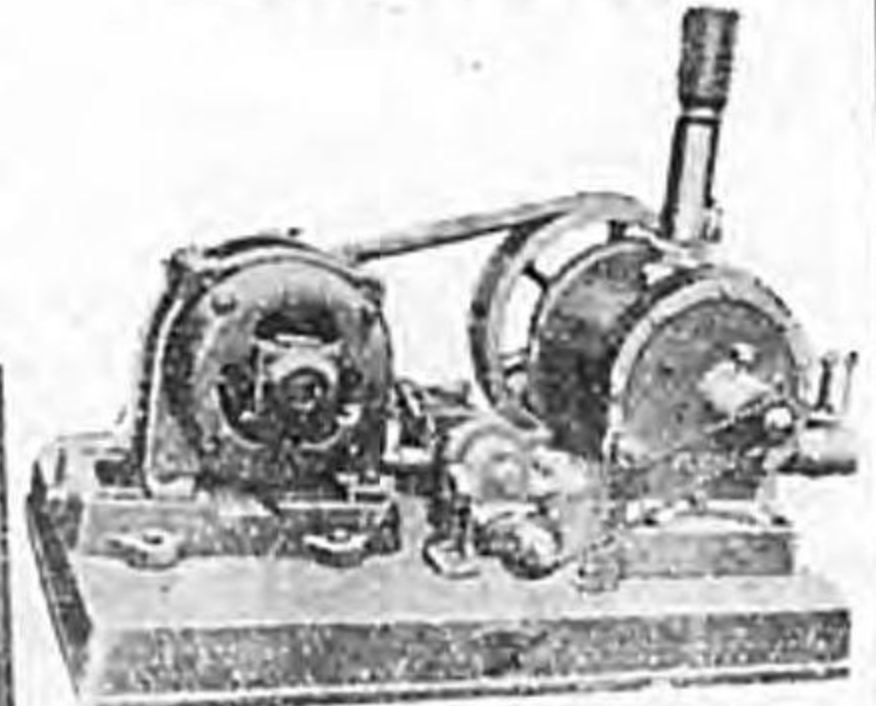
「最古ノ歴史ト最新技術  
=依ル細山太七商店へ」



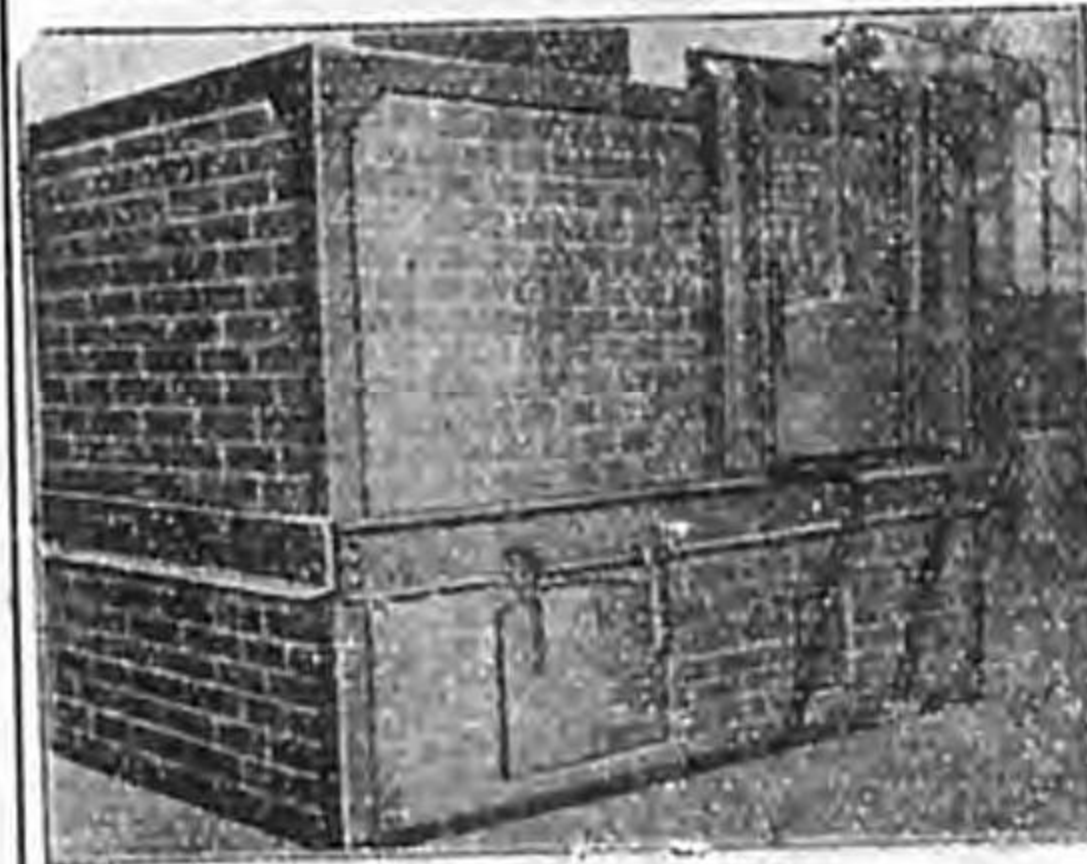
No.2 スムーストーカー



開閉式 大型 スムースオイルバーナー



A型スムース重油燃焼装置



特殊熱處理爐

- 營業課目
- ◇スムース、オイル、バーナー
  - ◇スムース、コークス、ストーカー
  - ◇重油爐、石炭爐、コークス爐
  - ◇各種耐火材料及附屬機械一式
  - ◇諸機械設計製作
  - ◇揮發油、重油、機械油

陸海軍及大工場御指命

## 細山太七商店機工部

第一工場 東京市京橋區新川二丁目六番地  
電話京橋②0991・2384・4275・9404・7652番  
第二工場 東京市蒲田區花谷町四ノ一七一四

### 序文

聖戰既に一年有半、抗日虛勢の據點武漢三鎮既に空しく、殘された唯一の糧道—廣東も早や疾風の皇軍の治下にある。

東亞永遠の平和、世界新秩序の建設のために起されし未曾有の事業—戦争的壊滅と平和的建設の難行を相並行して成就せんとする東亞民族の快意は固く、先づこれが魁の第一線に擧げられし三國共存共榮の旗印は夕日滿支經濟懇談會々であつた。萬端の準備と期待に昭和十三年十一月廿二日より東京懇談會を皮切りに名古屋、大阪、門司、新京各地に於いて開催された本懇談會の意義は又大なるものがあつたと信ずる。本社はこの重大會議を以つて東亞經濟再建の礎石たる事を深く信じ永く後世の記念録とするため特にこの内容を詳細に速記、十四年度日滿支工業年鑑の附録として收め全讀者に送る事を得たのは秘かに意義ある企てと自負する次第である。

日滿工業新聞社



出席代表寫眞 上から滿洲國産業部大臣呂榮、同新京商工會會長丁應修、中華民國臨時政府

行政院建設廳長官殿同、同維新政府實業部長王子惠、蒙疆聯合委員會實業部長金永昌諸氏

### 目次

- ◇東京懇談會
  - 四ヶ國代表の挨拶……………五二六
  - 一般問題、産業關係……………五二七
  - 金融爲替關係……………五二八
  - 貿易交通關係その他……………五二九
- ◇大阪懇談會
  - 總會……………五三〇
  - 第一分科會……………五三一
  - 第二分科會……………五三二
  - 第三分科會……………五三三
  - 第四分科會……………五三四
  - 總會(報告、聲明)……………五三五

# 東京懇談會



日滿支經濟懇談會東京懇談會第一  
 呂榮實氏  
 是經濟關係七團體（日本商工會議  
 所、日本經濟聯盟會、東京商工會  
 議所、橫濱商工會議所、日滿實業  
 協會、日華實業協會、東京銀行集會  
 所）共同主催の下に第一日は十一  
 月廿二日午前九時より東京丸ノ内  
 日本工業俱樂部で第二日帝國ホテル  
 に開催された、當日來賓側より  
 講者 講者 講者 講者 講者 講者  
 同維新政府實業部長 王子惠氏  
 蒙藏聯合委員會委員長金永昌氏  
 以下四政府代表五十餘名  
 我國側よりは外務、大藏、商工、陸  
 海軍、企業院、對滿事務局代表及  
 び民間財界有力者百餘名出席した

## 東亞經濟の

## 新秩序建設に邁進

### 四國代表の挨拶

東京懇談會會長 伍堂卓雄氏

閣下並びに各位

日滿支經濟東京懇談會は日本商工會議所、日本經濟聯盟會、東京商工會議所、橫濱商工會議所、日滿實業協會、東京銀行集會所、日華實

業協會の共同主催にかゝり不肖私主催者側の依頼によりまして會長を勤め、こゝに開會の御挨拶を申し上げます。當懇談會には滿洲帝國產業部大臣呂榮實閣下、中華民國臨時政府經濟部長官張國燾閣下、中華民國雜政府實業部長王子惠閣下、蒙藏聯合委員會委員長金永昌閣下その他要路大官の御臨席を仰ひ、更に外務、大藏、陸軍、海軍、商工各省の閣下並びに經濟界の有力者の御臨席を乞ひ、我國において當懇談會を開催いたし得ましたことは欣決に耐へたい次第であります。こゝに簡單にこの懇談會を開催した主旨を申述べます。我が國の東亞大陸に對する根本方針は申す迄もなく東亞永遠の安定を確保すべき新秩序の建設にあり、しかしてこの新秩序の建設は日滿支蒙相携へ、政治經濟、文化等の各般に亘つて相互連環の關係を樹立するを以つて根幹とし、東亞に於ける國際正義の確立、共同防共の達成、新文化の創造、經濟結合の實現にあることは帝國の要請に於て明かにせられたところであり、この根本方針に準照して日滿支蒙の官民同相携へて大陸資源の開発、産業の確立、經濟の建設に努力を致し、もつて東亞新秩序の建設に寄與したい念願の下にこの經濟懇談會を開催する次第であります。各位は御座を聞いて感戴なく懇談せられんことを希望致すものであります。

不可分の精神に基き經濟に財政に適切なる計畫を樹立せられ日本も亦資金、技術等の援助を行ひ斯くて計畫は着々實現をみ、今や民生は安定し、資源は開發せられ交通、通商は充實し、建國以來數年なるに拘らず、その榮耀は實に驚異に値ひするものがある。

願つて支那に於ても戦火未だをさまらざる最中であつて北支那に臨時政府、中支那に維新政府、蒙疆に蒙藏聯合委員會の成立をみ、各々各地有力者の盡力を竭て經濟建設事業が着々進捗せんとして、而して之等諸地における官民同相携へるの長進なることを想ふとき、その將來は實に洋々たる希望を馳し得る次第である。日本に於ても事變の目的貫徹に努力すべき時期は今強にありとの見地より長期建設、生産力の充實等を支障なく進行せんものと官民一致益々努力致しつゝ、而してこれら日滿支三國の綜合的經濟を充實發展せしめ、民族福利の物質的基礎を鞏固ならしめ以て之を子孫に傳へんとする努力にはかならぬ。これら日滿支三國の綜合的經濟力の發展のため計畫を立案實行するに當つてその地域に特有なる事情が存するので、日滿支經濟關係者が互に他の事情に理解を深め、融和調和を齎り經濟提携の手段方法には懇談を重ね、各自の經濟力を最も強く發揮すると同時に之を結合して一層擴大強化したる成果を齎せることが現下建國の要事と思はれる。然るに本懇談會開催の機會において滿洲、北支、中支、蒙疆より政府要路の大官及び民間財界の有力者各位が演説をいとせず多數の來會されたことは衷心より喜びに堪へない。

日滿支經濟懇談會委員長 賀屋興宣氏

抑々今次事變の目標は國民政府の樹立する抗日容共政策を打破し、東洋永遠の平和を確保すべき新秩序の建設であり延いては世界平和の建設に寄與するにある。この新秩序の建設は、日滿支三國相携携して國防、政治、經濟、文化等各般に亘り互助連環の關係を樹立するを以て根幹とする次第である。

これを經濟上の關係に就て考へるに、我盟邦滿洲國は建國以來日滿

斯くの如く本懇談會は日本、滿洲、北支、中支、蒙疆各地の有力財界人の全的會合であり、發言者何れも新東亞の經濟建設に對して大なる熱意を有せらるゝ人々の集りであるからその高邁なる論見と該博なる知識に基づく凡ゆる所論や討論が直接間接新東亞の經濟建設に貢獻するところ大なるを信じて疑はないのである。

こゝに特に一言述べざるを得ざる事實は本會合が三國の総合的經濟建設に對しての日滿支三國人の大會合の最初のものであり、三國の結合による新東亞の發展の第一歩がこゝに踏み出され新秩序の建設の上に必ず歴史的に重大なる足跡を残すと思はれるのである(代讀)

滿洲帝國產業部大臣

呂 榮 寰 氏

本日はこの日滿支經濟懇談會に於て日本朝野の權威並びに中華民國臨時政府、中華民國維新政府、蒙疆聯合委員會の多數要路と親しく一堂に會し、日滿支經濟プロツクの結合、新しき東亞の建設に相謀する機會を得ましたことは私しの喜びに耐へないことであります。顧みるに歐洲戰役における世界經濟界は次第に自給自足を根本とする經濟組織に轉移して行きました。思想的にも經濟的にも一統になり得るものは、より大きなプロツクをつくりお互に譲りあつてゆかうといふ傾向が顯著であります。吾々もこの方向に歩まねばなりません。支那事變の勃發により支那には北支臨時、中支維新、蒙疆の各政府が新設されました。この三政府と日本及び滿洲國が一つのプロツクをつくり吾々の東洋は吾々の力で永遠の平和を建設、世界人類の幸福に貢獻することが吾々に與へられた使命であり、また歴史の必然でもあります。武漢三鎮、廣東の陥落により支那事變の推移は新階段に達し、このことが日滿支經濟懇談會開催の機會をつくりつたのであります。従つてこの會合の持つ意義は誠に大で、劃期的な大會議であると確信する次第であります。

第であります。

吾々は懇談會に於て何を讀し、新東洋プロツク建設の方向を如何に定むべきかは懇談の結果充分に研究され結論に達すること、存じますが、その前に申上げたいことは

一、東洋經濟プロツクは各々の立場に満足し得る條件の下に經濟力を十二分に効果的に發揮し得ること

二、東洋經濟プロツクの全體の力になるやうに仕向ける

の二點である、各々の立場のみを考へず方法を考へるのが原則であるしかもその原則は尊重觀念の度を失しないことである、この原則の實行には幾多の困難が伴ふものと思へるが、この原則を實踐することに上つて東洋經濟プロツクの建設が實現せられ、吾々の理想とする東洋永遠の平和を期し得るものと考へます。

しかし中支、北支、蒙疆政府におかれては暇顧未だ去らずその困難は容易ならぬものと推察されますが、これを乗り越えるものは一意一誠の精神なのであります。

吾々が滿洲國建設の根本としたものもこの精神でありました。すなはち昭和六年九月十八日の事件を契機として滿洲國は、情義をもつて王道とする一體一徳一心の根本精神で建國に進んだことは周知の通りで御座います。その結果は當初南北滿を通じてなほ三十萬の匪賊があり、しかもリットン卿の調停による報告等々種々の障害はありましたが日本の日滿一致の精神による援助と日滿民一致の力により今日の滿洲國を築き得ました。當初吾々の豫想した幾多の困難は次々に解消され吾々の理想は極めて短時間に實現し得たのであります。この吾々の體國精神は今使の新東洋一東洋人の東洋をつくる上にも絕對に必要なものと考へます。吾々は極めて短時間に大きな仕事を爲さねばなりませんので、そのために私の考へを率直に申上げました。

中華民國臨時政府建設總長官 殷 同 氏

これから私が御挨拶申上げますが、餘り専門的なことは略します。この度び時局に對處するため本會を開催し東亞の新經濟體制について審議されることになり不肖私にも一言述べさせて頂ける機會を與へられましたことを深く感謝致します。

私の國の古い諺に「遠い親戚より近くの他人」といふ諺があります。日本と支那とは遠い親戚でなく近くの親戚であるから大いに提携する必要があると、現在の世界に就て見ると、米國、歐洲では各々政治、經濟等の利害共通の國家及び國家群は夫々結合してゐるにも拘らず我々兩國が今尙兄弟關係にせめて徒らに國力を消耗しつゝあるの應は痛心の極みです。然しこれはお國の諺に「兩隣つて地固る」といふEもあり我々はお互の爲に將來再びかゝる馬鹿々々しい愚を繰り返すEがあつてはならないと固い決心をなすとは天から吾々に與へられた責務と思ひます。であるから今度の基礎工事には我々の全智全能を傾けて成し遂げねばならぬこの基礎工事は本懇談會の主題となる課であり我々は喜んで來たのであります。今度の事變により我々支那の現地は全く焦土と化し經濟機構のすべては破壊された殊に最も困つてゐるは

- (一) 中心となるべき人物が離散してゐる。
- (二) 經濟的基礎が根本的に破壊されてしまつた。
- (三) それに加へて粉河の洪水はこの經濟的基礎の資料を失つて無力化した。

これが我々の經濟的工事に對して大なる支障を來たさせてゐる。従つて經濟的再建には大いなる努力と時日が必要であり、これが具體的方針を定めるまでには出來てゐないが、極力資源の開發、交通の整備、生活の再建、商業増進、農産の改良増進、海外支拂の増進のため

に努力してゐる。これがためにお互に提携、補助をなからしめるにありこのために結果として各種の産業に分ち、生産コストの安い所で生産を興す適地適業による新形態になると思ふ、之等の方策の達成のためには東亞プロツクの經濟提携による經濟力の確保によつてのみ、第三國に對抗し得るのである。

ために先程呂閣下の各國の情勢に應じて各々が満足せしめられる、といはれたらには同意である。

中華民國維新政府實業部長 王 子 惠 氏

閣下前に各位、本日日滿支經濟懇談會に出席し得ましたことは私しの光榮に存することであり、維新政府として深くお禮申上げます。全體アジヤの經濟建設については多少の意見を有しますが、それは會議の進行について申上げることとして、こゝに維新政府の立場から一言御挨拶申上げます。

顧みますれば支那事變は勃發以來一ヶ年有日、その原因は前政権の誤れる容共抗日政策で、中國民衆は頓炭の苦しみに陥りました。しかしこの事變の結果は新しい中國の建設であり、日滿支の共存共榮、東洋永遠の平和の確立であります。

元來中支は中國經濟の中心であり、それだけ事變の影響は大でありましたが、我が維新政府は官民一致をもつて回りに適應してをります。今や府政權は一地方政權に轉落しました。わが經濟建設は君々成果を



舉げて既に現在まで華中鐵礦、華中水産以下八つの名實共に日支合併の會社が設立せられました。また紡績、製粉等の事業も日本の技術と資本で復興の途にあり、又農村に於ても同様で、實に隣人相扶けて實に共榮の實を擧げる基礎は固められました。

今後は資本、技術と共に日滿支が緊密な提携を保ち天然資源の開發にまで邁進すべきであります。新中國の建設に理解ある外國資本の投資は大いに歓迎します。なほ滿洲國とは府政權の政策により遠東の間に置かれましたが今回の會合を機會に眞に相扶ける關係に至つたことは私しの喜びとするところであります。

蒙疆聯合會所業部長 金 永 昌 氏

本日こゝに日滿支經濟懇談會開催に當り各位に御挨拶を申し上げ、且つ今日までの絶大なる御指導御援助に對し御禮申上げる機會を得ましたことは光榮の至りであります。

我蒙疆政權の確立までには非常な御援助を得ましたが、今後の新東亞の建設には尙一層の努力をしなければならぬと思ひます。

先づ蒙疆地區は政治的に特殊な事情の下にあり、而も未だ全く未開發であり、鐵その他の礦物資源、棉花その他の農産資源あり、自給自足をしつゝあり、殊に畜産は蒙疆特有のものがあります。

そしてこれらの資源の開發には尙くまで日本の指導にまたねばならない、これらの豊富なる資源開發によつて政權確立まで日本帝國より享けたものへ酬ひねばならぬし、一方日滿支經濟開發に當りその資源の提供によつて協力することが必要であると考へます。

外務次官 澤田 廉三 氏

新くのごとき會合は一大盛事であります。外務省側として深甚なる感謝を申し上げます。殊に滿支蒙代表に謹んで歡迎の意を表します。日滿支三國は東洋永遠の平和確立に於て重大なる使命を有し乍ら誤れる府政權の政策が今事變の勃發をみたことは誠に遺憾と存する次第であります。もし一ヶ年以前にこの種會合が催され、三國代表が懇談したならば今次の戰禍を防ぎ得たかも知れぬと思へます。

こゝに御臨席の滿支兩國の閣下並に各位は建國の本意を諒として努力せられ、又我が經濟界有志諸氏の努力を期待致すものであります。この會合の雰囲気こそは今後日滿支三國の關係を示すものであり、今後かくの如き會合の益々開催され相互の意志疏通の全からんことを希望致すものであります。

大藏次官 石渡 莊太郎 氏

本日日滿支經濟懇談會が開催され一堂に會して隔懸なき懇談を遂げることとは全く時宜を得たものであると思考致します。過般明治の佳節の帝國盛明にある通り、東亞永遠の平和、新秩序の維新のためには日滿支三國の政權その他凡ゆるもの、結合によつてなされず、故に本懇談會はこの大法則にのつとつて共存共榮の實を擧げねばならないし爲めに金融、通貨、貿易その他各部門によつて着々と實行されて來てゐたが今後尙一層の協力を必要とするを痛感しこれにより日滿支の有機的結合強化を圖る必要があると存じます。既に日滿兩國經濟は一體化するに至つたが、更に支那を加へて三國間によること無要でありこの支那を加へての仕事は日尙後且つ戰火未だおさまらず色々の阻害があるが日滿支一體となつて邁進すべきであります。

このためにこゝに新しい結合に對しては各々の經濟間に矛盾撞着があつてはならないのです。

支那の戰火にある經濟の再建に對しては萬全の注意により提携を確保する必要があり事實事變來現國は一致して事に當つてゐるのは明かであり、私は今こゝに金融問題について一言致します。

事變當初世界各國にあつては日本の財政はこれによつて行詰るのではないか？、公債消化は可能だらうか？と日本の經濟力の強弱性を疑ふ向があります。非常の意見であり、今日までに發表されました物には何等の作爲も憚りもありません。この發表にある通り今年一月より今日までに四十億の公債が發行されてゐるが悉く順調に消化され、通貨の流通高よりしても一月より十月までに更に増加の跡がない、斯のやうに通貨が膨脹せず公債が消化されてゐる點を充分理解されたい、第一の問題は事變後の經濟力に對して未だ疑ひを持つてゐる向もあり、官民一致の加力による公明なる事實を申し上げます。我國の昨年十一月廿日現在の貿易収に上ると輸入増加は六億五千萬圓であるに本年は出超一千九百萬圓に達する、一部の人々が全く豫想しなかつた改善であり且つての發表され数字は尙くまで公明なるものであり、我々は我國經濟力の強固に安心してよいと思ひます。故に本懇談會におかれてもこれらの事實に立脚して有効適切な活用によつて成果を擧げられることを切望致します。

陸軍次官 東條 英機 氏

今回日滿支經濟懇談會の開催に對し各位の御指導御援助に對し御禮申上げる機會を得ましたことは誠に遺憾と存する次第であります。もし一ヶ年以前にこの種會合が催され、三國代表が懇談したならば今次の戰禍を防ぎ得たかも知れぬと思へます。

こゝに御臨席の滿支兩國の閣下並に各位は建國の本意を諒として努力せられ、又我が經濟界有志諸氏の努力を期待致すものであります。この會合の雰囲気こそは今後日滿支三國の關係を示すものであり、今後かくの如き會合の益々開催され相互の意志疏通の全からんことを希望致すものであります。

東洋永遠の平和の確立、延いては世界文化への偉大なる貢獻につき相談することは過去に何人も豫想し得たことでありました。しかし今事變の成果は日滿支三國民が紀化され東洋平和、新秩序の建設に邁進、協力して共産勢力を驅逐することにあり、そのためにはこの聖なる事業を防禦する如何なるものに對しても帝國は斷乎排除し、またするものであります。この際とくに申上げて置きたのは今事變をして世界大戰の例にみる如く日本の消耗戦とある向きがありますが、これは根本的な誤りで、今事變はけつして消耗戦ではなく大建設のための戰争であります。すなはち作戦と建設と相併行して行ふ戰争のない戰争なのであります。しかして日滿支經濟プロッタ建設に當つては次のやうな五點を中心を置くべきだと思ひます。

- 一、滿支經濟を確立して支那民衆の購買力を増進すること及びわが國として支那民衆の生活を向上せしめるため資本と技術とを要中して積極的に協力する。
- 二、ことに道徳的、政治的、經濟的、軍事的に關係を進めるとしてもとくに道徳律による建設協力が必要である。
- 三、日滿支經濟プロッタ建設には利潤のみを追求する搾取經濟を行ふのではなく、尙くまで理想的な民族協和の新經濟原理に基いて開發せねばならない。
- 四、更に日滿支經濟の相互の連絡協力を合理化すること。
- 五、しかして各國の各々の立場はあらうが深甚な相互理解の下に事業を進めねばならぬ。

かくて東亞の天地には全人類が應じたにせなかつた文化事業が着々進み、好むと好まざるに拘らず東洋永遠の平和は築き上げられると思ひます。わが忠勇なる軍人の奮戦もこの目的達成のためであり、今事變有終の實は三國民の双層にかゝるものであり、出席各位の御努力を期待するものであります。

海軍 次官 山本五十六氏

今日日本商工會議所、日本經濟聯盟會、東京商工會議所、滿洲商工會議所、日清實業協會、東京銀行集會所の共同主催の下に日清支經濟懇談會を開催され日、清、蒙、支の各地より經濟界の有力者が出席され、皆一堂に會し睦を交へて懇談するは時宜に適當なる備しとして深く敬意を表し同慶の至りです

日清支の經濟的緊密不可分、互に協力提携しての經濟建設こそは共存共榮と基となるのである、廣東陥落後長期戦となるに一層その感を深くする

勿論複雑なる經濟問題は大所、高所より留意なき意見の交換にしくはなく、これによつて所期の目的を達せられること、思ふ、これを便儀として一層の緊密化されんことを望む

商工 次官 村瀬直養氏

本日こゝに各方面の經濟關係權威の參集をみ日清支經濟懇談會の開催されたことは喜びに耐へません、今や東亞の諸民族は極めて重大なる任務を有してをります、その任務とは申すまでもなく東洋永遠の平和建設であり、この事業の容易ならざるは當然のことであり、既に今事業の目的は着々達せられてをり北支、中支、蒙疆には新政權が樹立されました、そして日清支一體による新東洋の文化と經濟の建設が築き上げられるのであります、そのために先づ中華民國では戰禍を速かに回復し資源を開發して民衆の生活に平和を與へることが先決問題であると存じます、然し乍ら支那、滿洲に於ける資源開發には日本

の技術と資本の提供により所謂日清支經濟プロダクトの建設が絶対必要なのであります、更にまたこれを達成せしむるには先づ國防産業の充實が必要であります、このためには物資動員計畫の完備を期すべきであることは申すまでもありません

しかしして斯かる東洋永遠の平和のための經濟提携には各國相互の調和により各々の缺點を補正して萬全を期すべきは申上げるまでもなくその點からもこの懇談會の持つ意義も亦重大であると存じます、希くは出席各位の御努力によつてこの目的達成を容易にし日清支提携の實を世界人類の眼前に強く印せられんことを切望する次第であります

祝電 上海特別市市長 傅宗耀氏

こゝに日清支經濟懇談會の開催に當り祝辭を述べらるは欣快であり閣下及び各位に謝意の感銘を擡げること時に當つて、私は諸見の一つの儀儀をした

孫文の三民主義に誤られる日貨排斥を以つて實踐をなせる誤謬を深く謝するものである

今日の時下にあつては異常なる苦難はあるがこれを突破すべきためには三國の提携するほかにない、よろしく御指導を願ひたい

憶ひ起す去る大正十二年の大震災に際會して一致協力しその再建に大勇猛心を起されて今日に至つたを、我々はこれにならつて大上海建設に努力してゐる、こゝに上海市を代表して一言祝辭を述べざるを得たことを感謝す

# 一般問題、産業關係

議長 伍堂東京懇談會會長

(十一月廿六日午後二時開會 同四時散會)

## 豊富な資源を活用

## 世界制覇に進む

串田万藏氏 (日本經濟聯盟會代表) 本日は懇談會に代つて御挨拶申し上げます

今度、滿洲、蒙疆、北支那、中支那の各政府より代表の方々が集まられ東洋永遠の安定を目標として、新秩序、新經濟建設に寄與するために東京、大阪、福岡、新京各地に於て日清支經濟懇談會を開催されることはまことに欣快とするところであります、今後金融、資源開發、通商の緊密化を期するため既に金融に於いては全國一元化より着々とされてをり、資源開發には滿洲重工業會社、北支開發會社、中支振興

會社が備立され、貿易關係には一月に日清兩國の全面的關稅改正あり六月には北中支の關稅改正と三國相互貿易を密立したのである、これら緊密化の具體的方策は共存共榮のために有無相通するべく我國産業界は充分の覺悟があります、滿洲、北支、中支、蒙疆各政府の要路の各位もこの經濟結合のための經濟的、精神的關係の緊密化により東洋永遠の平和に貢獻されん故にこれからの一般問題、産業問題に就いても留意なき意見の交換を遂げられんとを切望致します

淺野良三氏 (日本經濟聯盟會代表) 懇談會會長

より一般問題についてとの御命令であります、問題が大でその任でありませんので主として重工業それも私の關係する鐵鋼業につき申上げます、申すまでもなく重工業の根本は鐵鋼業であり、鐵鋼業の元は鑛石、石炭の充足であります、この點東洋は從來恵まれぬ地位にあつたといはれてをりましたが最近に至り日本、滿洲及び支那は最も恵れんとす地位にあるといへます、故に日清支蒙の四ヶ國が共同して事に當れば世界一の鐵鋼業となるは左程遠い將來のことではないのであります、しかもそのためには各自の缺點を是正し相互間の利害を調整して協力してゆくことが第一條件であります、なほ重工業の發展には交通と労働政策が最も重要な先決問題であります、交通の方で申上げれば鐵道政策としては日本や米國で採用してゐるコンマリー

ジの方法か、又はソ邊邊りのごとき運賃に關係なく政策を行ふかの二つの方法が考へられ、勞働政策としては獨逸式、米國式或は日本式等がいはいれませんが、この點に關しては如何なる方法を執られるか各位の愚慮ない御意見を承り度いのであります

岸 信介氏 (滿洲國産業部長)

唯今重工業、鑛工業の問題に關し、交通の運賃に就いての滿洲その他大陸方面に對しての質問が御座りましたので一言お答へ申上げます

滿洲國の鐵道に關してはその實務は滿鐵が一元的に受託經營してゐるので現問題としては運賃交通政策は滿鐵がこれを決定施行するのであるから我々は希望を述べる、最近滿洲國産業開發の必要上望望してゐる點は直ちに採入れられて、最近全面的引下げを行つた

唯これの方向に就いて述べさせて置きます、從來滿鐵の運賃は一般的に高率であるといはれたが數次の引下げにより殊に最近の全面的運賃引下が行はれ運賃減を爲し一定距離以上に對して單一料金制を實施し奥地の資源開發に資することにしたが、同一層の引下げを徹底させる必要があると思ふ

これにより從來は奥地の資源開發に利用されなかつたが今後は充分活用されるであらう、更に雜物に對しては特に安價な料金としこれに

より從來利用出来なかつた雜物をも利用可能ならしめ——即ち重工業の鑛産、石炭の利用は從來以上に活用され、これは將來の方向を指示せるものであり、今後益々この方向に向ふであらうと思ふ

これは滿洲國の要項であり、實務は滿鐵を通じて行はれることゝなるのであります

股 同氏 (中華民國臨時政府建設總署長官)

鄂北の重工業につ

いては未だ詳細な計畫の成立をみてゐないから具體的に申上げられぬが、重工業の發達に資す交通政策としては運河の利用につき専門家によつて研究中であります、更に道路についての對策についても考へてをります、しかし未だ具體的に運賃政策までは申上げ兼ねますが、滿鐵のとつた政策は我々の方にも大いに參考となりませう

竺綬卿氏 (維新政府實業部庶務司長)

中支那の重工業に就い

て申上げます、中支那は一般に運賃が高いのです、次に資源は相當豊富であります、江西省のマンガン、浙江、安徽省の重石、安徽省の鑛、石炭(中興炭)あり良質のものが産出する

例へば江西省の工法によるマンガンの運賃は漢口に來るに廿弗内外し、浙江省、上海間は冬はトン當り十二弗五十仙、春は十弗であり之

は交通—水運の關係上春の増水季は運輸に便利であり冬の減水季には高いといつたやうに統一が無いのである

然し豊富なる資源、交通關係から見ても今後は充分發展の餘地があると思ひます、そしてこれの作業は現地に於てなされるのが良いのであるが、ここで問題となるのは現在資金設備を持たないことであるが、船中を確保させる爲には是非これを作り、且つ豊富なる勞働力を利用してその他のものはその他で處理させる爲の適案を研究中である

關口保氏 (農林部委員會議務顧問)

鑛産、石炭の開發に

ついては單に鑛産のみに限らず、北支全圖に北支開發會社の指導の下に一元的な開發が行はれると思ひます、石炭についてのみに申せば、大同炭といふ大物があります、しかし今日では未だ極めて原始的な方法で採掘されてゐるので今後の開發には電力、機材等の供給が肝要であります、我々としては相當の對日供給量を望んでゐるが、現在の輸送力では不十分です、是非とも専用鐵路が必要で目下現地では考慮してをります、更に龍烟鑛の鑛、石炭の開發であります、この開發計畫は目下關係各方面で交渉中であり、要するに鑛、石炭の開發は輸送のみならず、材料關係も考慮して進む方針で、この點に關しては日本側の調力を御願ひしなければなりません

王子惠氏 (維新政府實業部長) 維新政府は未だ成立が新しく行政區域が判然しないし、殊に上海の如きは論中に歐國を持つ状態でありませう

故に重工業に就いては未だ成案を得るに至つてゐないが緊急對策は講じて來た、元來支那は農業國であるが、中支那の行政區域である江蘇、浙江、安徽省は比較的鑛産の發達した所でありませう

鑛産に關しては充分の關心を持つてゐて、既に三月廿八日維新政府の成立後幾早く四月八日には中支開發株式會社を設立しこれで鐵道を以て將來の鑛産への方針を決めるに至つたのです、この鐵道方針は他産業にも同様であり、先づこれを第一歩として、これの雜物を掘るためには會社は鐵道を以つて爲されませうが、然し現在は鑛區が歐國との境にあり今日までは未だ成果を擧げてゐませんが近く期待に關ひ得ると思ひます、交通政策は未だ判然としてはゐないが、水路として揚子江があり、陸路として公路(國道)がありこれを利用して目前の工作も比較的安易にやれると思ふし將來への大目的は判然としてゐる状態です

吉田政治氏 (上海日本通工會事務所員)

日支の經濟提携は

根本的には自給の調整、經營(物と人双方)の協力であると考へませう

すが、如何なる仕事から始めるかは、勿論重工業も必要ではあります  
が、支那に於ては輕工業の方が可能性が有ると思へます、たゞ如何なる  
事業をやる場合も、それが日支間で相剋を生じないやうに注意すべ  
きであります、なほ、先ほどから云はれた運輸交通問題については支  
那は兩船北馬の言葉通り充分解決し得る便利があります、また労働問  
題も中支方面は賃銀、労働力共に、日本、滿洲とは異つた特殊事情が  
ありますので、この點についても特別の考慮を必要とすると思ひます

今井五介氏 (片倉製糸社長)

御指圖によりこの席に立ち  
ました、私け午前中閣下各位の御説辭を伺ひ何れも共鳴する次第で  
して極めて簡單に申し上げます

呂蒙責備下の祝辭の一端によれば新國家は長足の進歩をして獨立國  
家として立派になつたとは喜ばしい次第であります、惟ふに國家が急  
激に發展したことは如何かと云へば、國家建設に當つて小異を捨て、  
大同に就き、議論を捨て、實行した結果であります

更に日支事變の勃發に當り事變を起さねばならなかつた所以は、數  
次の首相聲明で明らかである如く支那民衆と戦ふのではなく滿洲に  
對してあります、今幸に滿洲、蒙疆、中北支が提携して共存共榮の  
ために協力するならば、そしてこの協定は民衆の安定を齎すでありま

せう

上海の戦勝の頃より私は考へてみたのですが、農業の面においては  
支那と日本の關係は非常に深いものがあり殊に蠶糸業問題は無錫を中  
心として古來唯一の副業として發達して來たのです

一方我國も古來より新業は發達し、又世界を通じて蠶糸業は、日支  
伊が主であり、佛は論ずるに足らないのでありますから、これ等三國  
の提携によつて安定されるのでありますして私はこの爲めに大いに努力  
して來たのであります

この三國一日文が相互に理解して相剋摩擦をせずにしたならば、新  
業の發達より農村を賑はすと考へ、中支の人々に胸襟を開いて諒解を  
求めこれを得、既に我々は華中蠶糸を設立して右の實現に乘出しこれ  
が圓滑に遂行されるはこれこそ本懇談會の主旨に副ふものであつて  
非常な喜びを感じます

今日支那にあつては地上、地下にあつて資源に富んでゐますが尙又  
支那に無いものもあります、技術其他に至つては多少缺けるものがあ  
りますが、蠶糸業は幸ひに新業の大切なる品種問題も戦火により蠶  
の出來ない人々に優秀な種紙を提供して共存共榮の實を齎したのであ  
ります

尙又技術、衛生、保健の爲めにも盡して來たが、かゝる感ぜない心  
で事業を共にする、固ち台辦によつてやるには最も適切なものである

と今更ながら思ふ次第であります

今後日滿支で行はれる事業は獨占的であることは不可で、お互に利  
害を知つてやられるべきであります

尙この蠶糸業問題の現況に對して一言すれば上海租界より第三者の  
權益的策動をするものがあり、取るに足らぬながら政府關係者は充  
分注意をされたい、既に我國富に加へる批判、滿洲國への過れる考へ  
方をする者は、これは憐れむべきものであります

嘗てある米國の記者が私に滿洲を背負込んで金が無く困るだらう  
と云ひましたが、米國などは金を積むことが國の富である考へるやも  
知れないが、我國は決して金を積んで置かず、富はこれが潜在力たる  
生産力の活動にあるのである

又よく歐戰もよく云はれるとであるがこれは決して心配はいらな  
い、福烟、茂山の話を聞いて安心すべきであります

以上簡單ながら私の平素の抱負の片鱗を述べさせて頂いたとにお禮  
申上げます

安藤廣太郎氏

(西ヶ原農事試験場長)

農業は國民の

主要食料を供給すると共に工業用原料を供給するを原則としてゐる、  
日滿支間に於て農業生産力を豊富にすることは三國の經濟力を高める  
ことでもあります、故にこれらの協で農業を提携して生産力を増大する

ことは當然の策なのであります、その生産力増大の方法として各國  
獨自の方法を執ることも一つの方法ではあるが、互に競争の形になれ  
ば共に發展する難いものがありますので矢張り日滿支相互に提携し協  
してゆくことは絶對必要であります、すなはち米は日本では自給し得、  
小麦もまた昭和七年以來自給出來る、で事變下でも食料の點では何等  
不安を持たないのは御承知の通りであります、しかし一方、綿、羊  
毛の如きは日本で生産出來ません、これは滿支において生産可能なも  
のです、故に協の爲めには

- 一、自給程度の生産
- 二、相互の不足を補ふ、有無相通する方法
- 三、農産物の第三國輸出に際し内部競争を避けること

を日滿支が共通に遵守すべき原則として行くのであります、具體的に申  
上げますと、先づ米であります、米は自給出來、支那は多少不足して  
ゐるからとて、これを日本が補助すれば簡單に済むやうに考へられま  
すが、これは將來に悪影響を及ぼします、支那の不足分は支那で増産  
を圖るべきであります、次に棉花で御承知のごとく日本は棉花非生産  
國で米國を中心に外棉を輸入してをります、その外棉も支那産は極め  
て少いものです、故に滿支におかれて棉花を増産され日本に輸入する  
方法を積極的に期待してをります、もつとも滿洲國では既に棉花の積  
極的な増産をやつてをられると考へますが、支那でも増産されること  
を希望します、支那棉の増産は技術的はけつして不可能でないことを

過ぎましたが如何なもので御座いませう、なほかうした棉花の増産は延いては支那農村の復興策としても大變役立つのではないかと考へてをります

また綿羊の増産計畫も關係當局で看々行はれてゐると思ひますが、今後はどうし日本への供給を希望いたします、なほ品質改良については困難な事業とは思ひますが、折角の御努力を御願ひいたします、次に茶、生糸であります、これは日本でも重要な輸出品となつてをります、それで支那品と海外市場での競争の起ることも豫想されまが、これは相互に不利なのみならず、却つて第三國品の進出機會を與へるやうなものですから、この點日滿支間で充分協議して第三國品に當るべきであると思ひます、なほこの他にも同様の性質をもつ作物があります、何れにせよ日滿支農業の今後の方針は協議が第一であります、ことに滿支間では農民が全國民の四分の三を占めるといはれるのですから、この點につき滿支蒙の御意見を伺ひ度いと存じます

岸信介氏

唯今安藤博士より日滿支の共存共榮に就いてのお話がありました、唯なる農業問題に限らず全産業に及ぼすべきであると考へます

幸に滿洲國は氣候風土よりして日本と性質しないのでをります、充分の注意を拂つてをります、例へば米の問題にしても現在北滿にあつ

ては日本人の移民、朝鮮人の移民が増加によつて米の増産計畫が着々進行しつゝ、ありますが内地の米作と無益な競争を避ける爲め既に米穀統制法を設定し更に水田開發に許可證を採用して米の生産統制に當り又配給方面では滿洲糧食會社を設立して配給のコントロールを圖り國家の完全なる統制下に置いてあります、更に棉花、羊毛等については日滿支三國間で適地適作主義で増産を圖り有無相通せざる必要があり、滿洲國では五ヶ年計畫に基き棉花、羊毛、大豆、高粱の増産進行をするつもりです

然し從來の五ヶ年計畫は北中支に對する關係を考へられてゐなかつたので今日となつては無理をしてまで棉花の増産計畫を立てたが支那事變により棉花に適する北支、中支が東西プロツクに参加した上は將來は滿洲の棉花増産計畫は適當に變更するつもりである

即ち棉花は北支、中支に委ね、滿洲では北支、中支に必要とする食糧の耕作に従事すべきである、滿洲五ヶ年計畫の遂行に對しては大所高所より目を廣く開いて實行する心掛けであります

王子惠氏

只今安藤さんからお話の農業について維新政府でも種々復舊工作を進めてをります、中南支の農業は稻作、蔬菜、魚牧が中心であります、昨年の米作は戦争の影響で全然駄目でありました、しかし本年は戦争下であり乍ら平年作に近く反當り收穫は八〇%を擧げまして豫想外の豊作で農民は喜々として働いてをります、次に魚

牧ですが、魚牧は中支農民の主要な副業で養魚池だけで二萬ヶ所あります、だが今年幼魚養成地が畿内地区に多くある關係から幼魚の下流が少く收穫は平年の三〇—四〇%に過ぎませんでした、茶は中支特産品であります、栽培地は未だ府政撤地減にもありますが、これは左隣の影響はあります、更に蠶業は今年戦争中のため蠶種不足で四〇—五〇%の收穫であつたが、豫想外に良かったと思へます

米、小麦の供給は全支那に亘り不足してゐることは事實であります、米の質は極めて上等であるが、多少の輸入はやむなかつた、しかし一〇—二〇%の増産は充分可能で、將來は湖沼の改良所を埋立て、湖田の擴張を圖る計畫であります、なほ灌漑用の水は御承知の如く豊富であり、また最近日本の産業組合のごとき合作社計畫により、これを政府と民間の仲介機關として新農業のため力を注いでゐるものであります

關口保氏

羊毛に就いて少しく希望を申し上げます、古來支那羊毛と云はれたものも質は蒙國羊毛であります

毎年約三千万斤の出廻りがありますが、現在の蒙國地境より蒙國、青海方面から包頭を通じて河北、京津に出てゐる筈ですから治安の回復と共に羊毛の出廻りは激増するものと思ひます、蒙國の牧畜の改良は今後の主要な問題であり、滿洲も試験時代であり、品種も今後に伴つて時代であり、かつ羊毛の生産時代は相當長い時代を要する

と思ひます

現在では原始羊毛が多数出でこの大部分は獨逸商人の手によつて蒙國方面に輸出されてをります、今日では邊境より出るのは治安關係で一視控を來たしてゐる出廻りが無くなつてをりますが、邊境方面からの出廻りを促進するためには日本雜貨の進出によらねばならないのであります

又現在は羊毛の大部分は日本に入らず他國に行つてをりますが、この主なる原因は品質が悪いのと羊毛の宣傳の爲めといふ點にある、改良羊毛が短時日で出来ないとすればこれへの對策は充分問題化する必要があり、問題は如何にして蒙國の太い支那羊毛を日本で消化するかにかゝつてゐる、であるからこの爲には簡便その他を使用して日本の機械に合ふ様な技術的研究が必要であり、日本國の絶大なる援助をお願ひしたい

謝子夷氏

(中華民國臨時政府實業部科長) 北支は棉花の産地でことに山東、山西、河北の三省の生産は極めて良好で充分自給し得る上になほ多少の輸出力もあります、しかし惜むらくは品質が悪く検査に不合格が多いのであります、日本は數億圓の棉花を外國から輸入してゐられるが、日支提携の上からも、之を専ら支那から買入れ

るやうにして質を度い、品質の改良及び取締のためには産地の中心となる蒙國に検査所を設けてゐる次第であります

股 同氏 日滿支經濟プロツクの農業問題に就いては総合的な意見がありますが今日は時間が無いので後日時間をもつてゆつくりやりたいと思ひます

# 金融爲替關係

議長 伍堂東京懇談會會長

(十一月廿四日午前十時)  
開會正午散會

## 通貨ブロック

### 確立が急を要す

津島壽一氏 (日本銀行副總裁) 今日こゝに日滿支經濟懇談會の開催に深くお喜びを申上げる次第であります、日滿支經濟は極めて多岐多様であります、就中金匯及び通貨、爲替問題の重要性は申上げるまでもなく今日特にこの問題を提示されたことは喜びに堪へません、しかし本問題には關係各方面の權威が夫々論議される筈ですが

ら、私は日本銀行の立場から本邦金融状況を御報告します  
今事變の財界への影響は輕微ではないが、事變下における金融界の推移は頗る順調であります、すなはち事變財政の運行には何等支障なく生産補充資金の調達も順調であり、この點に關しては特に滿支蒙の方々には数字的に申上げるとにします、先づ事變勃發以來本年十月末現在までの政府の資金撤布超過は四十九億圓に達しましたが、これ等は各種金融機關の蓄積となりまして銀行預金の増加三十一億圓、郵便貯金また八億圓、累計三十九億圓の激増となつたのであります、そしてそれらは大部分公債消化、生産補充資金に向けられました、すなはち同期間中の生産補充資金は株式拂込二十五億二千萬圓、社債公債十二億三千萬圓、合計三十七億五千萬圓に及んだのであります  
かゝる金融界の順調な推移は第一には國民の時局認識の愛國心と我々の金融機構の整備にも上りますが、根本的には我が經濟力の強靱性にあると信ずるのであります  
我が經濟力特に金融力の事變下の推移について種々取沙汰する向きもありませんが、斯かる言が全然事實を解し得ない謬言であることは以上のことから證明するものであります、今後政府の各種金融政策に金融機關は順應し  
一、資金調整法の公正なる運用  
二、低金利の維持  
三、日銀の公債政策の堅持

#### 四、通貨の信用對外的價值の維持

のため一致結束して更に強化されんことを要望致す次第であります、更に滿洲國の金融に關して一言質問致します、即ち滿洲國産業の飛躍的發展は列國羨望の的であり、短期間に金融機構は整備され、就中通貨は圓に對して内外共等價に連結されて堅固な信用を維持してをります、これは日滿經濟一體の發展に資すること誠に大であります、なほ今後滿洲國の産業資金について更に將來日本市場に於て必要とする額も大であると思へますが、この點に關し滿洲國側の御意見をお伺ひ致しますのであります

次に中國の金融について所見を述べます、事變中にも拘らず中國の經濟開發が具體化されてゐることは同慶の至りでこの開發事業に要する資金も巨額を豫想されますが、日本、滿洲、中國の産業資金については全部統制して圓滑を期すべきで、中國においても滿洲國と同様に日本金融機關との緊密な提携が肝要であると存じます、なほ中國には北支に聯合準備銀行、蒙疆銀行の兩行が設立せられ發行銀行として順調な發展をみつゝあることは慶賀に堪へませんが左の件につき夫

夫當事者の御意見が伺ひ度い  
一、中國聯合準備銀行、蒙疆銀行に於ける實情  
一、中支方面の金融問題、とくに圓通貨の不合理  
要するに日滿支の經濟提携は金融、爲替、通貨がその動脈であり、圓を等價に流通せしめることが肝要であると存じます

#### 大久保利謙氏 (横濱正金銀行頭取)

議長指名によりまし

て爲替問題に就いて一言申し上げます  
國際金融問題に就いて日滿支の協力により圓滑を期するは言を俟たないところでありませす  
そしてこの地域内は等價通貨によつて連繫され日滿支三國の通貨政策が圓を基準として極めて圓滑に行はれてゐる點は同慶の至りでありませす、この際一層三國資金の圓滑なる流通に協力しなければならぬと思ひます

即ち長期經濟運動の進行につれ物資需要の増は言を俟たず、こゝに更なる經濟ブロックが出来ても直ちに國防資金の自給自足が出来るものではなく當分の間は外國から物資を求めねばならないのです、到底直ちに日滿支三國のみでは圓へないものであり、進んで凡く世界に物資を求め、金融を求めねばならないのです、このためには外貨の需要、準備を防ぎ、必要なる物資供給のために留保したければならぬのです

このためには日滿支三國が協力して爲替政策に對し相互に調協を開いて力を盡さねばならないのです、右の見地から我國は概して圓の對外價值の維持を強め、萬全の努力を拂ひ次のごとき處置を講じて目的達成に努めつゝあるべきであります、既に準備金承知のことながら圓を迫つて爲替工作に就いて述べます、即ち昭和七年資本準備防止法に繼

を設けた爲替管理法の方法は翌年の爲替管理法の立法によつて一段と強化されました

今事變の勃發と共に國際收支に一層の注意を圖り爲替管理は徹底化し、不要不急品の輸入を防止し

- 一、非常時局に必要な物資
- 二、輸出商品用原料
- 三、生産力擴充に必要な物資

の輸入には最大の努力を拂つて來ました、これら所要物資の輸入を助けるための外資補充策の必要上、昭和十二年八月産金法の實施を見、新産金の増加を圖りつゝ、更に一方日銀其他の金準備の評價により國際收支に供し、爲替銀行に對しては日銀により海外向爲替相場協定の下に海外爲替市場統一の實を擧げ海外貿易に貢獻しつゝあるのであります

又日銀は本年八月には正貨準備金中より三億圓の外國爲替準備金を新設しましたが、これは輸出商品原料輸入の潤滑のために行はれ、この利用によつて原料輸入に遺憾なきを期しつゝあります

同時に爲替銀行間の資金偏在の弊を防ぐために日銀に爲替資金を集申し、各銀行より集められた爲替により外貨の潤滑なる配分を圖るのであります、これらのいろ／＼なる手段により國民一致協力し、長期建設に對する需要資金の蓄積に益々努めつゝあるのであります、滿洲國もその爲替政策に就いては既に着手され、既述の我々の手段と同様爲替政策に熱心に努力しつゝあり、又中支、北支に於ては戦時末だを

さまざま通貨問題は途上にありこれが解決までは幾多の變遷があると思はれますが、この幣制、爲替政策の確立には十分に協力してやる必要があると思ひます

要するに刻下の急務は長期建設のために資金の充實を圖らねばならぬ、このために各國とも十分に協力一致して目的のために努力されたい、これに對しては先程津島氏からの話にもある通り各國からの御意見が出ると思はれますが、我國の外國爲替政策に採つた手段方法を羅列致しまして皆様の御協力をお願ひする次第であります

松原純一氏(朝鮮銀行總裁)

日滿支經濟提携のためには通貨プロットの結成が極めて重要で、滿洲國は滿洲國成立までは各種の通貨が流通し紊亂を極めてをりましたが、滿洲中央銀行の設立により通貨が統一され今日では日本金圓を完全にリンクして愈々兩國の關係は緊密となりました、また北支、蒙疆にも夫々中央銀行により通貨統一開券パールの實行をみつゝあります、たゞ中支の通貨問題解決は仲々困難であります、大體かくして金圓プロットは結成されたのであります

朝鮮銀行は二十數年前より滿洲、北支に支店を設けてをりました、以上のことと統一の工作が着々進みつゝありますので鮮銀券は目下回收を行つてゐます

なほ近年朝鮮は地下資源の開發等より産業各部門に亘り活況を呈し

てをります、今後は日滿支間の中間連絡地帯として重要な地位を占むるに至りましたので私共もなほ一層の努力を期す覚悟であります

明石照男氏(第一銀行頭取)

既にいろ／＼述べられてゐるが、津島日銀副總裁の要書として普通銀行側からとしての考へを述べさせて頂きます

東亞の情勢が日々新しく東亞の新秩序が生れんとしてゐる、我國經濟界は東亞に起る事件によつて常に新段階に飛躍してゐます、今また滿洲事變、支那事變が我國經濟界に新段階を劃さうとしてゐます

我國金融界も明治六年第一國立銀行が創立し中央銀行としての日銀は明治十五年に設立以來僅か半世紀の間に各種金融機關が整備して爾來近代産業界を助け幾多の困難を克服して來まして現在日銀、正金、勸業、興業、鮮銀、農商等の特殊銀行を初めとして三百四十餘行の普通銀行、七十餘の貯蓄銀行のほか信託會社、生命保險會社が金融界を形成し、日銀初め各種銀行は經濟的變改のうちにも極めて健實に發展して來たのであります

今、普通銀行の發展を見るのに、昭和六年上半年期に於ける銀行預金高は八十七億圓であつたが、本年十月現在では百四十一億圓に達して僅か七年間に五十餘億の増加である

ひるがへつて滿洲に於ても次第に堅實化し、滿洲中央銀行、滿洲興

業銀行が整備し近代國家としての面目を備へて來、蒙疆も中央銀行の要請銀行があり現在發行券高數千萬圓となり、又北支那には聯銀が本年一月に生れ多くの發行券を見るに至り、着々金融工作に努力してゐられる、新しく基礎工作が完成しつゝあるのであります

我國は過去半世紀間に幾多の試練を経て來てをります、各國の金融工作が完備するまで相當の時日が立つと思はれますが、各國協力によつてなされるならば、各國がバネ／＼でやるより早く出来るのけ必然であります

我國の銀行は滿洲は勿論中國聯銀にも充分の協力を致す覚悟であります、然し時局は未だ重大であり、將は地方政權に陥ちたが外國の援助により未だ頑強つてゐる故、經濟工作に對する我等の任務は重大であります

滿洲では五ヶ年計畫は着々と實行しつゝあるが、今事變によりこれが改正されて來ました、

中支振興、北支開發會社は來月上旬創立されるし、滿洲五ヶ年計畫は少なからざる資金を要するが、然し何れも實業發展なる國土を有する故、我國技術によつて協力し堅忍持久すれば東亞の平和が來るであらう、これにより東亞の建設は幾多の困難あることを我々金融業者も覺悟してをります、各國の立場より共に働ませねばならないと思ひます

最後に私事にわたりますが大正三年故郷澤翁が第一銀行頭取時代に中支を旅行された時、英文と中日商業會社を作り論議による算盤統一化を唱へたが、この精神によつてなされるべきであると思ひます、然し中日商業會社は失敗しましたが、今日これが再建の曙光を見たる時、誰しもこれが達成を希望する次第であります

中川末吉氏 (日本經濟聯盟會評議員) 自給自足を建前とする日清支那經濟プロツクの開拓には遠所適業が絶対に必要であることは申すまでもありません、プロツク内各國の工業の競争的立場になることは明白くない、即ち滿洲にまたは北支における際、石炭の如き重工業、穀類、中支における農産物の如く各々適所に適業を起す方法を採り、これに日本の資本と技術を投ずるといふやうに御考慮を願ひ度い、各々が重工業にも輕工業にも投資する方法は將來に根柢を築す感があります、工業金融についてはこの二項投資を充分注意すべきことをこの機會に一言申述べます

田中鐵三郎氏 (滿洲中央銀行總裁) 日本一般の金融状態爲替政策、内閣銀行等に就いては極めて順調なる経過を辿れることと承り慶賀の至りであり、我々滿洲に仕事をしつゝる者は日本の情勢推移に就いて何ひたいと願望してゐたことが今その機會を得て喜ばしい次第であります、先程滿洲の進展に就いてお話を申しましたが、最近特に各方面を御觀察の方々が多く、その實情を觀察され歐米よりも

多敷見えられたがその實情より極めて正しい認識を持つて知られてるやうであります

滿洲國以來日は進いが既にその第一期の建設工作を終へ今や第二期の充實發展の段階に進んでをり、産業、交通部門は順調に付かどり經濟界は漸次的發展を遂げるに至り、事業會社數三千六百以上あり、公稱資本金三十億に達しこれは數年前に比較するとその騰貴がわかる、金融界でも一般經濟を反映してその結果金融機構も多々の改善をされて今日までの爲程において繁榮順調し、内容も目と共に充實し、銀行預金、貸出等に於ても數年前に比して非常なる増加を來しその他爲替送金取扱數、手形交換高等の計數においても豫期以上の状態にあり、これらの経過は生産力の増加、外國資金の收得の増加等は國力の進展を物語るものである、又先に述べた滿洲國幣であるが滿洲國幣前は非常なる多くの通貨が雜然たるものであり昨年六月名實共に整理され、外國正貨も昨年未整理され、これで國幣の一元化も遂行され流通範圍も擴張されたのである

その後蒙蒙、北支にも流通されて來たが、これは滿洲中央銀行として滿洲國幣がこれらの地方に入るのはその國幣關係上面白いので一應回収に努めてゐる、斯くて日清間の通貨の回収は遂行され通貨政策の維持、実行されつゝ、あるは喜ばしいことでもあります、なほ滿洲國では先般來爲替管理に就て滿洲、關東州の統一徹底に努力してゐ

る、又日本と同じく外貨を中銀に集中することにも努めをり、國內資金流動も實行中である、更に東亞の新事態に對應、プロツク内通貨政策の萬全を期する意味から中銀の營業所を増設し昨年十月より東京にその擴張家口に今秋から天津、北京においても開設し、これは三國關係に順應するための通貨政策上なされたのである、滿洲の金利問題は從來日本側の低金利政策に呼應すべく各地處毎に異なる處々であつたが

妥當なる金利引下げをすべく金利統制に乗出し、妥當なる金利水準を求めそこに積極的に誘導せしめる一方その實行を徹底せしめることに全力を挙げ、中銀及び各般の金融機關を動員してやつてゐる、一般金融通貨政策は各機關に足並みを整へて行くべく、この操作を進めてをり、このために中央銀行相互間の連絡を圖る必要ありとして日銀とも政策上のみならず實務に於ても緊密になされ金融工作が便宜を交けてゐる點を謝します、日清間の資金流通關係は大いに意を用ひてをり滿洲開發資金の必要額、計畫に就いては日本市場と相連絡して國境に運びたいと思つてをります、これは蒙蒙、北支にも同主旨で相連絡して行きたいと思ひます、全滿の産業開發は東亞の新滿洲三國協力に最も急務であります故一應産業開發に努力しこれが資材資金を必要とするが、有知適切に利用すべく滿洲開發資金にては不足である故に一日本の御援助に俟たねはならぬ故よろしくお願ひしたい、最後に、常に綜合的工作に立脚して行きたいと考へる故斯かる發言を種々與へられ

れは幸ひであります

吉田政治氏 (上海日本商工會事務所) 長期發展の中心點は支那通貨の問題であると思ふ、これにつき中支僑の意見を種々御報告したいのですが、極めて短時間の時間しか與へられてゐないとは残念であります

中支における通貨は現在も依然法幣が相當の力を有してをります、現在法幣の流通高は約十八億であり近時漸次減少し、相場もかつての一志十二片から現在八片までに下落しました、しかしこの八片は漢口降格後と雖も依然維持されてゐるのであります、これは支那銀行及び英國銀行筋が盛んに爲替操作を行ふこと及び滿洲政府がデフレーション政策をとり、又一面支那の對外輸出が依然出超を示すことに原因するものと思はれます、從つてこの法幣の價值は充分このまゝで推移すると見られますが、しかし將來法幣の可能性は充分あります、それは幣政の紙幣濫發に加ふるに輸入の増加、物價昂騰、通貨の都市東中銀向等が法幣騰貴の原因と考へられるからであります

しかし今直ちに法幣を騰貴せしめるの利害得失を輕々に斷ずるわけにはいきませんが、法幣の對策としては理想的には日清支共通の新貨幣をもつて代へるべきであるが、當面の今種の對策としては二つの方法があります、その一つは現在北支、中支に流通してゐる國幣發交は並券も法幣につれて下落してゐるのでこれを防ぐ方法を講ずることの



必要であります、なほ新通貨は日清支那通貨ブロックの上立つもので  
場合によつては列國の参加も得、對外的價值維持のため外貨の用意も  
必要とする考へます、申支における圓價の騰貴についても折角努力  
中であり最近漸次回復して來ました、なほ圓貨について内地同様の統  
制は不可で、より適切な方法が必要であります

殷同氏 中國銀行が出來てから河北においては現在の發行高  
一億一千五百萬圓に達してをり、河北に流通してゐる實銀の通貨は三  
億から三億五千萬圓とみられてゐるから、實銀券はその半分を占めてゐ  
る譯である、北支の通貨政策にいろ／＼あるが問題は治安工作にあ  
り、これに伴はない通貨政策はあり得ない、法幣崩壊の後始末はつか  
ず、現在の状態では奥地の田舎では實銀券は持たずに依然法幣で取引  
されてゐてその阻害される所多い、故に通貨政策は所期の如く實行し  
得るか如何かは疑問である、法幣の切下げに就いては慎重に忍び強く  
かゝらねばならない、これは豫想以上の經濟的影響がある、未だ發達  
の域に達してゐないが通貨の國內的價值は、輸出入關係及び國內物資  
に對する對外國關係—國際收支によつてきめられるもので、在外資金を  
必ずしも必要とするものではないと考へられる、日清支の資金統制に  
就いては過渡的時代にあつては整備された時代と同一ではないと考へ  
られるのであります

寺崎英雄氏 (農銀銀行副總裁)

金融政策について蒙國の現

況を申上げます、蒙國地域は資源豊富であつてその主なるものは礦物  
資源、羊毛等の獸毛、獸皮及び阿片、鹽等であり、或中礦物資源  
には石炭、鐵礦、石油は豊富であるが、他の未開発のものもなほ多く  
存在します、之ら蒙國資源の特徴とするところは全くの處女資源であ  
り外國との關係が少いことであり、そして日本の軍需資材供給地  
として價値が重大であります、しかしこの資源開發には大資本を必要  
としますが、蒙國は文化程度も低く、殊に永らく薩崗山の採取點とな  
つて投資力は極めて少ないのであります、従つて日本の資本的協力を  
を切望致す次第で、幸ひにして蒙國の治安秩序は極めて良好で技術と  
資金が流入すれば資源開發は容易に實行し得る状態にあります、なほ  
現在蒙國銀行は開發會社の一部資金を提供してをり、今後も開發資金  
の面に當る筈であります、蒙國銀行は創立第一周年を迎へ順調な経過  
を辿り蒙國地域における通貨の一元統一もほとんど完成をみました、  
即ち銀行券は本年初めの一千萬圓から六月には二千萬圓、更に九月末  
には三千萬圓を突破する發行をみました、そしてこれは金圓と完全に  
リンクして價値も安定して益々普及されてをります

なほ日清支那經濟ブロックにつき考へべき點は各地域における特殊事  
情を尊重して特異の發揮に努めさせ、更に日本は東洋の安定勢力であ  
り經濟力も大であるから日本を中心にブロックの結成確立を圖るべき  
であります、殊に蒙國は對外的に日本との關係が強く、又人心動向

は日本に依存する念強く、日本に對する信頼が深いのでありますから  
日本の資金、技術の進出を歓迎するものであります、蒙國の開發資金  
は日本へ供給する以外のものは極力輸出して外貨の流入を期する方針  
であります、建設資材にして日本よりの供給不可能なものは第三國  
より輸入しなければなりません、その際における支拂能力は豫想外ら  
現在の蒙國にはありませんのでこの點日本に於て適當な方法を採られ  
んことを希望致したいのであります

## 貿易交通關係其他

議長 伍堂東京懇談會會長

(十一月廿四日午後二時)  
(開會、同四時散會)

## 東亞各國の

## 需給を均衡化する

丁鑑修氏 (新京商工會會長)

午後の日曜に入りませう前に金

蒙問題に就いてちよつといはせて置きます、經濟、銀行の專門家がを  
られますが、素人の私から一言申上げ日清支の各位の調査をお願ひ  
申上げます、我蒙問題には日本、支那に於ても發布された爲替管理法  
があるが、この法律はお互の國家の間には妥協も出来るが、民間個人  
事業を起すに當りこの爲替法のために容易に認可されず、個人經營は  
破綻されたり、或はその事業の中止を餘儀なくされたりして阻害され  
る事態が各方面に見られるが、これは日本では勿論蒙國でも非常に困  
難させられてゐる、法律は機械の様なものであるが、將來の國家の經  
濟關係より國民經濟の關係に就いては充分考へねばならないと考へま  
す、法によつて水を止める式のみに就ては日本の金融、財政の關係方  
面で充分研究がお願ひしたい

向井忠晴氏 (三井物産常務)

日清支那内での貿易は各々の

立場を考慮し有無相通じて各自の利益を増進すべく行へば良いのであ  
りますが、この實行に當つては相當の困難を伴ふものと豫想されます  
例へば滿洲大豆の如き年産四百萬担に達するものは供給が濶裕である  
からいゝが、北支の棉、羊毛、長江筋の穀物、鹽、特にアンチモニ  
1等は生産者の生活が立つ程度で日本へ優先的に送る必要があるが、  
その場合も生産者の利益が合ふやうな合理的價段で日本へ供給される  
ことが肝要であると思ひます、第三國との關係は將來のことでは先づ考  
當つては四圍のみの調整を中心とすべきだと考へます、日清支那四ヶ

各産物を輸出して外貨を得、夫々の需要を充し開發資材を得る方法と、或ひは反對に日清支を一つの經濟單位として品物を通じて各需要を充して開發資材とする政策の二つを考へられます、この根本方針の何れかに定める必要があると思ひます

勿論純粹に一方によることは出来ないが、ある程度進行させるが、この兩者の何れかを主とするかによつて議論が分れます、前者によれば、別個の單位であるから別個により親善關係のみを宗として、親善開發との見方もあり、政策には合理的に見えるが、日清支經濟ブロックが唱道された建前には合致しないと思ひます、後者の方法はブロック化され現在はブロック内流通をし、ブロック資力によつて、その資源を開發し、お互に供給し得る範圍を擴大するのが正しいのではないかとと思ひます、勿論これは非難はあるが、即ちこれによつて日本本位になりはしないか、清支を害しはしないかと懸念され非難が起るかも知れないが、日本の建前が清支の利益を犧牲にするなどは考へてゐない、互しい資力からこれを提供し技術も出してゐるのは事實であり、國策も此處にあるのであります、經濟ブロックとなると多少のお互の間に犠牲になることは、これがブロック・メンバーの將來のためになるとはやらねばならないし日、清、蒙、支は將來は國境を越したやうな親善の關係にならなければならぬと思ひます、貿易の實情には必ずしもさうなつてはゐないが、本懇談會が契機となつてこれが認めら

れたら三國のためになると思ひます、唯ブロック經濟のみに急なる條り共倒れになる危険はあるが、これは各國の指導者の注意によつて防ぎたいと思ひます

竺綬卿氏 (中華民國維新政府實業部商工司長)

事變より中

支那の貿易は破壊されましたが現在段々回復をみて來ました、即ち新政府は交通に對して回復策をとりました結果鐵道は現在の所未だ軍事費用のみではありませんが、上海—南京間の開通をみましたし、水運も上海内河汽船の設立により揚子江流域の交通が改革され現在は九江まで通行し得るに至りました、事變前の全支那貿易は輸入九億五千萬弗、輸出七億三千萬弗であり、この揚子江流域がその六〇%を占めてゐたのであります、最近でも八月以來輸出で九月には輸入二千百萬弗、輸出二千七百萬弗と出超となつてをります、更に六月に實施した上海段の新税率は順調に推移して日貿易は著しく改善され、それに反し香港、廣東貿易は漸次萎縮して來ました、これは今後日清支貿易の上に好果を齎すものと思ひます、かくして中南支の貿易は段々立直つて來ましたが、たゞ日清關係で日本側が不自然な制限を行はずもう少し緩和して下さればなほ回調に行くと思ひます、ことに中支は特殊事情のため日本よりの資材輸入は必要な時でありますから、この點を考慮を希望致す次第であります

關口保氏

蒙蒙の貿易現狀を申上げれば、事變後、治安の確

立に努力してゐるが、實情調査には未だ日が淺くて、これの正確な數字は不明である、事變前を基礎として概況を述べて見ます、本年の政策は、大體昨年實質の上立つて行ふつもりです、事變前の輸出總額は一億三千萬元、輸入總額は六千萬元で出超七千萬元の狀態となつてゐます、そしてこれは、北京、天津及び日本への輸出と蒙蒙その他西北諸省へのものと二分することが出来るが、圓ブロック外の西北方面には輸出總額の約一割—一千三百萬元見當が輸出されてゐると見られ、從つて蒙蒙の輸出はこれを控除した一億一千七百萬元が大體輸出總額と見てよいと思ひます

輸入六千萬元も日本、北支からの多くの販貨の他に西北方面の羊毛、阿片、獸皮、藥草等で三千五百萬元があるので、總輸入はこれを差引いた二千五百萬元となるのであり、從つて輸出入總額は、輸出が一億一千七百萬元、輸入が二千五百萬元が現況であります、金融問題の際にも觸れたが、以上の數字は今後の未着手資源があり、この開發資源の進展を考へると根本的に變化し輸出入の總額は増大し、即ち日本への輸出、石炭の輸出の増大とその開發のための必要な機械の日本よりの輸入増加と相俟つて蒙蒙貿易は今後實際的發展を遂げるものと期待されてゐます、特に蒙蒙貿易の特殊事情から西北方面の貿易に就い

て一言述べます、蒙蒙の特殊産物も蒙蒙地域外から大部分—新疆方面—から入つて來てゐます、そしてこれに對しては輸入品から一千三百萬元の販貨によつてそれらを導入してゐるのであり具體的に云へば煙草、マッチ、陶器、棉花を送つて羊毛、阿片を引出してゐるのであります

今日では西北方面の治安が確立してゐる阻絶狀態であります、回復は包頭を蒙蒙貿易の中心市場として相當數額の販貨を仕向けねばならず、殊に日本から大半を入れねばならず、今日迄は北支からやつてゐたが今後は日本から來ないと西北貿易が順調に行かないと考へます、現在までは北支へは五千七百萬元の輸出と一千萬元の輸入狀態でありました、何れにせよ蒙蒙貿易は今後未着手資源の開發によつて増大することは必至であると思ひます

### 鐵道建設は

## 總て東洋人の手で

伊澤道雄氏 (滿鐵理事) 日清支那經濟ブロックにつき一言申

上げます、大陸産業開發に鐵道が重要件を持つことは過去における列國の大陸經營をみて明かであり、しかるに從來の大陸産業開發は歐米人の手によつてなされ、鐵道も亦歐米人の經營によるものが多かつたのでありますが、今後は東洋人の手により東洋經濟ブロックの經營が行はれるやうになつたのですから、鐵道經營も亦このブロックによつて行はれねばなりません

即ち大陸經營のため鐵道建設の必要なことは世界各國がその植民地經營に總經費の三分の一を要する鐵道建設を行つたことでも解るやうに、滿洲でも對滿投資十五億圓の三分の二は實に鐵道、港灣への設備費となつてゐるのであります、支那大陸があの豊富な農業資源を有し乍らも數度の飢饉に襲はれた事實も結局に於て鐵道未發達のためと考へられ産業の開發、文化の向上に對して鐵道建設の絶対必要は申すまでもなく、殊に治安安全からぬ論、特にその必要性を痛感するものであります、鐵道は國防線のみならず經濟線でもあり滿洲では産業線にあらずれば國防線にあらずといはれてゐるものであります、即ち本年上半期の収益状態は社額で二割五分、國有で五割の収入増であり、また貨物の輸送は三割の増加でありました、かくの如き情勢にあるのだから

支那大陸に於ても單に國防的見地からのみでなく經濟開發のために今後ますます鐵道を建設せねばならぬと思ひます、今日支那が一萬キロの鐵道しか有したことは經濟開發を完成し得ないもので、かつて孫逸仙が十萬哩の鐵道建設計畫を述べたこともけつして夢ではないのであります

なほ滿鐵は岸次長の説明にもあつたごとく再三運賃の値下げを行ひました、今後も鐵道、農産の振興のためには値下げする必要があると思ひます、更に支那鐵道の改良は運賃の引下げに始まるといはれますが、未だ實現されませんが、これは經營の不合理な點に原因の存するものと考へられますので、今後は日清支那經濟ブロック確立の上にて起つて改良されんことを希望する次第であります

大谷登氏 (日本郵船社長)

交通就中海上交通に就いて所見を述べ御參考に供し且つ御考慮を願ひたいと存じます、日清支の協力を就ては、各位の御意見にありますからこれには觸れずに、私はこのための方法への私見を述べます、惟ふに支那大陸の建設と開發には第一に資金と人材の活用が必要であります、日清支蒙ともに別にこれを持たぬとは云へないが、一時にすべての要求に應ずる丈の力一資金に

も人材にも恵まれてゐない、従つてこの持合せの資金、人材を最も有効に活用するのが東亞永遠の爲の策である、各國資源産業種目により自ら差あり三國一體となり殷同氏が指摘された如く相無相通する遊地産業主義とし觀念に意を用ひ急を要するものより比較的圓滑に資本の無駄使ひ、二重投資を避けることが必要であると思ひます、この點より、支那の船舶の大多數は日本の攻取のため、また自らこれを購置させ又は第三國に購入せしめ、又は第三國に賣却されたため全滿に近い状態であります、従つて支那海運のこれが回復及び更に近代海運を創設させねばならないが、それは一朝一夕で出来ないし、このためには相當の時日と資本を要しますから常分日本に依頼し、日本の手でこれを行はしめるのが適當と考へます

支那人は商務局經營をみても明確である如く海運業には餘り適してゐない、然るに日本は既に世界第三位の地位を確得し造船に、またその經營に世界的にその實力が認められてゐます、故に支那として考へるべきは、近代海運知識の養成、人材の育成、海軍法の吸收その他海運に就いて日本人に學ばねばならない

幸ひ日本は造船術、航海運術は一顧地を抜いてゐるから時至れ

ば、これに援助するが、それまでは日本海運は支那に代つてこれを遂行するのが妥當であると考へます、日本は幸ひに政府の指導よろしきを得今や六百萬噸に近い大船隊あり質、量に於て世界有數であり、當事者は東亞の新事態への準備を進めてゐるから日清支より第三國に對して充分の使命を果し得ます

今日の現状一産業その他に人材資源が必要な故日本海運に依存されるが良いと思ひます、諸般事情から當然支那より享受されるものが拒絶されてゐるが、將來は沿岸、揚子江航路に就ては滿支朝鮮の接援の下にされるところと思はれますが、これが又一般的壁を促進させる所以であると思ひます

中川正左氏 (日清實業協會常務理事)

陸上交通について申上げます、陸上交通は道路交通と鐵道交通であります、日清支に於ける都市主要道路は簡易でも良いから舗装し自動車交通の發達を期すべきであります

ソ聯は大規模鐵道を敷き積積主産を採つてをりますが思想的にもさうであつて欲しいものです、滿鐵の列車は既に北京まで入つたやうであります、更に一步を進め鞍山―北京―漢口まで通すべきだと

思ひます、

日滿支間の鐵道政策は何處までも直通であり、積替へ、乗替へのなきやうすべきことを切望致します

田 誠氏 (觀光局長)

貿易と觀光事業とは密接な關係にあり、現に我國は外人の渡來は四萬を越え輸入物品二千數百萬圓であり、これが國庫收支及び貿易進出に役立つのであります

觀光事業は國の紹介に役立つて、各國とも深い關心を拂つてゐます、殊に三國の代表は經濟開發にも觀光事業にも御注意を拂はれたい、昭和十年東洋觀光會議を開催し十一ヶ國代表を集めて行はれ、日、滿、蒙、支共に古代の文化を有る觀光地帯を持つてゐるので、すからこの點御考慮願ひたい

現に世界の旅行者のルートは大西洋から太平洋への傾向あり、東洋が世界觀光ルートとなつてゐる故に各國の協力的に觀光事業に提携される必要があると思ひます

東亞觀光ブロックを結成し、觀光宣傳の共同實施、交通路の完備、大觀光地への幹線道路、鐵道開闢等による將來の觀光事業を考慮さ

れたい

### 閉會の辭

伍堂日滿支經濟東京懇談會會長

本東京懇談會はこれを以つて閉會致します、今回の催しは日滿支蒙の代表たる經濟界の首腦者が一堂に會合し隨意なき意見を開陳した歴史的機會であり、かくの如き偉大なる成果を擧げ得ましたことは將來の四ヶ國經濟ブロックに對する進路を明示したものと思ひます、元來國際間の會合は競争を目的とするもので、かくの如き共同の利益につき語る會合は初めてあります、そして道義に基く新東亞の新秩序を齎すものであると確信致すものであります

## 大 阪 懇 談 會



日滿支經濟大阪懇談會

日滿支經濟大阪懇談會は十一月廿 追裡に會議が續行され第三日には六日より廿八日に至る三日間新大 遂に東京懇談會では病の爲め出席阪ホテルを會場として開催され日 を見なかつた買戻懇談會委員長も本產業界に於ける中心的生産力を 出席花を添へた 有する關西財界人悉く出席終始緊

### 總會

座長 大阪工業會理事長 片岡安氏

(十一月廿六日正午開會) (午後一時四十分散會)

## 各業種に亘り 自由企業を認めよ

角野久造氏 (日滿實業協會大阪支部常務理事) 今次の事變は決して單なる經濟侵略を目的とするものでなく、東亞永遠の平和確立、東亞民族興隆の爲の偉大なる現戰である點を明にして本論に入るものとします、先づ第一に國際聯合委員の方々に御願ひしたい、蒙國地帯は我國防共の第一線にたり、各位の實務は極めて重大なるものがあ